

UCLA-East Asian Library

JV8721.Z8 T65

ea



L 009 337 945 1

情爭米

ORIEN
LIBRA
JAPAN

1100

領事書 富田謙一著




行け南米へ！無限の寶庫は人の來りて
開くを待てり

赤手空拳の人行く可し資本家労働者へ
業家行く可し

氣候溫和にして風俗亦醇樸日本人の移住に最も適す



THE UNIVERSITY
OF CALIFORNIA
LOS ANGELES
CONTRIBUTED TO
THE JAPANESE
AMERICAN
RESEARCH PROJECT



Digitized by the Internet Archive
in 2015

日本の
新發展地

南
米
事
情



872
Z8T
J

Señor Kenichi Tomita

Mi estimado amigo:

He leído con mucho interés el libro que Vd. ha escrito y agradezco a Vd. las apreciaciones que hace sobre Chile.

Felicito a Vd. muy sinceramente.

Lo saluda su afmo.

Carlos Muñoz A.

チリ領事の書簡 譯文

謹啓

多大の興味を以て貴著拜見以て貴下が智利に關して爲され
たる御評價に對し奉謝候而して眞心より貴下を御祝福申上
候

頓首謹言

一九一五年三月

カルロス・ムニョス・アツチエ

富田謙一 殿

Señor Kenichi Tomita

Contestando á su estimable del 2 del presente mes me es grato felicitar á usted por la obra que sobre los países latinos americanos va usted á dar á luz próximamente. En la parte que se refiere al Perú, los datos y apreciaciones insertos son todos llenos de verdad y muy bien tratados.

Indudablemente su libro tiene que ser útil á los japoneses que tienen su mirada fija en la América Latina, y más que todo al intercambio comercial entre el Japón y los países citados en su libro.

De usted atento amigo y servidor.

拜啓

ペルー領事書簡 譯文

本月二日附貴輪拜誦近く貴下が世に出だされむとする
羅甸亞米利加諸國に關する御著に對し喜んで貴下を祝
福仕候而して秘露を説ける部分中の考證評價は何れも
皆眞に滿ち且つ極めて善く鹽梅せられ居り候

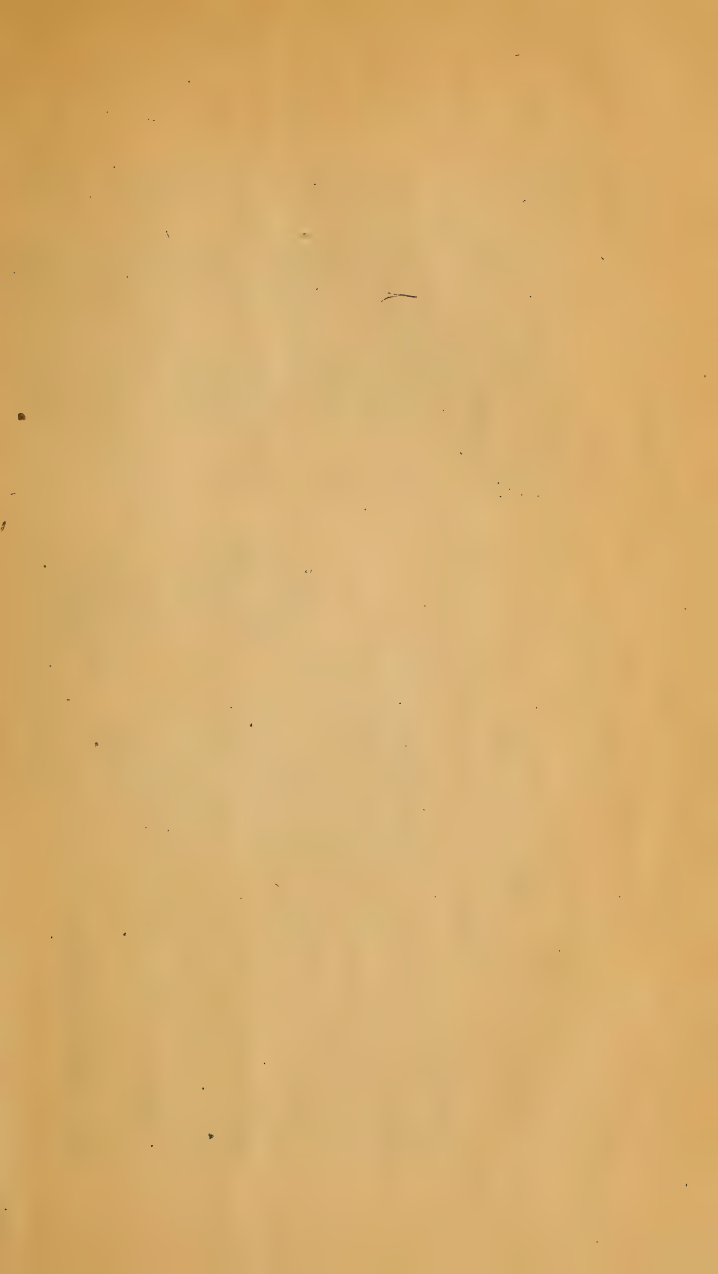
貴著は疑も無く羅甸亞米利加に注目すること確乎たる
日本人に對し有益ならざる可らず而して特に日本を貴
著中の諸國との間に於ける貿易に對して然りと被存候

恐懼謹言

一九一五年二月

フランシスコ・ア・ロアイサ

宮田謙一殿



南米の事情目次

(1)

第一編

緒論

.....一

第二編

國別論

第一章

墨西哥

一 風土

.....元

二 史要

.....二三

三 交通と都市

.....二五

四 農業

.....三三

第二章 秘露

五	生畜と林業	三六
六	鑛業	四〇
七	商工業	四二
八	貿易	四四
一	風土	六二
二	史要	七三
三	交通と都市	七七
四	農業	八二
五	生畜と林業	九六
六	鑛業	九九

第三章 智利

七	商工業	一〇六
八	貿易	一一五
一	風土	一二六
二	史要	一三三
三	交通と都市	一四〇
四	農業	一四二
五	生畜と林業	一四八
六	鑛業	一四八
七	商工業	一五五
八	貿易	一六八

第四章 亞爾然丁^{アルゼンチン}

一	風土	一八九
二	史要	一九六
三	交通と都市	一九六
四	農業	二〇三
五	生畜と林業	二〇九
六	鑛業	二一五
七	商工業	二二六
八	貿易	二四四

第五章 伯刺西爾^{アルペル}

第三編 結論

第一章 概論.....	二七九
-------------	-----

一 風土.....	二七七
二 史要.....	二四四
三 交通と都市.....	二四八
四 農業.....	二五二
五 生畜と林業.....	二五七
六 鑛業.....	二五九
七 商工業.....	二六一
八 貿易.....	二六九

第二章 渡航の心得……………二二

第一 渡航の種類……………二二

第二 渡航の準備……………二四

第三 乗船……………二六

第三章 労働を目的とする渡航……………二九

第一 自由移民と契約移民……………二九

第二 移民の状態……………二九

第三 労働移民終局の目的……………三〇

第四章 商工業を目的とする渡航……………三〇

附錄

南米諸國の貨幣

一	墨西哥	三二四
二	秘露	三二五
三	智利	三二七
四	亞爾然丁	三二九
五	伯刺西爾	三三三

日本の新發展地 南米事情

富田謙一著

第一編 緒論

一 南米は新世界中的新世界

氣運は實に不可抗力を有して居る。

彼の中世紀に於いて、全歐洲を隱蔽し了り、或は世界の終りの日を齎したのかと、轉た慷慨の士をして心痛窮まりなからしめた暗黒時代の一大妖雲も、磅礴として當時の天下に瀰漫し來つた新氣運の前には、宛ら朝暾に對する朝霧の如く、一掃されて了つた。後世の西洋史を繙く者も、ホツと一息吐いて胸撫て下す一節である。

歐洲おうれうをして、暗黒あんこくより光明くわうめいに向むかはしめたこの新氣運しんきうんとは、如何いかなるものであつたらうか。

詳しい觀察くわんさつは、之これを専門せんもんの歴史書れきししょに譲ゆづるとしても、我々われらは、茲こゝに先まづ、航海術かうかいじゆつの進歩しんぽと新大陸しんたいりくの發見はつけんなる特筆大書とくひつたいしよに値あひたするこの二事じは、當時たうじに於おける世界やかいの風潮ふうたうに、根本的こんぽんてきの革新かくしんを與あたへた第一だいいの烽火のろしである。近世史きんせいしの舞臺ぶたいに光榮多くわうえいおほき序幕じよまくを切きつて落おした大原因だいげんいんである。殊ことにこの航海術かうかいじゆつの進歩しんぽと新大陸しんたいりくの發見はつけんとに大おほいに與あつつて力ちからあつたのは、實じつに羅甸ラヂン民族みんぞくであつた。其その功績こうせきに至いたつては、歴史れきしの存在そんざいする限り、永久えいきうに忘れらるべくもなく、不斷ふだんの感謝かんしゃと無限むげんの讃辭さんじとを、全世界ぜんせかいから捧まげらる可べきである。

實際じつまい上文藝ぶんげいに、美術びじゆつに、商業しやうげふに、工業こうげふに、あらゆる點てんに互たつて、長ながき眠りねむりに落おちて居ゐた暗黒時代あんこくじだいの歐洲おうれうが、近世きんせいに到いたらんとする目醒めざめの時とき、その覺醒かくせいの先驅者せんくしやたる羅甸民族ラヂンみんぞくの勃々はつはつたる活動くわつどうの意氣いきは、其その偉大ゐだいなる足跡そくせきをして、既知きちの大陸たいりくにのみ印いん

ることに満足せしめては措かなかつた。特にかの西班牙人、葡萄牙人の如き、最も海外に發展した魁であつた。現時新大陸といひ、新世界と稱して、世界の富源地と目せられて居る亞米利加大洲の如き、實に當時彼等羅甸民族によつて發見された大陸であること、何人も知る如くである。

亞米利加大洲が彼等に依つて發見されると、今迄定まり切つた土にのみ、止むを得ず、跼蹐して居つた彼等は、滿潮の勢宛らに、澎湃として、此の大陸へと押し寄せた。時有つて動く潮の勢は、何物をも前に立つを得しめない。即ち一大潮流と湧き返つた羅甸民族なる潮流は、ヒタ寄りに迫り寄せて、新大陸に漲り返り、其の全土を席捲せねば止まぬ勢であつた。かくて、發見されたる新世界は、非常な勢を以て、發展を遂げたのである。

取り分け北米の南部に位する墨西哥より、中米にかけて南米大陸全部は、彼等羅甸民族割據の焦點であつた。現今我々が羅甸亞米利加と呼ぶのが即ちこれである。

由來この羅甸亞米利加なる名稱は、索遜亞米利加に相對したものであつて、索遜亞米利加を北米と呼び、羅甸亞米利加を南米と呼ぶのも其邊から出て居る。唯これを學問的に嚴格にいふ場合には、索遜民族の開發した亞米利加が索遜亞米利加であり、羅甸民族の開發した亞米利加が羅甸亞米利加と稱せらるべきである。

人類の棲息する世界の大陸を、歴史に逆上つて考へて見るならば、亞細亞大陸を先づ世界人類の起源的大陸だと考へねばならぬ。上古の歴史を成して居る要素は、一として此の老大陸を出でなかつた。即ち亞細亞は一切の文明の起源地である。この見地からすると、歐羅巴は人類の鍛鍊的大陸である。亞細亞で生れた文明は、歐洲に入つて、初めて鍛鍊され、成熟されたと見らるべきである。かくて、時を経、人智の進むに従つて、人類はこの圓熟を遂げた頭腦と手練とを宜しく運用すべき十分なる地域を必要とするに至つた。この必然的な要求が即ち近世文明の曙光となり、新大陸發見の導火線となつたと史家は見るのである。新大陸とは、いふ迄もなく南

北兩洲である。

然しながら、今から見ると、大陸發見などいふ事も、もう古い事で、新世界とはいふものゝ其の北部たる索遜亞米利加即ち北米の如きは、凡ての點に於いて最早所謂新世界臭味を失つて來て居る。その點に於いては到底羅甸亞米利加即ち南米の比較にならない。即ち、北米は、漸次舊大陸の性質を加味して行つて、聽ては新世界新大陸獨特の性質を失つて行くかと思はせるに反して、南米は、飽く迄も新大陸で飽く迄も新世界である。

實際に於いて、南米は夢の大陸である。その姿は宛然太古草昧の時代の如く、茫漠として何人も能く之れを想像し得ない。而かも、その茫々漠々たるところに南米獨特の世界があるのである。此の意味から見て、南米大陸を、新世界の新世界、新大陸の新大陸といふのである。

二 人口増加を如何にすべきか？

我が國は、舊大陸亞細亞の一角に踞踏する蕞爾たる島帝國である。奈何に最良眼に見ても、我が國土の貧弱を思はずには居られない。殊に世界的競争場裡に投げ出された今日は、深く内に之を省察せねばならぬこといふ迄もない。即ち國民の一人として、我國の現状一斑を窺知するの勞を惜んでは居られない。吾等は先づ第一に領土と人口の比例を考へて見る必要がある。

最近の編纂に成る内閣統計局の統計摘要に依れば、明治四十一年末に於いて、我が帝國の總面積は四萬三千四百五十八里三十八町平方、人口は六千五百六十八萬二千二百四十四人とある。だから其の一平方里の人口稠密度は丁度一千五百十一人の割合となつて居る。而して、右は新領土たる朝鮮、臺灣、澎湖島及樺太を含むからして、これから新領土を除けば、前記の數字中、面積は二萬四千七百九十四里三町

平方となり、人口は四千九百五十八萬八千八百一人に減じて、其の一平方里の人口は丁度二千人の割合を示すことになる。

吾々は以上の數字に依つて何を感じるであらう？ それは著者の説明を待つ迄も

ないことである。我が帝國の上の觀察は、之れを更に一步步進めなければならぬ。

上古時代の我が國は、豐葦原瑞穗國の示す如く農を以て立國の大本とした。當時は定めし豐饒雙びない國であつたに違ひない。けれども人口は、永久に其の儘では居なかつた。

今を距ること一千三百年前、推古天皇の朝に於いては、我が人口は凡そ五百萬程であつた。然るに、其の後平安朝の末頃には、早くも八百萬に増加して居つた。更に下つて、徳川時代には、最早や二千五百萬と激増した。これが明治に入ると非常な勢ひでその増加率を高めて居る。三十一年には四千三百七十六萬二千六百十五人に増加し、越えて五年後の三十六年には、更に著しく増殖して、四千六百七十三

萬二千一百三十八人といふ大きな數になつて居る。而して、此の數字が、更に五年を経た四十一年には、既記の如く、四千九百五十八萬八千八百一人（新領土を除く）に増殖して居るのである。而も、此の最後の數字さへ既に七年前のものとなつて居る。朝鮮を除くも猶年々約六十萬の増殖を爲しつゝあるわけである。此の勢を以て此の儘の勘定からすると、恐らく一億の數字を擧ぐるのも遠い將來ではあるまい。人口の増加率はそれとして、次に、吾々の主食物たる米に就いて考へて見たい。即ち、同じく内閣統計局の摘要書に依れば、我が帝國の主食物たる米の收穫高は、左に示すが如くである。

米作收穫高年次別

明治三十五年

三六、九四七、〇九一

石

同 三十六年

四六、四七三、二九八

同 三十七年

五一、四三〇、二二一

同 三十八年

三八、一七二、五六〇

同 三十九年

四六、三〇二、五三〇

同 四十年

四九、〇五二、〇六五

同 四十一年

五一、九三三、八九三

同 四十二年

五二、四三七、六六二

同 四十三年

四六、六三三、三七六

同 四十四年

五一、七二二、四三三

同 四十五年大正元年

五〇、二二七、一三二

數字は以上の如く吾人に示して居る。而して國土には限りがある。米を主食物と

する以上、米以外の副産物の如き數ふるに足らぬは今更いふ迄もない。即ち事實實

際、其の人口の増殖率が遙かに米作收穫上の増加率を越えて、全然兩者の提携が、

出來ない相談となつて居る。而して、或る程度迄、我が人口が、殆ど無限に増殖し

て行くとしたならば、今や國土の生産力が、殆ど極限にあらうといふ我が國の將來は、果して如何に成り行くことであらうか、心ある人の熟考すべき問題である。茲に至つてか、要するに、人道問題が起る。麵麩の問題が生ずる。これが机上の空論や研究を離れて、事實高潮に達する秋、社會問題も、労働問題も、政治問題も、一時に混雜つた返しに起つて来る。近代文明の行き詰まるところは即ち茲である。人口問題と、經濟問題である。要は人口問題の解決に歸すること、即ち數千言を駄するまでもないことである。必ずや、急轉直下、加速度の情勢をさへ添へて、勢ひ當る可くもなく、何處迄も、國家を墮落せしめなければ止まないことであらう。これを思ふと恐怖の極みである。

三 何處に發展すべきか

この人口問題の解決は新世界に向つての殖民移住といふ事以外にない。殊にわが

國の現下の事情に於いては、海外發展を措いて外にない。殖民の緊急必要問題なること即ち今更喋々を要せざるところで、残るところの問題は、如何なる方面を發展地として選擇すべきかといふ一事のみである。

新領土の開拓と言へば、必ずしも遠き海外に求めずとも、樺太あり、臺灣あり、滿洲あり、朝鮮あり、隨分發展の餘地に乏しくないが、然し南米に親じむ吾人の眼を以てすれば、未だ小なる感を抱かざるを得ない。雷に小なるのみならず、氣候の上から見ても、天産物の上から考へても、無限の發展を望み得べきの地と斷ずることが出来ない。而も、割合に其の呼び聲が高い所以は、要するに、政策上から割り出されたといふに過ぎないのである。

吾人は矢張り眼を更に遠く海外に馳せて、世界の富源地を求めねばならない。

先づ、地の利の上から見て、南洋諸島は如何だらうか。濠洲は如何？ 北米は如

何？ 加奈陀は如何？ 曰く、何れも、恐日に非ずんば排日、排日に非ずんば恐日

であつて、随分有望の地であり乍ら、吾等日本人にとつて少からぬ不便のあることは争はれない。唯南洋諸島だけは、一番地理的好位置に在るし、産物は無限であるし、先づ何處よりも遣り善さうである。然し此の南洋諸島も、更に立ち至つて觀察すると、其の天産こそ豊富なれ、其の位置こそ日本に近けれ、其の存在の確保に至つては、歐洲列強が之を掌握して居るではないか。(歐洲戦争の餘波たる日獨戦争の結果、赤道以北の南洋諸島は、我が國の有に歸するのやら、歸さないのやら知らないけれど、此等赤道以北の南洋諸島の面積は、猫の額程の地で、誠にお話にはならない。而して、英國が占領した赤道以南の南洋諸島こそ、面積も大きく、將來も有るのである。)然し、それでも、元より入つて行つて入れぬことはないが、常に右の條件が付き纏ふ。そして然うなれば、腕力沙汰に訴へても辭さない覺悟が必要である。それも、恐日の所に對しては、或る程度迄趣もあらうが、排日の所に對してだと、如何あつても、穩當には収まりがつかないと思はれる。

斯うして觀察して來ると、今迄數へ立てた海外の發展地も、大體に於いて、未だ理想的な事情にあるとは言へない。

けれども、我等は斷じて悲觀するの要を見ない。我が日本民族の眞正なる發展地として、南太平洋の彼岸に、其の面積日本群島に五十倍大し、天産は無盡藏で、氣候は好適で、人煙は無類の稀薄で、而も其の住人は、日本人の渡航を、來援と心得救助の神の來臨と感じて、又なき歡迎を致すに吝かならぬ一大沃土がある。即ち我が羅甸亞米利加大陸、即ち、墨西哥から中米、それから南米の全土を含む龐大な地域である。

抑々、我が南米大陸に散在して居る諸國は、殆んど全部が獨立して居る。即ち、各自が政治上絶對の主權を握つて居る。それで、人口はお話にもならず、天産は飽く迄無限で、實に天成の一大寶庫ともいふべきである。しかも、其の大屋臺の馬鹿げて手廣なものには、中に住む人間達が、如何にも斯うにも、困り切つて居る。

始末に了^{しまつ}へないで、手古摺^{てこず}つて居る。實際^{じつさい}の所^{ところ}、一刻^{いこく}たりとも早く、頼^{たの}み甲斐^{がひ}のあ
る強い助け^{たすけ}の來航^{らいかう}を渴望^{かつぼう}して居る。其^その龐大^{ばうだい}なる面積^{めんせき}は、世界^{せかい}の全人口^{ぜんじんこう}凡^{およ}そ十六
億^{おく}を、一人^{ひとり}殘^{のこ}らず容^いれたとしても、尙^{なほ}且^{かつ}何等^{なんら}の支障^{ししやう}をも來^{きた}さないのである。新大陸^{しんだいりく}
の新大陸^{しんだいりく}、新世界^{しんせかい}の新世界^{しんせかい}てふ所以^{ゆゑ}は、斯^かうした所^{ところ}に迄^{まで}存^{ぞん}して居るではあるまい歟^か。

四 移民^{いみん}を獎勵^{しやうれい}せよ

要^{えう}するに、如何^{いか}なる方面^{ほうめん}より考^{かんが}ふるも、吾國^{わこくに}現下^{げんか}の國狀^{こくじやう}が移民^{いみん}の獎勵^{しやうれい}を緊急^{きんきふ}とす
べきこと言^{げん}を俟^{まち}たない。併^{しか}しながら、翻^{ひるがへ}つて考^{かんが}へて見るに、現在^{げんざい}の日本^{にほん}は、海外^{かいがい}
に僅^{わずか}三十三萬二千程^{さんさんまんにせんこう}の同胞^{どうぼう}を有^{いう}するに過ぎないやうな始末^{しまつ}で、誠^{まこと}に以^{もつ}て、お話^{おはなし}にも
何^{なん}にもならない。在留邦人^{ざいりゅうかうじん}の一番多數^{ばんたすう}だといはれて居る北米合衆國^{ほくべいがうしゆこく}(布哇^{ふわ}を含む^{ふくむ})に
さへ十六萬五千餘^{じゅうろくまんごせんよ}で、之^{これ}に次^つげる支那^{しな}には十一萬二千餘^{じゅういちまんにせんよ}を算^{さん}するに過ぎぬ。然^さうい
ふ風^{ふう}であるからして、其^その他^たに至^{いた}つては、推^おして知^しるべきのみである。斯^かうした見^{けん}

狀に見方を置けば、日本の海外發展も、一途には企圖し得ないかも知れぬ。とはいふものゝ、例の海外移住民に於いて牛耳を取つて居る伊太利は、南米大陸に二百萬の移住民を出して居るではないか。而して、農期に入れば、其の上にも四十萬の臨時移民が、ドシ、南米に押し掛けて行くといふではないか。而して、此等の移民が、年々本國に送つたり、持ち歸つたりする金高は、實に大きな數字を示して居る。伊太利が、嘗て大規模の軍備擴張を行つたのも、「トリポリ」戦争を行つて平氣で済まして居られたなども、全くの所、其の移住民が稼いで呉れた莫大な金があつたからである。それにしても、假に年々十萬の日本人が、我が南米へ押し渡るとなれば、三年の後には、三十萬の本邦移民が居ることになつて、一家族を三人と見ても、三十萬人は十萬戸を作る。而して、其の一戸の儲高を、最少限度に見ても、千圓と假定すれば、十萬戸の儲け高は、正しく一億圓となる。十萬宛三年だけしか移住しなくても其の結果は、如何に過少に見積つても、右にいふ數字となるのである。實際、本國

に入り切らぬ七千萬の人口を控へて、やれ海外貿易が入超だ、やれ何だとか、彼ンだとかで、大騒ぎに騒ぎ廻すけれども、其の入超はといへば、唯一億圓である（但し大正三年は別である）。而して其の一億圓は、唯それだけの事で浮いて了ふのであるから、恐ろしいといはなければならない。而も、そのみでは無く、然うして移民が年々増加して行けば、あらゆる方面に互つて、何の位利益方策が扶植されて行くか、到底推し測ることは出来ないであらう。

徒に内地に跼蹐して不満を抱くよりも、壯丁男女相携へて南米の天地に向はんこと、即ち吾人の渴望して止まぬところである。

以下章を追うて説く南米各國事情が、幸に此の機運を助長せしむるに力を致すことあらば幸甚である。

第二編
國別論

第一章 墨西哥

第一 風土

位置

北亞米利加大陸の南端に位して、西は太平洋に臨み、東に墨西哥灣を控へ、北は北米合衆國と境し、南は中米のグアテマラ及英領オンヅラスと接して、稍々狹長な三角形を成して居る此の共和國は、北緯十四度半より同三十二度半に亙り、西經八十六度半から百十七度の間に及ぶ一大地域である。その延長は、南北二千哩、東西八百哩に亙つて、全面積實に七十七萬二千六百五十二方哩ある。

地勢

殆んど一帯に亙つた大隆起は、自然の高臺を形成して、此の國の脊椎となり、東西の海岸面に向つて、一般の傾斜を成して居る。そして北部も低地であり、南部も亦ユカタン半島に向つて降下して居る。その地勢は恰も牛馬の脊の如き形である。

氣候

大部は熱帶圈内に屬するのであるが、廣大な地域であるから、氣候も、地方によつていろいろである。即ち海岸に接近する部分が暑熱地方であり、臺地々方も低い部分は溫暖地方であつて、高い部分は寒冷地方と呼ばれる。土地の高低から行くと、暑熱地方は海岸より凡そ三千呎乃至五千呎迄の地點を含み、それ以上の高度を保つて居る地方は何れも寒冷地方であつて、その寒冷の度も略高度に準じて居る。

此の國の氣候は、又乾燥季と降雨季との二季に分れて居る。雨季は五六月に始まつて十月若くは十一月に終り、その雨量も地方に依つて大差のあるのは勿論である。また乾燥季は雨と絶縁した季節であつて、各地方を通じて殆んど降雨を見ない。そして此の二つの季節の更替は、随分急激ではあるが、氣溫の上には大した影響を來さないのが嬉しい。此の兩季の分界は、北部の方に寄れば寄る程、不分明となつて居る。風は南北共に吹くが、南風は西岸に多く、北風は東岸に多い。

その氣候は又、冬季は天高く氣が霽れ渡つて心地好く、夏時は清冷な驟雨が襲つて來るので、至極健康に適して居る。所謂熱帶地方特有の病氣も、此の國では唯海岸地方にのみ限られる始末であつて、海岸より六十哩も内地に入れば、最早安全である。

以上の三地方の平均溫度(華氏)を舉れば、暑熱地方では八十度、溫暖地方では七十度、寒冷地方では六十度を示して居る。

住民

墨西哥土人の起源は、北方にあることは明瞭であるが、其の他に至つては明瞭を缺いて居る。然し其の言語がエスキモー種のそれに酷似した所から觀れば、少くとも、往古亞細亞との交通があつたことは認められる。そして此の土人の數は、全墨國人の三割八分を占め、土人と西班牙人との混生種が四割三分に當り、残りの一割九分を占めるのが白人又は白人に近い人種である。概して富者は白人に多く、貧者の大部分は土人である。夫れのみでなく色線に關する偏見から、社

會上かいじやうの上位じやうゐを占めて居るのは殆ど白人はくじんばかりである。且つ通弊つうへいとして、土人どじんは一般いぱんに懶惰らいだな性格せいかくを備へて居る。之れが即ちすば一千五百萬まんといふその大人口だいじんこうに比して、國勢せいの振ふるはない大原因だいげんいんであらう。

一九一〇年ねんの調査てうさに依れば、此の國の人口じんこうは一千五百六萬三千二百七人まんさんにふしちやうななひゃくしちにふたにふたといふことである。即ちその面積めんせきに割り當れば、一方哩十九人強はうりふしちゅうじんきやうの割合わりあひとなつて、歐洲に於ける人口率じんこうりつを此の地に移せば、實に一億八千萬いっおくはちせんまんの人口を容るゝに足るのである。

此の國に於ける在住外人ざいぢゆうぐわいじんは、其の數約六萬内外そすうやくまんないぐわいある。之れを多寡たぐわの順序じゆんじよから示せば、西班牙人すぱいんじんが約一萬六千で首位しゆゐを占め、北米合衆國人はくべいがつちゆうこくじんが約一萬五千、佛國人ふつこくじんが約五千人ごせん、日本人にほんじん、英國人えいこくじん、支那人しなじんが何れも約三千人さんせん、獨逸人どいつじん、伊太利人いたりじんが何れも約二千五百人にふしちやうごといふ割合わりあひを示して居る。

政體

聯邦共和國れんぱうきやうこくで、各州何れもその代議的憲法だいぎてきけんぽうの下に聯合れんがふして居る。その主權しゆけんは立法りつぽう、司法しはふ、行政ぎやうせいの三大機關だいさいきくわんに交つてを掌しちせられ、且つ運用しんようされて居る。

そして此の國の大統領は任期六年である。憲法は一八五七年に始めて制定されて、其の後屢々改正されて居る。

宗教

久しく西班牙の統治を受けて居つた國であるから、何といつても羅馬舊教が獨占の姿である。新教、猶太教も多少の勢力はある。一千五百萬の人口中、舊教徒は實に一千三百五十餘萬を算するのにも見ても、その勢力の程が知られる。

第二 史 要

墨西哥民族の起源に關しては、權威ある定説は無い。唯一般に東方亞細亞から來たものと信ぜられて居る。畢竟兩者間に類似點が澤山あるといふまでのことである。兎に角、此の國と秘露との文明には、著しい亞細亞的色彩があつて、その住民の風土なども酷似して居る。

先づ原始と見るべきは、今から千四百五十餘年前「トルテイツク」種が、現今の首都を距る北方五十哩の地點に強大な王國を建設したのが抑々だと言はれて居る。元より其の後此の王國も分散し、北方からは陸續として南下した他人種もあつた。そして「アステイツク」種が凡そ七百年前に王國を建設した。一五一九年西班牙人エルナン・コルテスが、今の「ヴェラクルス」港から上陸して土人を征服し、一五二一年首府墨西哥の陷落するに及んで、舊墨西哥は全然西班牙の統治下に歸した。そして爾後一八二二年迄新西班牙なる名稱の下に統治されて居た。

十九世紀に入つてから、墨國民は歐洲の狀態と米國植民地に於ける革命の成就に因つて、俄然として長夜の夢から覺醒した。最初の革命陰謀者はミゲール・イダルゴである。その獨立して第一回の墨西哥國會を召集したのは、實に一八一三年九月十四日であつた、今にイダルゴの名は此の一八一三年九月十四日なる日と共に、永久

主の米西戦争が起つた。墨國は此に因つて價金一千五百萬弗を得たが、上リカ
 リフォルニア、「ニュー・メキシコ」、「テキサス」並に「コアウキラ」州の一部を北米合
 衆國に割讓し、「リオ・グランデ」を以て米國との國境と承認することになった。實に
 往時の墨國全面積は一百六十九萬六千七百七十五方哩あつたのであるが、現時のそ
 れは七十六萬六千一百八十五方哩を算するに過ぎないといふことは、知つて置き度
 いことである。

第三 交通と都市

一 交通

鐵道

此の國の鐵道は、一八六九年（我が明治二年）首府墨西哥と「プエブラ」間
 に敷設開始されたのを起源とする。元來廣大な面積は、概ね地勢峻嚴であ
 るから、大いにその發達には不便であるにも拘はらず、一九〇六年末に於いて、總

延長は一萬三千五百哩に及び、一九一〇年には一萬五千哩、一九一二年には一萬五千八百哩の開通を遂げて居る。何にせよ、人口稀薄の龐大な地が大隆起をなして居るのであるから、勢ひ敷設困難な長距離の線路とならざるを得ない。従つて政府の補助が絶対に必要とあつて、此の國の政府は、一哩につき一萬圓乃至一萬五千圓の補助をして居る。且つ私設鐵道の横暴の弊を除くが爲めに、政府自身が大株主たる線が延長八千哩以上に及んで居る。其の結果鑛業一方の此の國が商、工、農の方面にも其の發達を誘導され、加ふるに米國との交通が頻繁になつたが爲め、米資の輸入を多額に促進した。夫ればかりでなく、往時同國に存在して居つた地方的の關稅制度を一掃するに至るものがある。

參考の爲に一九一一年調査の鐵道一覽を示して置く。同年度の調査に依れば、全線の延長は二萬四千七百十四マイルに及んで居る。

中央線鐵道——メキシコ市エル・パース間

國有線鐵道——メキシコ市ラレード間

國際線鐵道——イーグルバス、デウランゴ間

ソノラ線鐵道——ノガレス、ヴァコ間

墨西哥東北線鐵道——チウアウア、フアレズ間

カンサス・シテイ、メキシコ・オリエント線鐵道

——プレス・デル・ノルテ、トポバンポ間

メキシコ鐵道——メキシコ、ヴェラクルス間

イダルゴ線鐵道——メキシコ、ベリスタイン間

太洋間鐵道——メキシコ、ヴェラクルス間

ヴェラクルス太平洋鐵道——ヴェラクルス、サンタルクレシア間

テウアンテペック國有鐵道——サリナクルス、プエルトメヒコ間

サン・ラファエル、アトリスコ鐵道——メキシコ市アトリスコ間

全米鐵道

——サンジェルニモ、マタスカル間

ユカタン聯合鐵道

海運

三十餘隻二萬噸足らずの汽船と、五十餘隻約一萬噸の帆船を有して居る。最近一ヶ年の出入船舶數は約六千で、一千五百三十萬噸の數字を示して居る。その中、出船數は二千八百餘で七百三十萬噸、入船數は三千百餘で八百餘萬噸を算して居る。

航路に就いていへば、大西洋面に從事する主なるものは紐育、玖馬郵船會社、玖馬汽船會社、佛國大西洋會社、西班牙大西洋汽船會社、漢堡亞米利加汽船會社、ローヤルメール汽船會社、エルダーデムスター汽船會社、ベネメリス汽船會社、ハリソン、レーランド汽船會社、ウォルビン線汽船會社、大西洋墨西哥灣汽船會社、墨西哥灣汽船會社等である。又太平洋面に從事する主なるものは、東洋汽船會社、亞米利加布哇汽船會社、コスモス汽船會社、太平洋郵船會社、太平洋沿岸汽船會社、サ

ルヴァドル汽船會社、加奈陀墨西哥太平洋汽船會社、墨西哥太平洋汽船會社等である。

郵便

局數現時二千八百六十(我が國內地約七千)に及び、其の取扱郵便物數一ケ年三億個に達して居る。

其の他電信は、電線延長約四萬七千哩もあつて、電話線約一千哩に及んで居る。

海底電線はヴェラクルスよりフロンテラを経てカンピーシウに通ずるもの七百

三十五籽、ヒカランゴよりシウダーデルカルメンに達するもの四百七十六籽、シエ

ダーデルカルメンよりイスラアグダに至るもの四百八十六籽の三線を有して居る。

二都市

墨西哥には二萬五千以上の人口を有する都市が、現時二十一ある。

都市

人口

メキシコ市

四七〇、六五九

グアダラハラ市^し

一一八、七九九

プエブラ市^し

一〇一、二一四

サンルイス・ポトシ

八二、九四六

モンテレー

八一、〇〇六

レオン

六三、二七〇

メリダ

六一、九九九

アグアスカリエンテス

四四、八〇〇

モレリア

三九、一一六

チワワ

三九、〇六一

パチユカ

三八、六二〇

オハカ

三七、四六九

グアナフアト

三五、一四七

サルチーヨ

三五、〇六三

ケレタロ

三五、〇一一

デウランゴ

三四、〇八五

オリサバ

三二、九〇〇

トルカ

三一、二四七

ヴェラクルス

二九、二〇〇

サカテカテ

二五、九〇五

セラヤ

二五、六〇〇

●●●●●
メキシコ市は、墨西哥共和国の首府で、海拔七千三百五十呎の臺地に在る。宏壯

南米諸都市中此の市に優るもの唯亞國首府「ブエノス・アイレス」あるのみである。

商業も殷盛を極めて、十分の活氣を呈して居る。電燈、水道の設備の如き、又下水

工事の如きは、大いにその誇りとすべき點である。歴史ある都市だけあつて、記念碑、

銅像どうざうの如ごとき記念的建築物きねんてきけんちくぶつが澤山たくさんに有ある。宗教上しうけうじやうの建築物けんちくぶつは分わけても多おほく、其その他博たはく物館ぶつぐん、美術館びじゆくわん、郵便局ゆうびんきよく、劇場げきぎやうなどは壯麗目さうれいめを奪うばふばかりであるから、旅情りょじやうまた掬きくすべしものがある。

我わが東洋汽船株式會社とうやうきせんかぶしきかいしゃの南米航路なんべいかうろは、此この國くにの「マンサニーヨ」及および「サリナクルス」の二港かうに寄港きかうする。前者ぜんしやは横濱よこはまより海路かいろ六千三百餘哩よまんの地ちにあつて、人口凡じんこうおよそ一萬まんを有いうし大おほきくはないが天然てんねんの良港りやうかうを成なして居ゐる。後者こうしやは前者ぜんしやを拔錨はつぱう後寄港ごきかうすべき港みなとであつて、人口じんこうは乏とほしいが、貨物吞吐くわぶつどんとの爲ための税關設備ぜいかんせつびの雄大ゆうだいなることは、到底たうていマンサニーヨ港かうの如ごときは足元あしもとにも寄より付つけない。砂糖さとうの荷役にえきの如ごときは、何等なんらの故障こしやうも爲なく、一日いちにちに二千五百噸とん乃至三千噸とんの積卸能力つみおろしのうりよくを有もつて居ゐる程ほどである。此このサリナクルスからメキシコ市しまできしや迄汽車しやにて一晝夜半ちうやはんを要えうする。

第四 農 業

墨國は地積廣漠、加ふるに地勢に因つて氣候に大差あるが爲め、農産物も従つて各種多様に互つて居る。唯問題は、從來墨國政府が、専らその天賦の大富源たる鑛業の發展にのみ留意して居つた結果、本來ならば大いに爲すところあるべきの一大沃土が、徒に大々的犁鋤の到來を俟つこと久しと言つた情態にあることである。墨國の農業に就いて、次の様な評言を下した或る米人がある。『若し墨國がその鑛業への投資を農業に向けて居つたならば、恐らくはその富は現在のそれに四倍したであらう。』といふのであるが、之れは強ち誇張の言葉ではない。實際墨國にして近世式の耕作法を普及させて、其の實施よろしきを得るならば、其の富源は將來豫想外のものであらう。

農業といふ方面から此の國を三大部分に分ける。

(一) 低地々方 最も豐饒な地方で、甘蔗の如きは三十呎の高さに達し、煙草

の如きその一莖が三十時に及べるのを通常とする。「オアクサカ」の力、オ、「チア

バス」の珈琲、「タバスコ」の砂糖、「カンペーチェ」の玉蜀黍、「ヴェラクルス」の豆類、「デレーロ」の米の如きは其の主なるものである。

(二) 温暖地方及高原地方 氣候は可なり良好ではあるが、何分にも灌漑の不

便といふ一大缺點の爲めに、到底低地々方のやうには行かない。「オアクサカ」及び

「チアバス」地方の珈琲は、寧ろ伯刺西爾のそれ以上である。「ヴェラクルス」、「タバ

スコ」は極めて良質の煙草を産し、其の質は玖馬物よりも善良だと評されて居る。

其の他「デランゴ」、「ハリスコ」、「グアナファト」、「ブエブラ」、「メキシコ」の諸州

は盛んに玉蜀黍、小麥を産出する。

農業の不振

天成の一大沃土を持ちながら、未だこの國には耕作上有利なる方法や、新式の機械が一般に普及して居らぬ。従つて經營は見るに足ら

ず、空しく抛擲して顧みられなかつたといふのが實情である。然しそれには理由として、一に労働者の不足、二に交通の不便を挙げべきである。

蓋し到る處山嶽の起伏あるは、この國の地勢であり、又一方農業者の如きも一般に無智で、肥料の何物なるかを知らぬ者が澤山にあるやうな始末であるから詮方も無い。

政府の農業獎勵

墨國政府は、今や大に悟る所があつたものか、近來益々積極的方法を講じて、農業の獎勵を企圖して居る。誠に喜ばしい事で

ある。即ち機關雜誌を毎月發行して農業者間に配付したりした結果は、その効果が現はれて、養蜂や養蠶の事業も開始されるやうになり、種苗、種子の配付殊に葡萄苗と「オリーヴ」苗の配付などは其の效果實に顯著なるものであつた。

然しながら、政府の斯うした努力も、元來墨國の地が水利の便を缺くのであるから、兎角困難が甚だしいやうである。蓋し内地地方では、地勢上五六月以後十月頃迄の雨季を以て、農業上最も肝要な季節とする。何とかしてこの水利の便を得るといふことが、第一の急務である。

主要農産物

澤山あるが、其の主要なるものは、次のやうな物である。

(一) 玉蜀黍 これは農産物の第一位を占めて居る。土人の主食物であ

ることは、米の我等に於けるが如きものである。其の他菓子に拵へて食用に供せられて居る。一ヶ年の生産高は約二千二百萬石で、價額一億三千二百萬圓に及んで居る。(一九〇六年)

(二) 小麦 六千呎乃至九千呎の臺地地方に産せられるが、灌漑の不便からして、北米合衆國より數百萬キロの輸入が年々ある。

(三) 米 「モレーロス」、「ミチヨアカン」、「コリマ」等の地方から産出される。緯度の上からして二十度より十八度の地帯に限られて居る。一ヶ年産出高約二百萬「キロ」、價額二百七十萬圓を示す。(一九〇六年)

(四) 煙草 注意すべき産物であつて、年々の増加が著しきものがある。此の國の煙草は、その特徴として香氣が高い。北米、中米其他歐洲諸國に大に賣れて行く。

我が國などでも、安價なる此の國の原料を入れて見たらば、大に面白からうと思ふ。

(五) 棉花 耕作法が幼稚極まるので、供給は常に需要に充たず、年々米國より二百萬

圓の輸入を見る始末である。此の國の棉花の特徴は、纖維が長くて丈夫なことにあるから、大に結構な筈であるが、當分我が國への輸入などは、其の人を得ない限りは能はざる所である。

(六) 護謨 種類が千五百種からあつて、之れに従事する大會社の數は二十六ある。其の産額は百三十萬「キロ」で、價額は百四十萬圓に上つて居る(一九〇六年)。主として米、佛、獨、「コロンピヤ」、蘭の諸國へ輸出される。我が國への輸入も、爲する人に依つて爲されたならば、大に面白かるべきである。

(七) 甘蔗 「キロ」十五錢の關稅を外糖に課して以來、本業は見るべきものとなつた。追々我國への輸入もあらうと思はれる。

第五 生畜と林業

一生畜

漸次進歩の道程に在る。政府も種々の方法を講じて、斯業の發達に銳意力を濺いで居る。英、米より良種を入れ、内國種の改良を圖つて居るが、之れは、内國種が一般に産毛の量目が軽い爲めである。そして一方に於いては、盛んに米國を相手として、普通種の輸出をやつて居る。此の業の盛んな地方は、主として中央部であつて、「ハリスコ」、「チウアウア」、「グアナフアト」、「ミチオアカン」、「ヴェラクルス」、「サカテカス」、「ユカタン」の諸州が其の主なるものである。

一九〇二年此の國の農商務省が發表した家畜統計表に依れば、その頭數は一千五百萬頭で、價額は一億二千四百萬圓に上つて居る。

二 林 業

墨國政府は、此の業にも亦大に意を用ひて居る。即ち政府は法律を出して、地方團體に之れを経営させて居るが、要するに、各地方に共通な濫伐を禁止して、良材の保護に努むる爲めである。然し農業に對する如く積極的には實施して居らぬやうである。

「マホガニー」「チクレ」の如き良材は、海岸即ち暑熱地方に産出され、溫暖地方には松、柏の如き工業用材の産出を見る。

一九〇九年に於ける此の國の木材輸出總價額は九百五十餘萬圓に上つて居る。そして「マホガニー」材の如きは、實に米國に於ける其の需要の半ばを墨國から供給して居る。「マホガニー」材の特徴は、美麗にして堅牢な點に在るから、此の材を以てした製品との競争は、本邦製品の大に困難とする所であらう。本邦の木製品業者は

どは、非常な注意を斯ういふ點に要することと考へられる。

第六 鑛業

鑛業こそは、墨國第一の産業である。蓋し西方一帯の大山脈に沿うて存在する大鑛脈は、此の國無二の大富源として、古來多量の產出額を見せたが、近世に至つて新式採掘法の應用以來、その產額は一層の多額に上つて、益々斯業の發達を誘導して居る。東都の山脈にも鉛、石炭、鐵の產出がある。又下「カリフォルニア」にも諸種の鑛物が存在して居ることは、識者を俟たでも知られて居ることである。

主要鑛產物

最近に於けるその鑛產物の一ケ年總額は、約二億五千萬圓で、我が國のその二倍餘に當つて居る。その中で、銀は約一億圓、金は約五六千萬圓、銅は約二三千萬圓、鉛は約七八百萬圓、錫は約二三百萬圓、安質母尼は約二百萬圓、亞鉛は約百五十萬圓、水銀は約五十萬圓、大理石は約三十萬圓を

算して居るのである。そして此の發達は、何處迄行つて底止するものやら、一向に分らないのが愉快ではあるまいか。

墨西哥の銀鑛は、實に無盡藏である。世界に現存する銀の三分の一は、墨西哥の銀鑛が產出したのであるから、豈驚かざるを得ようか。そして尙比較を求むれば、歐亞二大洲の總產額に約三倍する。然ういふ次第で、墨國が、世界銀產國の首位に在ることはいふ迄もない。そして其の產出は、墨國の大部に互つて居るが、殊に北緯十九度乃至二十四度半の地方を大產地とする。又金は世界金產國の第五位を占めて居る。

鑛物の分布

此の國の鑛物の分布を示せば、次の如きものである。

一 チウアウア

銅、鉛、水銀、銀、石炭

二 ソノラ

金、銀、水銀、鐵

三 シナロア 銀、金

四 デタランゴ 銀

五 ハリスコ 銀、銅、石炭

六 ミチヨアカン 銅

七 サカテールカス 銀

八 グレーロ 金、銀、鉛

九 ケレターロ 鉛、辰砂、銀

斯くの如き大鑛業國たる墨國には、規模絶大な大鑛山會社が數多あつて、間斷無く活動して居る。又金屬試驗所の如きは十三箇所もある。そして首都「メキシコ」には、結構無比の大造幣局がある。

鑛業に於て世界にも稀なほどの發達を遂げた墨國は、工業に於いては如何にも不振といはざるを得ない。それは主として、石炭の缺乏といふ大缺點と、鑛業や農業への投資の方が、實際上有効であるといふことが主因となつて居る。加ふるに、此の國の土人の性格が、勞働者としては大いに不向であり、又一方には、墨國內地の資金が不十分であるが爲め、何にしても墨國の工業は、振ふ見込みが餘り無い。然し政府の保護政策の影響と、工業獎勵法に據る補助と、外資の吸収とに因りて、近時は漸く光明の緒に就きつゝある。

工業獎勵法

此の法は、一九〇三年墨國政府が、議會の協賛を経て制定したもので、其の概要は左の如くである。

一 十萬圓以上の資本を以てする新工業なること。

二 此の資本に對して直税を免除す。

三 前記工業の爲めに輸入する機械、器具及建築材料に對して輸入税を免除す。

四 此の特權の期間は五ヶ年以上十ヶ年未満とす。

重要商工業品

類別して之れを左に記述する。

(一) 棉花 沿革は至つて古く、西班牙の統治以前にも存在して居つ

た工業であるが、實際上工業と稱すべき時代に達したのは、近々三四十の事に過ぎない。而も今日猶且内地の需要を充たすだけの事で、輸出は將來に俟たなければなるまい。そして棉花製品の如きは、却つて外國から輸入を仰いで居る。

墨國が此の工業の爲めに要する棉花分量は、約四千萬「ポンド」に上つて、其の大部分は米國から来る。一九〇五年此の棉花の工場數は百五十で、此れで生活する戸數は八萬戸に上つて居つた。そして此等工場の大數は、紡織及染色を兼ねて居る。又墨國人の三分の二が愛用する「マンタ」(外套)及び「レボーン」(頭巾兼肩掛)は此の織物中の主なるものである。

(二) 毛織物 中央部の高原地方に住居する上流及び中流社會には、一般に洋服地と

して用ひられて居るが、輸入品に依らなければならぬ情態である。

(三) 絹物 西班牙統治時代に養蠶が禁止された爲め、殆んど跡を絶つたが、近時又

復活した。生絲は多く「レボーン」に織られる。生絲は統計上では、米、英、印度

から輸入されて居る。本邦からの荷物は概ね桑港經由の爲め、米國のそれに含

まれるものと見える。

(四) 製糖業 大に有望な工業であるか、四五の州を除く外は、一般に舊式機械を使

用して居る始末で、見るに足らない。

(五) 酒類 内地の需要を充たし得ぬ状態に在る。殊に麥酒の如きは大なる努力に俟

たねばならぬ。輸入は主に佛、西の兩國からで、相當な額に達して居る。

(六) 煙草 原料の優秀と多量とから、將來の此の工業は、驚くべき程度に進むこと

であらう。而して目下と雖も到る處に盛大な會社、工場が存在して、何れも一割

五分以上の利益配當を爲して居る。

- (七) 家具 下流社會の土人には、無論此の必要を見ないのであるが、上中流の社會階級は、羅甸民族の血を繼いで居るだけに、一般に上等な家具類を使用して居る上流向きには佛國式の物が勢力を有し、中流向きには米國式が愛用されて居る。
- (八) 製粉業 主として輸入を佛國より仰ぐ始末で、見るに足るべきものはない。
- (九) 製鐵 近時最新最良の機械を据る付けて、大に奮發して居るが、一般の上からいへば、要するに將來を樂しむ迄のことである。
- (十) 陶磁器 特徴のある製品を出して居る。一體に國人は手先が器用の爲め面白い物を作りはするが、斯業の知識經驗に至つては貧弱極まるものである。此の工業の爲めには、大和民族の奮起も面白からうと思はれる。
- (十一) 燐寸 木及蠟燐寸の製造が可なり盛んである。殊に蠟燐寸は頗る安價であるから、我が國よりの輸入見込は大した事ではあるまい。

第八 貿易

墨國が鑛業本位の國であることは前にも述べた如くであるから、其の貿易の大勢を支配するものも、矢張鑛業方面が主だ。

スペインの統治後、此の國の開港場は「アカブルコ」であつて、主として比律賓の「マニラ」と通商して居つた。十六世紀の頃には、同港は日本や支那とも交通するやら、一時「アカブルコ」の名は、世界貿易港の錚々たるものであつた。其の後、此の國には内亂相次ぎ、安寧の日が少かつたので、十九世紀の初めには、外國貿易の上に大頓挫を來した。然し久しからずして再興の機運に接したのは慶すべきことである。

重要取引國は、米國を首位(總額の五分の三)として、英、獨、佛が之に次ぎ、何れも二千萬圓以上の取引がある。

重要輸出品は、銀(約一億圓)、金(五六千萬圓)、銅(三四千萬圓)、エネケン(同上)、

護謨類(同上)、皮革(約二千萬圓)、珈琲(八九百萬圓)、鉛(七八百萬圓)、豆類(五六百萬圓)、タンピコ纖維(四五百萬圓)、煙草(同上)、バニラ(同上)、生畜(約二百萬圓)、砂糖(同上)、錫(同上)、安質母尼(約百五十萬圓)、桃花心木(約百萬圓)等である。

重要輸入品は、機械類(二三千萬圓)、織物類(同上)、鐵類(約二千萬圓)、化學品類(約千萬圓)、酒類(七八百萬圓)、武器類(同上)、紙類(五六百萬圓)、車輛類(同上)、石炭(同上)、木材(同上)、コークス(三四百萬圓)、履(同上)、棉實油(同上)、石油(二三百萬圓)、綿類(同上)、砂糖(同上)、小麥(同上)、木製品(同上)、家具類(同上)、豚油(同上)、絹製品(百五六十萬圓)、絹絲(約百萬圓)、羊毛類(同上)、麥粉(同上)等の如き物である。

最近の輸出入
最近五ヶ年間の墨國の貿易
は次の如き數字を示す。

年次

輸出

輸入

合計

一九〇八年

三三、一一〇 萬圓

一五、六五三 萬圓

三八、六七〇 萬圓

一九〇九年

二六、〇〇四

一九、四八六

四五、四九〇

一九一〇年

二九、三七四

二〇、五八六

四九、九六〇

一九一一年

二九、七四八

一八、二六六

四八、〇一四

一九一二年

三〇、〇四〇

一九、五七七

四九、六一七

今總貿易額五億圓に上る墨西哥の貿易を、更に進んで輸出、輸入の二項に分けて研究して見度い。

輸出貿易

輸出輸入總額五億圓中、輸出は輸入よりも一億圓超過する。即ち總貿易額の五分の三を占めるのであるから、實に賀すべしである。然し其の

輸出の大部分が不加工品であるのは、面白からぬ現象といはざるを得ない。輸出貿易は、墨西哥灣沿岸を推し、北部國境、太平洋岸、南部國境が之れに次いで居る。

左に墨國の輸出價額を、大陸別に擧げて、研究の資料に供して見る。

大陸別輸出價額一覽

洲名	一九一〇年	一九一一年	一九一二年
北亞米利加	二三、〇三二 <small>萬圓</small>	二二、九五二 <small>萬圓</small>	二三、七五五 <small>萬圓</small>
歐羅巴	六、三二八	六、八一四	六、二四二
南亞米利加	六	六	二〇
太平洋洲	—	一六	—
亞細亞	四	—	—
亞弗利加	—	—	—
合計	二九、三七四	二九、七四八	三〇、〇四〇

而して今度は、之れを主要國別にして、研究して見度い。

主要國別輸出價額一覽

國名

一九〇九年

一九一〇年

一九一二年

北米合衆國

一九、六八六

萬圓

二二、六三二

萬圓

二二、五四四

萬圓

英吉利

二、八五〇

三、五八八

四、〇一八

獨逸

八四二

八七〇

一、〇三〇

佛蘭西

一、二二八

九三〇

八三二

白耳義

七六四

七三六

六三六

西班牙

二〇四

一五八

二三六

玖馬

一七〇

二二〇

一九二

加奈陀

一〇二

一八二

一三四

英領オンヅラス

六五

八二

八二

グアテマラ

五六

八二

七八

合計

二六、〇〇四

二九、三七四

二九、七四八

輸入貿易

輸出貿易に總額の五分の三を占められて居る此の國の輸入貿易は、殘りの五分の二即ちそれでも二億の額に達するが、其の大部分は加工品である。墨國の工業の不振は、斯かる數字に於いて特に證據立てられて居る。

左に輸出の項に爲したと同じく、大陸別に分けた輸入價額の一覽表を擧げる。

大陸別輸入價額一覽

洲名	一九一〇年	一九一一年	一九一二年
北亞米利加	一一、四二八 <small>萬円</small>	九、九六二 <small>萬円</small>	九、七九七 <small>萬円</small>
歐羅巴	八、六四六	七、八〇六	九、一二三
亞細亞	三一四	三〇四	四二七
南亞米利加	一四八	一五六	一九一
太平洋	一四	一〇	一八
亞弗利加	三〇	一〇	一八

合計

二〇、五八六

一八、二六六

一九、五七七

更に之れを主要國別にすれば、次のやうな輸入價額表を掲げることが出来る。

主要國別輸入價額一覽

國名	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年
北米合衆國	一一、二八四 <small>萬円</small>	一一、三一四 <small>萬円</small>	九、八四二 <small>萬円</small>
獨逸	二、〇二六	二、五五六	二、八八四
英吉利	二、二二四	二、三九六	二、一五〇
佛蘭西	一、七四二	一、八六六	一、五六〇
西班牙	五二八	五六六	五九〇
白耳義	二四八	四三〇	三二六
奧太利匈牙利	一四〇	二一八	二〇八
伊太利	一九二	二三六	一九四

總輸入額	智利	支那	諾威	日本	和蘭	瑞典	亞爾然丁	加奈陀	瑞西	印度
一九、四八六	一四	八	四八	四四	五四	三六	一六八	二二八	一一四	一五二
二〇、五八六	五六	四二	五二	三三	五六	三六	七〇	七六	一四四	二〇八
一八、二六六	四〇	四〇	四二	四二	五四	七二	八〇	九六	一五六	一九四

日墨貿易

最近に於ける日墨貿易の統計上の數字は、次の如くである。

最近日墨貿易價額表

年次	日より墨へ	墨より日へ	合計
一九一〇年	三二八、三五〇 ^円	一二、七七五 ^円	三三一、一二五 ^円
一九一一年	四一七、〇五四	三、四三八	四二〇、四九二
一九一二年	五二七、〇七三	一、一九五	五二八、二六八

即ち右の如き統計數字に過ぎないけれど、實際に於いては、遙にこれを越えて居ること亦想像に難くない。蓋し日本よりの輸出品は、大概桑港經由であるからして、勢ひさうした結果になるのかも知れないからである。

次に我が國より如何なる物が此の國へ輸入せらるゝのであるか。品目別を作り、年次に従つて、左に其の價額表を掲げてこれを研究したい。

日より墨への重要輸入品價額表

品目

一九〇八年

一九〇九年

一九一〇年

絹手巾

一六九、一四六_四

一五二、四六三_四

一九八、一四四_四

羽二重

八三、五四〇

五五、三一

六八、三三四

石炭

一〇、四二九

四四、九八七

六〇、九〇〇

玩具具

一、九四二

一三、九八四

二〇、二七五

襟飾襟卷

八二〇

八、一六四

一九、四五三

貝類鈕釦

—

八、八二三

一八、三四四

陶磁器

五、二八八

一七、五二三

一六、八六三

漆器

二、五七九

四、四九四

一六、三七〇

衣類附屬品

八、〇七八

五、三五〇

一四、八三三

帶類

四、四七七

三、八九三

六、三六二

漁 網

六、〇〇〇

寫 眞 書 畫

九八四

三、二二三

五、八二三

扇 團 扇

一、二三九

二、六七六

四、六六〇

絹 製 肩 掛

二、二八九

四、八四五

四、〇〇四

雁 皮 薄 葉 紙

二、七〇〇

二、五六四

三、九〇六

樟 腦

三五五

二、四四三

三、〇二九

以上は即ち表の示す所であるが、表は表として、本來我が國より墨國へ輸入すべき商品は、何といつても次の物なるを要するのである。

(一) 絹物及絹製品

(二) 綿絲及綿布

(三) 毛織物

(四) 生絲

(五) 陶磁器

(六) 花 薙

(七) 玻璃製品

(八) 一切の雜貨

而して之れと反對に、墨西哥から日本へ輸入すべき物品は、左の如くである。

(一) 金銀塊

(二) 甘 蔗

(三) 護謨原料

(四) 各種纖維

(五) 生 皮

(七) 珈琲及コ、ア

其處で更に、本邦より此の國へ輸入して面白かるべき貨物に就いて、注意を要する點を次に擧げる。

絹織物は一般の土人向きではなく、上中流を相手とする物である。羽二重の如きは、主として四々五々といふ輕目物に限つて居る。絹手巾は共通の需要を見るが、寧ろ土人を本位とするから、其の色合ひや、意匠の具合は、總じて原始的なるを必要とする。そして彼等は、裝飾用とも防寒用ともするからして、三十吋以上の大形物が向く。生絲は大抵「レボーフ」の原料とされるから、其の税は隨分の高率だが、面白くないでもない。花蕙は、兎角隣邦の米國から安物が輸入されるので、餘りに思はしくはないやうであるが、必ずしも、見捨てた物でもない。陶磁器の如きは、人目を牽く一種の珍奇品も結構ではあるが、要するに堅牢を旨とした物でなくては駄目である。漆器は、此の國の氣候が、兎角に乾燥して居つて、龜裂を生ぜしめる

のが問題である。そして此の氣候の爲めの龜裂は、各種の木製品の場合に殆ど共通の事であるから、之れには製造家の反省を必要とする。屏風、扇子の如きは、意匠の工風が何より肝要で、銅器、青銅器は先づ數ふるに足らないが、竹細工品は可なりの見込みが有る。又竹は、關稅の關係から材として持つて行くのも、反つて面白いかも知れない。玩具は一見數にもならない物のやうだが、是には大なる將來が存して居ると思ふ。紙製品も亦面白い。殊に紙ナブキンは、頗る注意すべき物である。玻璃器も見込みが有らう。そしてブラシの如きは、非常に未來の有る貨物だと考へられる。

尙此の國の關稅が、重量稅であることは、併せて注意すべきことである。そして稅關の檢査は、可成りに嚴重で、荷物の半は大抵開かれるのを常とする。

我が同胞にして、此の國に基礎を占めて、商取引に従事して居る者には、加藤源治、青山嘉四郎、外岡眞太郎等の諸氏があるが、何れも將來を期して、相當に經營

して居るのは、誠に愉快な事である。そして一般に、日本商人の競走者は、卸賣ては主として米國人、小賣や行商では支那人である。

斯うして墨西哥を研究して來ると、其處に我々の態度は、勢ひ鮮明とならざるを得ないのである。殊に墨國は、往時我が國との修好通商もあつた國で、何やら淺からぬ因縁の有りさうな國である。墨國人も亦、非常に日本人を歡迎して、到る處にその好感情を披瀝して居るのも嬉しい。聞けば先の大統領ディアス氏の如きは、日本の血を受けて居るといふことである。斯かる有様で、日本人が彼の地に渡つて活動するのは、墨國の朝野が相擧つて心待ちに待ちつゝある所である。海外發展も斯うした天地での斯うした雰圍氣に包まれる場合は、誠に心強い感じがするのであるまいか。何にしても、社會萬般の施設が不十分で、國人自身が奮發して、事業の計畫に獻身的にならうといふやうな者が皆無といつた姿であるから、出掛けて行つて遣る價值があるのである。而して其の無盡藏な天產物てふ大富源は、或は鑛業に、

或は農業に、無限の將來を語つて居る。さらば即ち我が同胞が、此の無限の寶庫に分け入つて、運命を賭するなどは、愉快な極みである。

第二章 秘露

第一 風土

位置

秘露共和國は、南米大洲の西海岸に位し、北緯一度二十九分より南緯十九度十二分三十秒に亙り、西經六十一度五十四分四十五秒より同八十一度十八分三十九秒に跨つて、面積略々一百七十萬平方「キロメートル」の廣袤を有して居る。そして西は太平洋が其の岸を洗ひ、北は「エクアドル」、「コロンビア」に境し、東は伯刺西爾、「ボリヴア」に接し、南は智利と境界線を交へて居る。

地勢

海岸地方、「アンデス」地方及び森林地方の三大部に分たれる。

海岸地方は、本來ならば濕潤の地なるべきも、秘露の此の地方は、全然反

對である。即ち大西洋の水蒸氣を飽和した貿易風が、伯刺西爾を越え、秘露の東部地方を越える際、其處に一大屏風と天空に聳え立つた山脈の絶巔は、四時皚々たる白雪の世界であるから、其の飽和された水蒸氣は、茲に凝つて雪と化する。此の理由よりして、秘露の海岸地方は、一般に大氣が乾燥して居る。従つて灌漑の便を缺いて居るが、「グアノ」(鳥糞)や岩鹽等に富む地方である。此の地方は砂地より成つて、面積は十八萬平方「キロメートル」ある。

「アンデス」地方は即ち高山地方の謂で「シエラ」ともいひ、二千米突以上の高さを有する地方で、面積は四十五萬平方「キロメートル」ある。此の地方は分けても、氣候や産物の變化に富んで居る。頂上の部分には、「リヤマ」、「ウキクニーヤ」、「アルバカ」などの動物が棲息し、中腹以上の部分は溫帶の氣候であり、峡谷の地方には熱帶の産物を見るのである。

森林地方は、普通に秘露では「モンターニヤ」と稱せられて、大山脈の東部の傾斜

から伯刺西爾、「ボリウキア」の國境迄を含んで居る。此の地方は最も美麗で、且つ天産物に豊富である。凡そ熱帶圈内に屬すべき植物といふ植物は、處女林を成して此處其處を覆うて居る。護謨の如き、「コ、ア」の如きは皆此の地方に存在して居るのである。

氣候

地勢に於いて説いた如く、海岸地方(コスタ)、高山地方(シエラ)及び森林地方(モンターニヤ)の三地方に分けて觀察することが必要である。

海岸地方一帯は、砂地を大體の地味として、其の間に肥沃な谿谷が散在し、其處に河川が通つて居るが、何れも太平洋に流れ盡して涸れて仕舞ふ。此の地方に一定的な特徴的な季節としては、唯夏(十二月より五月)と冬(六月より十一月)との二者があるのみである。夏季は、攝氏寒暖計が平均二十四度から二十八度を示し、極めて暑い日にも三十度は稀である。但し峽谷は何れも例外として、此の平均温度の中には含まれぬ。地勢上此の海岸地方は、四時永久の白雪を戴く「アンデス」大山系に近

く、又「フンボルト」海流即ち秘露海流と稱する寒流に冷されて居るが爲めに、同緯度^どに介在^{かいざい}する他國^{たこく}とは、根本^{こんぽん}的に氣候^{きこう}を異^{こと}にして居る。されば冬季^{とうき}でも攝氏^{せつし}十五度^どを平均^{へいきん}溫度^{おんど}とし、極寒^{ごくかん}の時^{とき}も十三度^どを下^{くだ}らない。而^{しか}して冬期^{とうき}を濕潤^{しつじゆん}季^きと稱^{しょう}するも、夫^それとて極^{きは}めて少量^{せうりやう}の降雨^{かうう}を見るに過^すぎない。否^{いな}降雨^{かうう}といふのも相應^{ふさ}はしく無^なく、實^{じつ}は霧^{きり}といふべきであらう。而^{しか}も夫^それが降^ふらぬ年^{とし}さへもある。そして夏季^{かき}と冬季^{とうき}との氣溫^{きおん}に於^おいても、其^その差^さは攝氏^{せつし}十五度^どを越^こえず、且^{かつ}つ此^この二季^きの交替^{かうたい}が、遅^{おそ}々として梯階^{ていかい}的に來^くるのである。

實^{じつ}に其^その氣候^{きこう}の特徴^{とくちゆう}は、穩和^{えんわ}な二季^きの變遷^{へんせん}にあつて、暴風^{ぼうふう}も無^なく、降雨^{かうう}も無^ないと
いふのであるから、此^この地方^{ちほう}の在留^{ざいりゅう}外人^{がいじん}が、此^この地^ちを目^めして天國^{てんこく}的^{てき}だと評^{ひやう}するものも
宜^{むべ}なるかなである。此^この地方^{ちほう}は最^{さい}も亞細亞^{あじあ}人種^{じんしゆ}の移住^{いぢゆう}に適^{てき}して居る。

高山^{かうざん}地方^{ちほう}即ち「アンデス」山^{さん}地方^{ちほう}の氣候^{きこう}は、極^{きは}めて變化^{へんくわ}に富^{とみ}んで居る。深^{ふか}い峽谷^{けつこく}な
どにあつては、酷熱^{こくねつ}が烈^{はげ}しいが、臺地^{たいち}に入^いれば、氣溫^{きおん}はズツと冷却^{れいぎやく}して、寧^{むし}ろ溫暖^{おんぬん}

である。夫れが、四時白雪を戴く山巔に行くと、氣候は茲に寒帶となつて居る。此の高山地方に於いては、十月下旬から豪雨季に入つて、四五月にそれが終るが、此れが即ち冬である。其の他は夏であつて、氣溫はよく乾燥して、よく寒冷である。其の雨量は、實際瀑布の如く、加ふるに暴風に伴はれる。此の地方にして人煙を見る所は、日中攝氏十度、夜間五度を平均溫度とするが、極限も、最高は十五度を越えず、最低は零度を落つることは無い。夫れ故、此の國の要港「カリヤオ」より首府里馬を経、「アンデス」を越えて向側なる「オロヤ」市に至る鐵道は、二百二十「キロメートル」の延長を有して、凡そ八時間を要する。而して此の鐵道に依つて、海岸地方より「アンデス」山脈を横斷すれば、數時間にして能くあらゆる氣候に接するところが出来るのである。

森林地方は、即ち秘露の東部地方であつて、同緯度に於ける他の諸國と一般、酷熱にして濕潤な氣候である。季節は高山地方と全然同じく、冬は濕潤で豪雨があり、

十月から四五月に掛けて居る。そして夏は、寒冷で乾燥して居るけれど、元より高山地方の如く甚だしくはなく、五月より九月迄を含む。樹木鬱蒼として、萬代の緑を湛へ、何處も彼處も處女林ばかりである。そして一般にその氣候は、南歐地方と同様で、寒冷ではあるが、穏和なものである。されば、此の地方は、白人の移住には至極適當であらう。

住民

其の數の正確なるものを知ることとは甚だ困難であるが、一九〇八年此の國に於いて刊行せられた權威ある出版物に依れば、一九〇六年の頃には、約三百五十萬の人口を算するといふことである。然らば此の人口率は、其の面積に對して、一平方「キロメートル」につき二人弱（一・九四）の割合を示す。而して海岸地方の面積は、一萬七千七百平方「キロメートル」で、人口は八十萬を算し、其の人口の割合が、一平方「キロメートル」につき四人強（四・五三）に當つて居る。高山地方は、人口最も稠密した地方で、二十七萬平方「キロメートル」の面積に二百二十五萬の人

口を有して居るから、其の人口の割合は、一「キロメートル平方」に五人強（五・三二二）である。森林地方は、一百二十五萬三千平方「キロメートル」の面積に四十五萬の人口を有して居るから、その割合は、一平方「キロメートル」につき〇・三七といふことになつて居る。

全秘露人口の五割を占むる者は土人で、其の數一百七十萬を算し、一割五分即ち五十二萬五千は、白人種にして、主に西班牙系である。そして二分五厘は亞弗利加人種に屬し、一分は「モンゴリア」人種に屬し、其の他の三割一分五厘は、種々な雜血種である。移民の來航は、平均一年七萬人で、六萬人は歸國するから、平均して一萬人が人口増殖に與つて行く。一九〇五年、秘露に入國した外國人は七萬三千人で、歸國した者は六萬四千人を算した。

政體

立憲共和國であつて、行政、立法、司法の三大機關より成れることは勿論である。行政部の長を大統領といつて、任期四年で、一般國民から選出さ

れる、そして副大統領も亦同様に選舉される。立法部は議會に依つて運用され、元老、衆議の兩院を有する。地方が地方廳に依つて執政せられることも亦普通一般を出でない。裁判所も、各州少くも一を有して居る。

法律上に於ける外國人の狀態は、國人と一般なること、其の憲法第三十二條にもいつてある通りである。即ち秘露の國是として、その國籍の如何を問はず、國內に住する者には、何れの者にもあれ、其の人權を極めて雅量的に認めて呉れるのである。

宗教

羅馬舊教を専らとすることは、西班牙の統治下に在つたが爲めである。其の他、新教も無論信仰されては居るが、夫れは兎に角微々たること、墨西哥の場合と同様である。斯かる有様ゆる、信徒は人口の大部分が羅馬教徒であること、亦同前であると知つて差支ない。

移民

廣袤に比して甚だ稀薄な秘露の人口には、實に一平方哩につき七八人に當るか當らぬ割合ゆる、富源の開発を圖れば圖る程、勞力の援助即ち移民の

渡來を必要とする。斯の如き自然の情勢より、此の國が外國人の移住渡來を歓迎して措かざるは、誠に故ある事である。

抑も外國人の移民として此の國に入つて來たのは、四百年に近い昔の事で、それ以來現今に至る迄、諸外國人の移住を随分と見たのであるが、結局日本人、支那人及び亞弗利加人を除くの外、何れの外國人も成果を收めなかつた。

此の國への日本移民の嚆矢は、明治三十二年二月日本郵船會社の佐倉丸に依つて輸送された八百名であつて、其の後引き續き輸送されて居る。現時迄の本邦移民數は、六千名以上に及び、其の中歸國者、轉住者等を除いた現在殘留者も、其の數は五千名を下らない。

此等の移民は、主として甘蔗耕地、棉花耕地にありて勞役に従事し、尙「アンデス」に踏み入つて、護謨地方に勞働して居る者もある。勞働賃銀は、普通一日一圓二十錢見當であるが、「アンデス」の森林地方に深く入り込んで護謨の運搬などに従

事して居る勞役者は、一日三四圓の勞銀を幾らも取つて居る。尙此の外大工、鍛冶工等の如き身に藝能を有つて居る者は、一日最低二圓より四五圓迄の賃銀を容易に獲得し得るのである。

尙參考の爲め、此の國に於ける外國人の權利及び移民の土地所有に關する規定中重要なるものを列舉すれば左の如くである。

- (一) 此國憲法第四章第二十八條に於て明かに外國人の土地所 權を認め、又第三十二條に於ては内外人の區別無く一樣に其の權利を保護せらるゝことを規定せり、故に外國人は此國に於いて自由に家屋、田畑を購入し、土地、鑛山を所有することを得。

- (二) 此國在留の外國人は、同國法律の命令する所に従ひ、何れの職業に従事するも毫も制限せらるゝこと無し。

- (三) 在留外國人の兒童は、公共學校に於いて無月謝にて初等教育を受くることを

得、又年齢二十一歳に達せば、其の父母の國籍を繼承し、若くは市民權を取得することを得。

(四) 丁年以上の外國人にして、二年以上此の國に居住し、一定の職業を有する者は、歸化を許容せらる。

(五) 總ての外國人は、此の國內にて自由に當國人と結婚することを得。

(六) 一八九八年十二月二十一日此の國政府の發布したる移民の土地所有に關する規定は左の如し。

(1) 森林地方

(イ) 購買(一「エクタレア」につき五「ソル」を支拂ふこと但し一「エクタレア」とは我が三千歩弱)

(ロ) 植民契約の締結

(ハ) 借地料の支拂(毎年一「エクタレア」につき一「ソル」宛支拂ふこと)

(二) 贈與(二)「エクタレア」を超過せざる範圍内に於て)

(2) 海岸地方 國又は市所屬の未開墾地は、適當に灌漑の設備を爲すべしとの

條件の下に、之を獲得することを得(一八九三年十月九日發布の法律の規定)

第二 史 要

上古の秘露に關しては、歴史の之れを正確に教示して呉れるものが無い。従つてその起源は、如何とも知るに由無きやうな有様である。

唯吾人が知り得る限りは、此の國の海岸地方に、物語に見る如き「アンデス」の大山脉を自然の背景として、専ら漁業に従事して居つた人類の部落が、存在して居た事である。其の後半開化的の種族が、全秘露を統一したが、其の種類は如何しても他國から來た民族に違ひないとされて居る。之れに就いての忠實なる研究者は、その大部分が、此等の種族を目して、結局亞細亞種族であるといふ事に歸決させて居

るのである。

實際上學者の研究は、久遠なる往古に於いて、亞細亞と亞米利加とが相連結して居つた事を斷定して居る。夫れは世界地圖に一瞥を與ふる時、吾人が呼ぶ「ベール」海峽なるものが教ふる所であつて、其の連續その者が、當時に於いて兩大陸の交通を必然的に容易ならしめて居つたものに相違ないといふのである。

茲に於いてか、秘露の半開的種族を以て、或は其の遺物に依り、或は其の他の研究材料に依つて、前述の如き推定を學者に致さしめたものであつて、之れには却々の興味がある。

其の後現出したのが「インカ」帝國である。秘露の南部に於いて、「アンデス」山中海拔三千八百「メートル」の地に在る有名なる湖水「チ・カ」は、「インカ」帝國の搖籃の地であつた。傳説に依れば、其の地方に忽然としてマンコ・カバクと呼ぶ一人の男が、妻なるマ・オクリヨと呼ぶ女と共に現はれた。そして曰く、我等二人は我が

父太陽より此の地方の安寧幸福の爲めに遣はされて來た者である、と。そして歴史は、此のマンコ・カバクの出現を以て、十一世紀の末造の事だと教へて居る。

其の後五世紀を経て、十六世紀に入るや、「インカ」帝國は隆々たる國勢の下に、其の版圖は實に百萬方哩に達したといはれて居る（即ち此の中には現時の「エクアドル」、「ボリヴァア」、智利の北部及び亞爾然丁の北部が含まれて居つた）。彼等の風豊、彼等の遺物等は、事實に於いて、彼等が亞細亞種族であつたことを合點させる。殊に其の風俗、習慣の如き、例へば恰も支那に於けるが如く、農を以て立國の大本とし、春分、秋分、夏至、冬至の日にありては、大なる農祭を擧げて、以て彼等の宗教上の神たる太陽に、その年の感謝を捧げ、更に來るべき年の恩惠を祈願したりなどした。殊に面白いのは、「チ・カ」なる湖水の名稱であつて、これは我々が讀んで略了解する如く、實際父母の義であるなども、不思議に面白い。我等は太陽の子にして、此の地を治めんが爲め、父より遣はされた者であるといふ所は、全然我が

日本の思想ではあるまいか。高天原の思想と傳説とを茲で考へ合せて見ると、マン

コ・カバクは如何しても其の思想を受け継いだものと斷定せざるを得なくなる。時代も十一世紀であり、結局右の推定が、牽強附會とは論じ得ないのである。

十六世紀の中葉(一五三五年)フランシスコ・ピサロは「インカ」帝國を征討して、里馬市を建設し、此處に統治府を置いて、全土の統轄を爲した。此の一五三五年の里馬市の建設に依つて、西班牙は此の國の統治時代に入つたといふべきである。

爾後三世紀間、秘露は全然西班牙の秘露であつた。そして土人は奴隸の境遇に居らなければならなかつた。次いで佛蘭西革命に依つて傳播された思想、北米合衆國

の奴隸開放等は西班牙本國を大に困憊の淵に落した。加ふるに彼等西班牙人は、羅甸民族の通弊として、互久策を樹つることに失敗した。即ち驕つた彼等は、植民地

の積極的政策を取らないで、唯或る物を獲さへすれば宜しい主義になつて仕舞つた。而して其の結果、此の秘露も亦一八二二年サン・マルティンが、西班牙の勢力を掃蕩

して、國都里馬市に第一次立憲議會を開くに至つた。

一八七九年より以降四箇年半、秘露は智利と戦争を交へたが、連戦連敗の姿で、一八八三年講和條約を締結して智利に無盡藏の硝石地帯たる「タラバカー」を永久に割譲し、且つ「タクナ」、「アリカ」を十年間占領されることになつたが、智利では未だ今日に於いても此二州を還附せぬ所を見れば、結局は秘露から失はるべき者であらう。其の後先づ國內昌平の日が續いたが、昨年紛擾が起つて以來、何分にも騒がしい状態にあるのは、早晚落着を見るであらうが、面白からぬ事である。

第三 交通と都市

一 交通

鐵道

一八四八年建設されたのを起源とする。此の線は、延長十四「キロメートル」足らずで、首府里馬市と「カリヤオ」港とを連結するものであつた。一

九〇六年此の國には、延長二千二百キロメートルの鐵道が敷設されて居つた。其の中一千五百「キロメートル」は國有であつた。夫れが一九一一年には、總延長千六百五十六哩に達して居る。現在鐵道の大部分は、秘露舊公債の所持者で組織された「ペルー・ヴァン・コーポレーション」の占有經營する所である。そして此の權利は一九五六年迄繼續する。「カリヤオ」より「オロヤ」を経由し、アンデス山脈に於いて海拔一萬五千八百六十五呎の高所を通過して、「ウアンカーヨ」に達する中央線の如きは、其の工事の雄大にして奇抜なこと、恐らくは天下無類で、其の線中に六十五個の隧道と六十七個の鐵橋とが有る。

海運

太平洋及び「アマゾン」川よりするものとの二者あるが、港としては、無論太平洋面の「カリヤオ」港を推す。

一九〇五年「カリヤオ」港に出入した船舶數は、入船が一千四百三隻で九十一萬六千七百七十六噸を算し、出船が一千四百三十一隻で九十二萬二千四百二十二噸を示し

て居る。又一九〇六年の同港出入船舶を見るに、入船數は一千四百四十二隻で噸數一百一十一萬一千四百六十七噸を示し、出船數は一千四百四十八隻で噸數一百一十萬一千六十二噸を算する。

汽船航路は、太平洋汽船航海會社(英)、南亞米利加汽船會社(智利)、東洋汽船會社、「コスモス」線(獨)、「ローラン」線(獨)の如きが其の主なるもので、又英の「ブー」線、赤十字汽船會社の如きは、「アマゾン」に依る秘露の水利に貢獻して居る。

郵便

一九〇五年に於いて、秘露に在る郵便局は、其の數四百九十三個であつた。同年度に於ける秘露郵便局の經濟狀態を見るに、郵便切手、小包料、爲替料等を合計して五十八萬二千七百六十四圓餘の額を示して居る。

電信は、一九〇六年の頃、電線の延長五千十二「キロメートル」に達して居つた。此の國最初の電信は、一八六四年里馬「カリヤオ」間に架設されたのを嚆矢とする。又無線電信の設備もある。同じ年に於いて、電話線の國內にあるものは、八千四百

二十七「キロメートル」の延長を有して居つた。

二都市

里馬、「カリヤオ」を始めとして、「アレキープ」、「ピスコ」、「モリエンド」、「イカ」、「パイタ」、「ピウラ」、「チンボータ」、「セロ・アスール」、「スーペ」、「バカスマーヨ」、「クスコ」、「イキートス」等は主なる都市である。

首府里馬市は、米大洲の發見後凡そ半世紀の頃即ち一五三五年一月十八日、「インカ」帝國の征服者なるフランシスコ・ピサロが、當時西班牙の南米大陸に於ける統治上の中心たらしむべく、此の都市を建設したのが起源である。里馬は、夏は滾々たる水を湛ふるも冬は一細流に過ぎない「リマック」川に臨んで、太平洋の水を離るること僅かに數哩、「アンデス」山脈中の一峰たる「サン・クリストバル」山麓に地を占める。此の邊の地は一帶に太平洋岸に於ける沃土の中心で、而も氣候は四時既ね

一樣、絶えず太平洋上よりの微風を受けて、永劫の春の地ともいふべきである。ビ
 サッロの此の地を選定したのは、誠に的中の成果を見た。其の建設後僅々數年にし
 て、里馬市は極めて重要な都市となり、殷賑當時に無比ともいふべく、多年「太平
 洋の眞珠」として知られて居つた。實際里馬は、其の建設當時より、「イベリヤ」半
 島(西班牙及葡萄牙)に於ける文明を其の儘移し植ゑた都丈けあつて、西班牙の特徴
 は、悉く收めて此の都に在つたのである。十六世紀の末葉、里馬市は凡そ一萬五
 千の人口を有するに過ぎなかつたが、現時は凡そ十五萬の人口を有して居る。加之
 秘露の首府であるから、社會百般の中心として、其の機關の備はらぬは無い。斯の
 如き史的都市であるが故に、名所舊跡は分けても多いのである。其の他建築物の如
 きも、枚舉に遑無い。里馬から「カリヤオ」には、汽車、電車の交通があつて、二三
 十分にして自由に往來が出来る。「カリヤオ」の里馬に於けるは、丁度横濱の東京に
 於ける如きものである。

カリヤオ市は、南米太平洋岸に於ける無二の要港であつて、此の國第一の港である。灣入大にして、「ラ・プンタ」の岬角、「サン・ロレンソ」及び「フロントン」諸島を控へて居る爲めに、激しい南風を受けない。里馬市の建設後、直ぐに開かれた所で、爾後漸次膨大するに至つた。一七四六年有名な大震災が起つた際、不幸にして「カリヤオ」は殆んど全滅したが、其の後幾何も無くして再興されたのである。されば現時の「カリヤオ」は、震災前の面影は何處にも留めて居らないのである。人口凡そ三萬五千、首府里馬市とは僅かに入哩の距離を有するに過ぎない。港内には立派な棧橋があり、一ヶ年四五十萬噸の貨物を吞吐する。統計の示す所に依れば、一九〇八年以降一九一二年迄の五ヶ年間に、此の港が吞吐した貨物は、總計二百五十八萬一千九十噸に上つて居る。

第四 農業

各種の氣候といふ氣候を併有して居る秘露は、農産物の上にも大なる變化を有するのとは偶然ではない。赤道地方の熱帶的産物を産出すると同時に、歐羅巴や北亞米利加合衆國邊の農産物を出すのは、秘露の特徴とする所である。實際其の豊富な農産物の種類に至つては、秘露の地其の物は、一大農産物展覽會場である。然し之れは、唯氣候の變化に因るばかりでは無く、地質の然らしむる所もあることといふ迄もない。

特殊の秘露風土記や山嶽誌に依つて觀るに、秘露の農業分布は次の如き三大部分に區分される。

- (一) 甘蔗、棉花地方
- (二) 穀物地方
- (三) 護謨地方

右の三大部分中、現在に於ては海岸地方が最も農業の開發に便利で、且又最も廣

大なる地域を有して居る。海岸地方とは甘蔗、棉花地方にして、其の氣候は既に氣候の部に記述された通り、大體に於いて降雨無く、よし有つても唯土地を濕するといふに止まつて居るが、而も其の地味は、土壤より成る砂漠地方とさへいはれて居る程である。但し農業に適當なるは、其の峽谷地方即ち山と山との低地に水流を控へた地方に限るのは勿論である。而して其の一定不變の氣候なる者が、一方に於いては農産物の定收を確保すると同時に、他方に於いて氣候不順な地方の農作者が必然的に味ふ經營上の悲惨な努力を全然無用に歸せしめつゝある。如上の天恵よりして、秘露の海岸地方は、「ナイル」の氾濫が恵む埃及の夫れの如く、實際上再收穫の條件を完全に具備して居る。

(二)の穀物地方は、中央の平原及臺地々方にして、各種の穀類及塊根類を産し、且又天然の飼料に豊富なるが爲め、生畜の飼養に至極適當である。地味としては海岸地帯の夫れよりは落ちて居るが、人工的灌漑の出来る部分は極めて生産力に富んで

居るのである。

(三)の護謨地方は森林臺地の廣大な地區であつて、秘露に於ける眞の熱帶地は、唯此の地方のみである。而して地味は豐饒意想外なる厚き植物帶の土壤より成つて、平均海拔五百「メートル」の高地である。奔流到る處に散在して、其の合するや立派な河川となり、以て河川の大王たる「アマゾン」の巨流に注入する。此の地方に於ける天然の富は、蓋し其の法外なること、容易に信も措けない程である。而して唯此の地方に不足せるものは、資本と勞力を措いては何物も無いのであるから、心身鐵石の如き男子等が、孜孜として之に獻身的の従事を企てたならば、夫れこそ鬼に金棒の典型となつて、定めし破天荒の痛快事が仕上げられよう。而も之れは實に農業者の場合のみではなく、商人の如きにも大に開放された自由である。實際他日交通の便が、此の地方に及ぶの日には、無數の住植民を吸収すると同時に、農産物の産出も恐らくは現在に五倍、十倍の發展を來すことであらう。

農業不振の原因

觀じ來れば、秘露の農業なるものは、斯の如き豐饒無比のものであるが、遺憾千萬にも未だ十分の開發を見ない状態である。然らば此の事の因つて來る原因は、畢竟那邊に存するかといふ事は、決して閑却す可からざる問題である。即ち、勞働者の不足と其の懶惰性とは延いて本邦人の移民を誘致する所以となり（勞働賃銀は最低一圓二十錢）、高低甚だしき地勢は交通の不便を來し、尙肝要至極なる水利を缺くさへあるに、國人一般が農業上の知識に乏しい等は、即ち當然の結果を生むのであらう。

政府の農業獎勵

天然斯くの如く秘露を惠むものあるにも拘はらず、如上の理由よりして、兎角に振はざる此の國の農業は、同國の政府に於いても夙に留意する所で、近時愈々眞面目な研究を獎勵しつつある。即ち政府は、灌漑技師の招聘を爲すと同時に灌漑獎勵に關する法律を發布し、農學校、農事試驗場を設置し、或は巡回講話を行ひ、尙印刷物を配付し、其の上種子の配付をも爲して、

銳意其の農業の開発に努めて居る。

重要農産物

其の種類實に多々ある中に於いて、重要農産物を列擧して、此に少しく解説を下せば次の如くである。

(一) 甘蔗 氣候の上からしても、土地の上からしても、秘露程甘蔗の培養に適當した國は到底ない。殊に其の海岸地方は、其の最たる地方で、實に此の國に於ける斯業の中心地である。

甘蔗は、海岸地方の一帯に亘り、「アンデス」地方は深い峡谷の地に培養され、「モンターニャ」地方にも亦普及されて居る程で、何といつても此の國に於ける農産物の主位を占めて居る。善く培養された甘蔗は、一割四分の砂糖を含み、平均一「エクタレア」(二・四七「エーカー」)につき九千「キログラム」の砂糖を産出する。此の割合は、恐らく世界無比といふべきであらう。而も機械の改善、製法の改良等にして將來があるとしたならば、此の割合も亦飽く迄それに伴つて上進すべきは勿論の事である。

ある。而も此の國の砂糖は、決して精製せらるゝことなく、通常九十六度より九十度^どの糖分^{たんぶん}を有^{いう}して居^ゐる。

海岸地方^{かいがんちほう}の甘蔗^{かんしょ}の植^うゑ込まれて居^ゐる地方は、其の峽谷^{けふくち}地方であつて、特に其の重要^{えう}なるは、北部^{ほくぶ}の「ラ・リベルタッド」及び「ランバエーケ」の二州^{しゅう}である。分^わけても前者^{ぜん}は栽培^{さいばい}地區^{ちきう}の龐大^{ぼうだい}、絶大^{ぜつだい}の生産力^{せいさんりき}及び勞働者^{らうどうしゃ}の多數^{たすう}なる點^{てん}に於^おて、遙^{はるか}に他地方^{たちほう}に傑出^{けつしゅつ}して居^ゐる。そして一般^{いぱん}に甘蔗^{かんしょ}の栽培^{さいばい}されて居^ゐる地方は、非常^{ひじょう}に大規模^{だいきぼ}であるからして、各自專用^{かくじせんよう}の汽車^{きしや}を動^{うご}かし、倉庫^{そうこ}を具備^{きうび}して、輸出^{ゆしゅつかう}港^{かう}への直接輸出^{ちかぎせつゆしゅつ}を企圖^{きと}して居^ゐる。

秘露^{ペルー}に於^おける砂糖^{さとう}の全產額^{ぜんさんがく}は、平均^{へいきん}毎年^{まいねん}千六百萬圓^{まんゐん}にして、一九〇五年^{ねん}に於^おける各種^{かくしゆ}砂糖^{さとう}の總產出高^{そうさんしゅつたか}は、一億^{いっく}六千一百八十五萬^{まん}九百三十五「メトリック」噸^{とん}で、其^その中^{うち}一億^{いっく}三千四百三十四萬^{まん}四千二百一「メトリック」噸^{とん}は輸出^{ゆしゅつかう}されたのであるから、國內消費^{ないせうひ}は殘餘^{ざんよ}の二千七百五十萬^{まん}六千七百三十四「メトリック」噸^{とん}となる。

(二) 棉花 甘蔗に次げる地位を農業上占めて居る。棉花の此の國に於ける起源を

考へて見るに、恐らくは往古も大分の往古に屬するらしい。而して夫れは此の國の有史以前の人類の古墳中より屢々發見される綿織物に依つて、明かに確證される所である。

棉花も亦甘蔗と同様に、海岸地方の地味を最適として、同地方の發達は他の何れより、遙かに進展して居る。

秘露の棉花は、其の種類を次の三者に分つ。即ち其の一は「ピウラ」地方に最も好果を收められて居る秘露棉で、其の生育期は六年にして、高さ平均四五米突に及ぶ。

宛然矯木の如く、到底日本内地の物ばかりに慣れた眼には、想像外である。此の棉花は、實に當國人の誇りとする所で、其の纖維は質強くして且つ長く、綿毛交織となす時は、其の良質であるが爲め、精密なる化學的分析を以てしても、容易に之れを發見することが困難だとさへ云はれて居る。

其の二は埃及棉で、海岸地方には到る處に成長する。生育期間は兩三年にして、一「メートル」乃至一「メートル」半の高さに及ぶ。

其の三は「シー・アイルランド」、「ミタフ・キフ」種で、其の栽培は大して普及されて居らず、「スーペ」、「ウアチヨ」等の峽谷地方に限られて居る。

一九〇五年に於ける此の國の棉花輸出高は、一萬七千三百八十六「メトリック」噸で、國內消費額は二千五百「メトリック」噸であつた。而して其の輸出は、大概歐洲に向つて爲され、其の額は實に産額の五分の四を占める。

秘露に於ける此の業の前途は實に洋々たるものである。而して其の將來が資本と勞力とに懸つて居ることは、甘蔗の場合と全然同一である。されば此の資本と勞力との遺憾なき供給あるの日、秘露の棉花は到底豫測し難き底の大發展を來すことは期して待つべしである。

(三) 護謨 千古の樹木鬱蒼と生ひ茂つた「アマゾン」流域の大森林地方には、永劫

の春の繁みが榮え誇つて居る。護謨樹は即ち、此の地方を覆ふばかりに、野生の儘で繁茂し切つて居るのである。殊に、「マドレ・デ・ディオス」、「マヌ」、「イナンバリ」、「タンボバータ」等の地方には護謨樹の大森林が誇り顔に存在して居る。

秘露に於ける護謨は、其の事業としては極めて幼稚なもので、錫崙、瓜哇、亞弗利加に於けるが如き化學的に成功を見ては居らぬ。即ち錫崙、瓜哇にては、「エクタレア」(英語のヘクテヤー)に就き五百本の護謨樹を植る付けて、五年目に採收するといふことであるが、此の方法を秘露に採用したならば蓋し大した事であらう。

事業の性質上同じく大資本と大勞力を要する爲め、會社組織を必要とし、其の主なるものを米人の「インカ」護謨會社及び「タンボバータ」護謨會社等とする。而して此等の會社は、熱心に秘露の富源開發に従事して居る。

秘露の政府では、又銳意森林地方の開拓を圖るが爲め、同地方は一「エクタレア」(我が三千歩弱)の土地を僅かに五圓にて賣却する。而も交通の不便と大資本の必要

との爲め、其の經營開發は容易ではないらしい。

一年の平均輸出額は約八百萬圓以上で、歐洲及び北米に向けて各半分宛程輸出される。

豐饒無比なる秘露の農産物中、此の護謨は實に砂糖、棉花に次いで、第三位を占める。

(四) 哥加 秘露及「ボリグキア」の溫暖なる峽谷地方に生ずる固有の植物である。

此の國の土人の如きは、古來哥加の葉の乾燥したものを咀嚼する習慣をもつて居た。

哥加は灌木として生ずるが、往々高さ六呎に及ぶことがある。主として「オテウス

コ」、「ウアマチューコ」、「ウアーヌコ」、「ウアンタ」、「タルマ」、「クスコ」等の諸州に培

養される。

栽培上の條件をいへば、海拔千米突乃至二千米突の高度を保つ峽谷の地で、氣溫

は攝氏十八度を降らず三十度を越えず、地質は粘土質にして多量の鐵分を含み、如

何なる種類の鹽類をも含有してはならない。

哥加の葉の蒐集は、一葉宛爲さねばならぬので、細心の注意を要する。且つ最初の收穫は制限されて居て、其の上に葉の質が悪い。然し其の後は毎年三四回確實なる收穫を上げることが出来る。葉の蒐集や保存は、兎に角微妙を要する仕事ゆゑ、不斷の注意は容易ではあるまいが、得て斯かる細心を要する底の仕事は、本邦人の最も長所とする處であるから、此の業は日本移民の着手して面白い事だと考へられる。事實上此の國の土人の食少くして而も長途の旅に堪へ、又激勞を平氣で済ます如きは、此の哥加の葉の效驗である。一般に軍隊に此の使用を普及させたならば、蓋し一方ならぬ利益とならう。兎に角哥加は右の如き強度の強壯劑である。

一八五九年墺人アルベルト・ミーマン氏が「コカイン」製作法を發明して以來、哥加の耕作は非常に旺盛となり出したのである。

一九〇五年秘露は、國內消費量を除いて、一百三十四萬一千「キログラム」を葉の

儘、又六千八百「キログラム」を「コカイン」にして輸出し、其の價額は合せて二百萬圓の上に出た。

(五) 珈琲 秘露の珈琲には澤山の種類があつて、其の品質は、世界最良と稱せられる丈に、香味好く、色澤優れ、他國の物に比して遙かに優秀である。

農業上の三地方は、何れも珈琲の栽培に適當するも、取り分け此の耕作に好果を收めて居る地方は、「モンターニャ」即ち森林臺地の地方である。海岸地方の「バカスマーヨ」、「モンターニャ」地方の「ウアヌーコ」、「チャンチャマーヨ」、「カラバーヤ」等を始め、「シエラ」即ち高山地方の「コキソング」等は此の國に於ける代表的の珈琲産地として重要至極な所である。

普通栽培の方法は、一「エクタレア」(二・四七「エーカー」)につき五百本の珈琲樹を植る付ければ、三年後に至りて、各樹は何れも半「キログラム」以上の珈琲を産出するに至る。

一九〇五年の輸出は一千二十八「メトリック」噸を示して居る。即ち此は國內の全消費を控除したものであるから、向後は漸次輸出額を増すことであらう。

(六) 米 此の穀物の栽培は、此の國に於いては可なりに古い歴史を有する。而して其の質は極めて良好で、「カロリナ」及び「ハマイカ」の兩種がある。唯其の缺點ともいふべきは、其の毎年の收穫高が、常に一定を缺くといふ一事に在る。而して之は、元より此の國の水利の缺陷に因るのであつて、まことに遺憾である。

毎年の平均產出高は先づ三千噸といふ所で、此を價額にしたら四十五萬磅即ち我が四百五十萬圓となる。

一九〇五年に於ける輸入は六十四萬一千九百六十二圓、輸出は四十六萬八千三百六十一圓を示して居る。

(七) 煙草 氣候は至極適當せるにも拘らず、其の發達が十分ではない。然し味の點は「ハバナ」物に比して遜色を見ないのである。培養製作上の知識が一般に向上さ

れたなら、相當に發展すべき筈だと思はれる。

一九〇五年には三十一萬二千二百六十六圓の輸出があつた。

(八) 小麥 海岸地方にのみ耕作されたものだが、近時高原地方にも及んで居る。

而も加州、埃國及智利より輸入されて居る。

其他、麥稈は小麥の出る地方に産出されて馬糧となり、玉蜀黍は主として土人の常食用となり、「キナ」は「アンデス」山中一萬三千尺以上の高地に生じて、貧民の食用に供せられ、馬鈴薯も同じく「アンデス」地方に出来るし、葡萄は海岸地方の低地に産出されて、爲めに醸造業を相當に發達させ、「オリヴ」も兎に角注意すべく、尙園藝には白桑樹といふ注意すべきものがあつて、此れより安價なる絹絲を製出することが出来るといふ便利なものである。

秘露に於ける生畜業なるものは、本來價值あるべき筈である。されば氣候上より分類された三大地方の何れにも普及を見て居るのは勿論で、夫れく其の地方に適當した家畜類が放飼されて居て、而も天然の飼料は殆ど無限と來て居るから、其の重要たり得るのは寧ろ當然である。

大體に於て、此の國の家畜は體軀が小さいので、或は歐米より或は亞國より改良種を輸入しつゝある。羊には土產のものと改良種との混種があるが、前者は殆ど顧るの價值を有して居らぬ。平均一頭二乃至三「キロ」の毛を生ずる。又羊の種類で、此の國特殊の動物たる「リヤマ」、「アルバカ」、「ヴェクリーニヤ」といふ動物が居る。「リヤマ」は採毛用たるは勿論で、同時に古來運輸用として盛んに使用されて居る。「アンデス」山中の如き交通の不便至極な地方に於いては、此の「リヤマ」を措けば、代

用せらるべき交通機關が存在して居らぬといつても宜しい。實際此上無き實用的動物である。

「アルパカ」は、其の毛は「リヤマ」の夫れよりは優つて、其の織物は主として夏洋服の料として世界的の需要を見て居る。

又「ヴィクローニヤ」は、「アルパカ」よりも更に卓越せる毛を有し、其の毛で作られた織物の如きは、非常な優良品として上流階級に賞美される。但し其の現存數が比較を許さぬ程に少ないから、其の織物が一層高價たる所以であらう。而して此等「リヤマ」、「アルパカ」、「ヴィクローニヤ」の三種の動物の毛より一年二百五十萬圓以上の收益を得るのであるから、有利といはざるを得ない。

一九〇五年に於ける秘露の輸出毛は、一百五十萬「キロ」であつた。

又豚は豚油を得るが爲めに飼育される。馬は主として亞國より輸入され、牛も改良中で、土産のものは殆ど見るに足りない。

題目は置いたものゝ、秘露の林業とは畢竟あるべくしてあらぬ一の事業である。蓋し豊饒他に類を求め難き森林地方が有るのであるから、本来ならば當然無比の發展を遂げて然るべきも、何分同地方は交通といふ點に全然缺けて居るから、即ち其の無盡藏の林富も未だ活用せらるべくもないのである。實際随分矛盾した話であるが、秘露に於ては鐵道に使用する枕木をさへ外國より輸入し、其の相場は一本一圓五十錢乃至一圓八十錢位である。而して一般の輸入は、之を瑞典、諾威、北米等に仰いで居るやうな始末である。

第六 鑛 業

秘露の大部分を占めて、其の地勢を日本の夫れよりも更に起伏甚だしきものたら

しめて居る「アンデス」山脈の爲めに、此の國は如何ばかりか交通の不便を嘗めて居ることであらう。けれども、この交通の不便を餘儀無くせしめた「アンデス」は、秘露に報いるに無盡藏の鑛利を以てして居る。而も其の鑛利たるや、尋常一樣のものでは無く、恐らくは其の缺を償ふに餘りあるとも言へる。自然こんな國情であるから、鑛業が農業を凌駕すべきを本來とする。歐米人等の此の國に對する注目が、主として鑛業に集まれるは、實際上下の理由に因るのである。従つて此の國に於ける鐵道の發達は、常に鑛利の在る所に従ふのである。

然らば斯の如き此の國の鑛利は、何人に依つて開發されて居るかといふに、元祖の西班牙人は反つて之に與からずして、歐米人が之に當つて居ることは、別して注意すべきことである。而して之は素より國民性の然らしむる所であるが、兎にも角にも歐米人が此の國の鑛業に力を注ぎ、其の產出を促進しつゝある割に、秘露の國土が開展せられざる所以のものは、要するに、北米等に見るが如く諸外國人の永主

歸化といふ事が無く、事業成功の曉に至れば續々歸國して了ふが爲め、事實上其の富が歐洲を賑はすやうな事になつて居るのである。

左に一九〇五年に於ける此の國の鑛產物一覽表を掲げて參考に供する。

一九〇五年秘露鑛產物一覽表

品 目

產 額

價 額

固形燃燒物

七五、三三八 メートル噸

一〇〇、〇〇〇

未製石油

四九、七〇〇

一一六、七九五

金

〇七八

一〇六、〇六二

銀

一九一五〇

七二九、四四四

銅

一二、二二三

七二五、九〇一

鉛

一、四七

六、一〇七

ビスマス

一二

五、〇〇〇

ニッケル

一、七七八

二五八

水銀

一、五五四

三四〇

鹽

二一、〇三九

二一、〇三八

ボレーツ

一、九五四

一七、五八六

總計

一六五、二五六二八

一、八二八、五三一

右に就いて見るが如く、秘露は元來銀、銅の國にして、之に次ぐものは石油である。

重要鑛產物

秘露の重要鑛產物は、右に掲げた表中の鑛物であるが、之に簡單なる解説を附して置く。

(一) 金

「アンデス」の西部地方を推し、原石の形成は銀、銅等を伴ひて産出され

る。砂金となつて産せられる場合も多い。

産地としては、海岸地方の「ナスカ」、「カマナー」、「アンデス」地方の「ウアーヌコ」

「アイマラエス」、「コタバンバ」、「バタス」及び「キスピカンチ」、又「モンターニヤ」地方の「アンディア」、「カラバーヤ」等を推し、此等は其の主要なるものである。

(二) 銀 アンデス山脈の到る處に於て、通常鉛或は銅と混淆して發見される。又別に「カスカッホ」と稱する光澤ある赤色の岸石を爲して發見される別種の銀がある。

銀の中心産地は、北部では「ウアルガヨック」、「サルポ」及び「カイエホーンサデ・ウアイラス」、中部では「カバタンボ」、「ウアロチリ」、「ヤウリ」、「セッロ・デ・パスコ」、「ウアリヤンカ」及び「カスト・ヴ・レイナ」、南部では「ルカーナス」、「カイリヨーマ」、「ランバ」及び「プーノ」等である。

(三) 銅 「アンデス」山脈の一帶に亘りて、多少の金、銀を含んで產出される。中心産地は、何といつても「セッロ・デ・パスコ」附近一帶の地である。其の他海岸地方の「チンボータ」、「イカ」及び「ローマス」等も其の主なる所である。

(四) 鉛 主として銀を含んだ方鉛礦の形で產出される。此の鑛脈の最たるものは、

「ヤウリ」、「ウアロチリ」、「チレット」、「バリヤスカ」、「ウアリ」、「レクアイ」及び「カーナス」等の地方に存在する。

(五) 水銀 「ウアンカヴエリカ」州の「サンタ・バルバラ」鑛は、此の國に於ける第一の水銀鑛にして、其の周圍三十哩に及び、「サンドストーン」及び「ライムストーン」の鑛床と併行して地下を走り、國中各所に於いて發見される。

(六) 錫 隣國「ボリヴキア」の「アンデス」山脈中に多量の產出を見るが、秘露には僅少の產あるのみである。而も「ボリヴキア」に接近した「プーノ」州に於ける「ウアンカネー」鑛の如きに產あるのみである。

(七) 鐵 「プーノ」、「ピウラ」の南州には大きな鑛床がある。然し鑛業上の價值は未だ見るべきものが無い。

(八) 鹽 各地に多量の產出があつて、其の種類も多様である。而して海岸地方に於ける乾燥せる其の大氣は、硝石、「マグネシア」等のいろいろの鹽類を形成せしむる。

(九) 石油 「ピウラ」、「テウンベス」及び「ブシ」等を中心產地とする。併しながら未だ大事業たるには至つて居ないが、之れ却つて此の事業の將來の知り難きを語るものであらう。

(十) 石炭 此の鑛床も確かに絶大なるものと思惟されて居るが、何分にも交通の關係等が、如何にも其の發達を阻碍して居る。其等幾多の此の鑛床中、工業上の見地からも偉大なるべきものは、「セツロ・デ・バスコ」附近の「グアリスキスカ」地方の夫れである。要するに秘露の石炭も將來の物にして、未だ此の國一般の需要を充たすに足らないのである。

政府の鑛業獎勵

斯くの如く殆ど將來にのみ待つべき秘露の鑛業は、考へ方に依つては非常に有利といふべきである。即ち此の事業に力を集注しさへすれば、地勢上困難は困難であらうが、必ず開發せらるべき運命を有して居るからである。

茲に於いてか、秘露の政府は、一八七六年鑛業學校を設立し、又其の翌一八七七年には鑛業條例を發布して、以て此の國の鑛業の發展を企圖して居る。

其の鑛業條例の要點は次の如きものである。

(1) 秘露の鑛業は外人に開放すること。

(2) 一九一五年迄は鑛産税及輸出税を徴收せず。

(3) 鑛業に必要な機械、石炭、其の他の原料には輸入税を免ず。

研究を進むれば進む程、秘露の鑛業の有利なることは確證される。而して問題は結局資本と勞力といふ事に歸するのであるから、其れを爲すには夫れだけの準備と覺悟とを有すれば可なりといふことは、既に一般の定評である。

第七 商工業

秘露の此の事業は、實際上秘露人の事業ではなく、外人の事業なりと評し得るの

である。之れ種々の要素に缺けたる結果ではあるが、如何の此の國の人間が、發展的事業に没交渉で居られるかい窺はれるではあるまいか。

此の國の此の事業に従事して居る外國人には英、米、獨、佛、伊、支那及び本邦人等がある。英人は多くは大口物のみを取扱ひ、決して小口物に指を染めず、米人は鑛山業、鐵道業等の如き大事業に好んで従事し、獨人は各種の小事業にも熱心にして宛然雜貨大王の觀を有し、佛人は贅澤物や婦人向の物を獨占し、伊國人は無資産より身を起して著々成功の域に進み、支那人亦勤勉努力して大小の商業を經營し、本邦商の由々しき商敵である。而して本邦商は僅に三四軒の商店を數ふるのみで、相當の賣行はあつても、同國の商業上より見れば全然論ずるに足らない。

重要商工業品

左に其の重要な品目を擧げて、各自に解説を下さう。

(一) 生絲 氣候其ものが適當して居るが爲め、政府は銳意之れ

に力を注ぎ、日本及び伊太利より桑樹を移植したり、或は此に關する勅令を發布し

たりして、盛んに獎勵策を講じつゝある。加之此の國に於ては蠶病が皆無であるから、其の點より觀ても養蠶、製絲業には發達を來すべき國である。然し此の國の土人は、其の性質が由來怠惰で、勞働には適當して居らぬ。即ち此の業に掛けてのお師匠たる日本人、伊太利人が此國に渡航して此の業に當つたならば、大に面白い事と思ふ。唯目下の處、生絲の大輸入は、秘露の購買力の點より考ふるも、到底不可能な事である。

(二) 絹布 需要者は概ね白人にして、而も白人五十萬中の女子二十五萬を數ふるに過ぎない。だから此の輸入は多額のものではなく、一九〇五年には五十八萬圓の輸入があつた丈けである。中我が國よりは羽二重九十一斤其の價九百八十七圓といふもの丈けが統計に見えて居るが、思ふに墨西哥の場合に於けると同様に、再輸入を他國に致されて居るが爲めであらう。

輸入向の羽二重は輕目物に限られ、六七夕以上の物は絶対に不向である。要する

に購買力の乏しい結果、一般に安物買を傾向とする。

羽二重に對する關稅は、一「キロ」三十二圓の法定價格に對し百分の四十の稅率になつて居る。

(三) 絹製手巾及絹製着物 絹製手巾は羽二重よりも賣行きが善いが、購買力の關係上、墨西哥程には行かない。而して本邦に於て一「ダース」三四圓位の物が、十二三圓に賣却されるのを普通とする。

絹製手巾に對する關稅は、一「キロ」二十五圓の法定價格に對して百分の四十の稅率を課するのである。

我が國よりの此等の輸入は、統計上矢張り見るべきものもないが、實際は諸外國の商品として輸入され、又は再輸入される爲めなのは、無論の事と考へられる。

(四) 花蒔 本邦品は支那品と競争の狀態にある。然し秘露人は、元來唯外形の美をのみ好んで、質の如何は餘り眼中に置かないから、脆弱な本邦品も非難を招かな

いやうな傾向を示して居る。

その輸入額は、目下の處需要に限りがある爲め、約二千圓程で、本邦人及び支那人の獨占事業である。

花蒔に對する關稅は、一「キロ」三十錢の法定價格に對し百分の四十を課稅して居る。

(五) 綿製品 原料たる棉花が豊富であるにも拘らず、紡績業が幼稚極まるから、反て其の原料を外國より需要し其の加工品を輸入して居る狀態に在る。而して其の輸入は年額六百萬圓以上で、英國が此の商權を掌握して居る。需要の半以上は白人向きで、土人向の物は獨逸人が之に當り、何れも加工染色品である。

一「キロ」の法定價格は一圓二十錢にして、百分の四十の稅率が課せられる。

(六) 陶磁器 實用品は歐洲より輸入せられ、年額百萬圓を越える。着色の珍奇な品物は、原價の十倍を以てしても猶且盛んなる賣行きがあるが、斯の如きは永遠の

道ではなく、要するに實用品の競争に入ることが出来て、茲に始めて大なる發展ありといふべしである。而して此の國の人間の陶磁器に對する鑑賞眼は、至つて低級なものであるから、高價なる品物は到底見込みが無いことは知つて置き度い。

關稅は一「キロ」六十錢の法定價格に對し百分の四十の稅率である。

(七) 漆器、銅器 静岡製の安物等が輸入され、原價の五六倍に賣却されても、猶相當の賣行を見る。

氣候の關係上、秘露には暖爐の設備を必要としない爲め、漆器に龜裂を生ずる憂ひがない。即ち北米に於いて蒙る此の非難は、此の國に於いては見られないのである。然し獨逸製の安物が盛んに輸入されるから、由々しき敵として警戒を要する。

漆器の關稅は一「キロ」一圓六十錢の法定價格に對して百分の四十、又銅器は一「キロ」三圓の法定價格の百分の四十といふ稅率である。

(八) 石炭 見込みは十分他日に待てるが、今日の所では自國の需要にも充たない。

從つて英國や濠洲邊より年額二百萬圓の輸入を仰いで居る。我が國より帆船を以て輸入すれば、年二回の航海は確實に出來て、相等な事業とならう。但し之には周到なる注意と精密なる調査とを絶對に必要とする。

(九) 木材 「アンデス」以西の森林の富は、蓋し意想外であるが、交通の不完全といふ點よりして、一切瑞典、諾威、北米等に供給を仰いで居る。輸送力の問題如何に依つては、我が國よりも輸入し得るのである。

次に秘露に在住して本邦品の輸入販賣に従事して居る本邦人を舉れば、其は數僅かに左の數氏に留まる。

- (1) 橘谷商會(橘谷精熊)
- (2) 森本商會(森本市太郎)
- (3) 大和商會(大和宇三郎)
- (4) 工藤商會(工藤金司)

而して何れも相當の店舗を張つて、雜貨の販賣に従事して居る。

其の他支那人の經營する商店が數軒あつて、亦日本品を取扱つて居るから、これも本邦商に取つては由々しい商敵といはざるを得ない。

關稅制度

秘露の關稅制度は、保護主義と收入主義との合併したもので、頗る高率なものである。

國情の上から行けば、鑛業と交通業とを最も有利なものとするが、石炭と水力といふ二大要素に缺けて居るから、結局未だ盛大とならない。其の上南米諸國に共通なる勞力の不足は元よりである。即ち其の結果、其の高率なる關稅は、徒に物價の騰貴を促し、延いて其の他の弊害を醸して居るやうである。

秘露に於ける「キロ」幾何といふのは、何れも秘露に於ける市價を標準とした法定價格であつて、年々多少の變動はあるらしい。而して法定價格は、元より物に依つて異なるから、或る種の物品が、關稅規定中の他の物に該當すると認められると、

之れが爲め思はぬ損失を招くことがある。殊に税關訴願の無い此の國では、一旦納付した税金は、如何なる場合にも返付された例を聞かない。何しろ十分注意すべき事である。

工業不振の原因

秘露は工業國として發達すべき見込は、實際上缺けて居るやうである。即ち、土人労働者の怠惰、水力及び石炭の不足、交通の不便、原料品の開發不十分なること、資本及勞力の缺乏及び工業その者よりも交通業の方有利なること等が其の原因を爲して居る。

重要工業品

秘露の重要工業品は、砂糖工業、棉花工業、護謨工業を最たるものとして、纖維工業、春蠶及絹織物業、製粉業、帽子製造業、コカイン製造業、釀造業、燐寸工業等である。而して其の最も重要な砂糖、棉花及び護謨等に關する説明は、簡單ながら既に農業の項に述べて置いた。

第八 貿易

最近の輸出入

一九〇二年に於て三千四百二十八萬圓の輸入、三千七百四萬圓の輸出、即ち合計七千三百三十二萬圓の輸出入額を有して居つた秘露は、其の後一九〇五年に至りて、輸入は四千三百二十九萬圓となり、輸出は五千七百五十七萬圓となつて、其の輸出入總計を一億八十六萬圓といふ數字に迄漕ぎ付けた。而して爾後益々秘露の貿易が順潮なることは、左に擧げる一九〇八年以降一九一二年に至る最近五ヶ年間の輸出入に就いて、其の一斑を知るに難くあるまいと思ふ。

年 次

輸

入

輸

出

一九〇八年

五、三一、九七三

五、四七八、九四一

一九〇九年

四、二九八、六二七

六、四九二、六七一

一九一〇年

四、九八〇、六九七

七、〇七四、〇七六

一九一一年

五、四三八、二四七

七、四二二、〇二七

一九一二年

五、一五七、六八六

九、四三八、五八一

即ち右の五ヶ年の各年の合計は、次の如くである。

年次

輸出入合計

一九〇八年

一〇、七九〇、九一四

一九〇九年

一〇、七九一、二九八

一九一〇年

一二、〇五四、七七三

一九一一年

一二、八六〇、二七四

一九一二年

一四、五九六、二六七

而して右五ヶ年間の輸入、輸出及び輸出入合計を更に累計すれば、結局左の如き數字となる。

一九〇八——一二年の輸入總計

二五、一八七、二三〇

同上

輸出總計

三五、九〇六、二九六

同上

輸出入總計

六一、〇九三、五二六

即ち秘露の貿易は、一九〇八年より一九一二年の五ケ年間の總計に於て、輸出總計三千五百九十萬六千二百九十六磅が、輸入總計二千五百十八萬七千二百三十磅を超過すること一千七十一萬九千六十六磅なるを知ることが出来る。之れが最近の貿易である。

一九一二年秘露に輸入を爲した諸國の主なるものを表解すれば次の如くである。

國名

輸 入 額

英 吉 利

一、一九八、六三二

北米合衆國

一、一〇五、七四九

獨 逸

八二〇、八八七

佛 蘭 西

二六九、三三一

伊太利

二五三、七九七

白耳義

二四五、二七八

奧太利

二三九、五五八

智利

一九五、七〇六

支那

一五三、六七五

其他の諸國

二一九、九四三

合計

四、七〇二、五五六

尙之に「イキートス」税關の取扱に係る、四十五萬五千一百三十磅の數字を加ふれば、總計に於て秘露の一九一二年の輸入額は、五百十五萬七千六百八十六磅となつて、前出の表中に見るが如きものとなる。

同じく一九〇八年より一九一二年の五ヶ年に於ける秘露の輸出は、次の如き數字

年 次

一九〇八年

輸出額 五、一〇二、一一六

一九〇九年

輸出額 六、二四三、〇六〇

一九一〇年

輸出額 六、七七八、二八九

一九一一年

輸出額 七、〇八九、五五六

一九一二年

輸出額 七、八三一、一七二

合計

輸出額 三三、〇四四、一九三

而して此の五ヶ年間の輸出總計たる三千三百四萬四千一百九十三磅といふ數字を
品別にすれば左の表を得るである。

品 目

輸 出 額

棉花等

五、三三一、〇九九

砂糖

六、五五六、一五四

護謨等

四、八七〇、一四九

金屬類

五、七七一、六三八

鑛產物

三、五〇〇、七四二

羊毛

一、九六三、八三二

鳥糞

一、〇三四、八一四

石油等

一、五一一、九二四

獸皮革

六〇二、九四一

コカイ

二九一、三二一

米

二九三、七〇一

珈琲

一三八、二六九

帽子

一、一七七、六〇九

合計

三三、〇四四、一九三

重要輸出入品

次に記す如くである。

(一) 重要輸出入品 一九〇五年の輸入額は四千三百二十九萬圓であるが、其の中の重要輸入品及び其の各が占むる數字を先づ研究して見たい。

(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
藥	木	機	石	毛	小	綿	礦物及金屬
料	材	械	炭	布	麥	布	
	類	類					
一三〇	一五七	一六四	一七五	二二三	二八七	六一二	九四八

萬圓

出品は、次の數字を示す。

(二)

重要輸出品 同年度の輸出額は、五千七百五十七萬圓にして、其の中重要輸

(10) 紙 類

(9) 陶 磁 器

一〇六

一二七

(1) 砂 糖

一、八三三
萬圓

(2) 鑛物及金屬

一、〇七七

(3) 護謨及樹脂

九一三

(4) 羊 毛

四八一

(5) 棉 花

四一二

(6) 鳥 糞

二八五

(7) 獸皮革類

一四二

(8) 腹方「コカイシ」

一一六

而して又諸大陸に於ける代表的諸國よりの一九〇五年度の輸出入を百分比例に示せば、左の如き表となる。

(一) 輸入の百分比例

洲名及國名

輸 入 額

百分比例

亞米利加洲

北米合衆國

七、〇五四、九五五_円

一六・二七

智 利

二、四六九、八〇〇

五・七五

歐羅巴洲

英 吉 利

一五、四二二、四七一_円

三五・六二

獨 逸

六、七四一、六〇〇

一五・五六

佛 蘭 西

二、五七四、八三三

五・九五

亞細亞洲

(二)

輸出の百分比例

合計

其他諸國

日本

之那

洲名及國名

亞米利加洲

北米合衆國

智利

歐羅巴洲

英吉利

獨逸

輸出額

四三、二九一、五一〇

八、九四七、六一三

一九、六五八

六〇、五七七

五、三〇三、七八二_円

八、〇二八、四七八

二九、九一一、一八四_円

四、〇二三、一五〇

百分比例

一〇〇・〇〇

二〇・六七

〇・〇四

〇・一四

九・二一

一二・九五

五一・九五

六・九九

佛 蘭 西

三、六九七、五二三

六・四二

亞細亞洲

支 那

日 本

二三九

其他諸國

六、六〇八、四八五

一一・四八

合 計

五七、五七三、五〇六

一〇〇・〇〇

日秘貿易

未だ今日の所では微々たること、凡そ右の百分比例の表中に見るが如く、何にしても當事者の覺醒を特に必要とするのである。而して新人

の挺身的努力を渴望するのである。

抑々日秘貿易の將來は、之を積極的方面より觀察すれば、先づ秘露より砂糖、棉

花、毛類、獸皮革類、鑛物、鳥糞等を我が國に輸入すべく、我が國よりは綿製品、

麻製品、木材及同製品、絹製品、乾魚類、罐詰類、藁細工品、花蒔、魚油等を此の

國に輸入すべきである。然し消極的の見地よりすれば、高率なる關稅、密輸入の取締、購買力の薄弱、英獨人の跋扈及び當國官廳官吏の不規則なる事等は容易ならざる問題である。然しながら更に容易ならざる問題は、要するに發展的人物を俟つに在ること論ずる迄もない。

第二章 智利

第一 風土

位置

智利共和國は、南米大陸の西海岸に位し、太平洋の水に全延長の左岸を洗はれ、右は「アンデス」の大山脈に依つて縫はれて居る。又北は秘露に境し、東は亞爾然丁に接し、北東は「ボリヴア」と境界を保ち、南端も亦太平洋の水を控えて、其の地域は、南緯十七度五十七分より同五十六度迄の地點に亘つて、世

界に又と比を見ざる狹長な地帯を形成して居る。其の延長は、實に三十八度即ち二千八百哩に亙り、其の幅は、所に依つて多少の相違は有るが、凡そ七十哩乃至百八十哩にして、最も廣き部分は二百五十哩に及んで居る。

而して智利の面積は、三十萬七千六百二十平方哩ある。即ち獨逸、白耳義、丁抹、和蘭、瑞西を合併したる面積に相當するのである。

地勢

天然上智利は、完全なる四部分に區劃されて居る。即ち左に記すが如くである。

第一地帯即ち沙漠地方 南緯十八度より同二十七度に亙る「アタカーマ」沙漠地方の謂で、無盡藏なる硝石脈が存在して居る。此の地方には、降雨を見ることが稀である。従つて河川少く僅に細流有るのみである。

第二地帯即ち礦物地方 南緯二十七度以南同三十二度に亙る地方で、其の產出する礦物には、銀、銅、鐵、「ニツケル」、「コバルト」其の他がある。少しく傾斜せる廣

野は、地味豊沃にして、灌漑の便があるから、農業にも適當である。

第三地帯即ち農業地方

南緯三十二度より同四十三度半に及ぶ地域であつて、即ち

智利の中部である。「アンデス」は此の地帯に於ては、其の高度が餘程緩和されて

居る。此の農業地帯は、海岸に接した部分にも亦山脈を有し、丁度其の隆起と背後

なる大隆起との中間に介在して、極めて豊饒な峽谷を成し、そして其の地方を航行

し得べき無數の河川が東西に走つて、動力上にも偉大な効果を提供して居る。氣候

も此の地方が最も穩かで、南方に寄れば寄る程降雨と植物とを増して居る。彼の「ロ

ビンソン・クルーソー」で人口に膾炙されて居る「ファン・フェルナンデス」島は、此

の地方の沖合遙に在るのである。

第四地帯即ち島嶼地方

南緯四十三度半より同五十七度に達する地方であつて、

木材及漁業地方ともいふ。此の地方に入れば、地勢は漸次降下し、海岸に沿うて走

る山脈は即ち變じて一群の島嶼を形成する。豪雨は四時殺到して瀑布の如く、處女

林は蔚鬱として生ひ繁り、其の間には無數の家畜を放飼することが出来る。而して又沿海には、魚介の産出頗る饒多である。河川の多きことは百二十餘條にも及び、而も殆ど其の半數は、海へと直流するので、灌漑の便は自然に多い。そして舟楫の便ある河川も、其の數凡そ十條ある。

氣候

地勢狹長にして、緯度數に富むこと無比なるが故に、氣候も從つて一樣ではない。北部の熱帶圈内の地方は、乾燥して暑氣が強く、中部地方にありては、溫暖にして、冬季に稍や雨を見る。更に南下して南部地方に至れば、氣候は寒冷にして雨量夥しく、暴風雨も珍らしくはない。北部地方の最高溫度は華氏九十一度で、南部地方の最低溫度は同十七度である。而して中部地方にある首府「サンティヤゴ」の平均溫度は華氏五十六度を示して居る。而して海岸は、西及南西の風が多い。

智利の春は九月末に始まり、夏は十二月に始まり、秋は四月に、そして冬は六月

に始まるのである。

住民

凡そ三百五十萬の人口であるが、秘露とは異なり、西班牙占領時代の初より土人の種族は頑強に抵抗を續け、常に其の獨立擁護の爲めに孤立して戦闘して居つたが爲め、西班牙人と土人との混血兒は極めて少ない。一人の土人も居らぬといふのが智利人の誇つて居るところで、事實此の國に於いて混血種を目撃することは誠に稀である。

面積上南米諸國中第六位を占むる智利は、秘露と同様に一と通りならぬ山國で、人類の棲息し得る地方は、海岸山脈と「アンデス」山脈との中間の平地のみである。而かも人口の稠密した地方は、此の國を北部、中部、南部の三部に分けた時、其の中部地方であつて、首府「サンティヤゴ」及び智利の横濱たる「ヴァルパライソ」の如き此の國の大都市は、何れも此の地方に在るのである。

而して此の國の一平方哩の人口率は、凡そ十一人に當るのである。

此の國の生業は、農業を首位とし、鑛業を之に次ぐ物とするから、住民の過半は、農業に従事する。而して耕作法は大農主義で、大地主は多くの動産、不動産を有して、宛然王侯の如くである。

北米合衆國に於いては、一人にて千「エーカー」の耕地を有する者は、僅かに三萬何千人といふことであるが、此の國に於いては、千「エーカー」の田畑を有するのみでは大農家の列に加はることが出来ない。

本邦人の此の國に在留する者は、其の數三百に満たない程である。

共和政體の國であつて、國會は元老院と代議院とに分れ、元老院議員の任期は六年で、代議院議員の方は任期が三年である。選舉權は既婚者は滿二

十一歳だが、未婚男子は滿二十五歳に達して居らねばならぬ。而して大統領は任期を五年として、再選を許されない。

智利人は一般に政事を論ずる傾向がある。そして其の政黨には保守と自由との二

黨派があつて、前者には僧侶及び上流人士が屬して勢力があり、後者は黨員の多數を網羅して、進歩を標榜し、國民一般の地位を高めるのを目的として居る。

宗教

羅甸民族の常として、舊教が一般の宗教となつて居る。教育のある階級には決して宗教と政治との混同されることがない。

智利人は一般に日曜日以外には教會に出入しない。而して婦人は教會に出入するのに、常に黒衣を纏うて居る。

此の國の教會は財産豊富であつて、動産、不動産を所有することはなかくに多い。

第二 史 要

「インカ」帝國の一部であつた事は秘露と一つであつたが、十六世紀の末葉に至りアルマグロが秘露より此の國に遠征を試み、其の後軍人ヴァルデイピアは此の國を征服して、首府「サンティヤゴ」を建設し、而して此の國最初の總督となつた。同市

には現時彼の石像があつて、其の功績を語つて居る。

征服後數百年間此の國の歴史は、大概征服者と土人との争闘に過ぎなかつたが、

佛蘭西革命と北米の獨立とは、即ち智利にも其の影響を齎した。而してサン・マル

チンは、一八一七年「サンティヤゴ」に攻め入つて、西班牙軍を破り、遂に獨立を宣言

するに至つた。次いで一八七九年「ボリヴア」との境界問題より、秘露、「ボリヴキ

ア」の兩國と開戦し、兩國の聯合軍を撃破して、一八八三年「ボリヴア」をしてそ

の沿海領土を擧げて割讓せしめ、同時に秘露をして「タラバカー」及「アントファガ

スタ」を割かしめ、其の結果無盡藏の硝石地帯は永久に此の國の有に歸したのである。

歐洲文明の此の國に輸入されて居ることは、可なり根蒂が深い。但し教育の點

に至つては未だして、國人は一般に外觀を飾ることが夥しいものである。

序ながら、此の國に於て、憲法の制定を始めて見たのは、一八三三年であつて、

現行のものはこれに多少の改訂したものに過ぎぬ。

第三 交通と都市

一 交通

鐵道

智利の鐵道は、官有と私有とに分たれて居る。一九一二年末月の調査に依れば、延長六千百十八「キロメートル」を有し、敷設中のものは三千二十「キロメートル」の長さを有する。此の中官有線は、既設の分三千百二十五「キロメートル」、敷設中の分二千五百七十五「キロメートル」で、私有線は、既設の分二千九百九十三「キロメートル」、敷設中の分四百五十五「キロメートル」である。

一九一二年國有鐵道は旅客一千二百十八萬七千八百七名、荷物四百九十一萬四千六十六噸此の收入四百九十三萬九千一百九十八磅の成績を示した。而し私有鐵道の方は一九一一年旅客一百六十萬名、荷物四百七十萬噸此の收入一百九十一萬三千磅といふ成績であつた。

構していへば、智利の鐵道は、北部に於いては硝石地に對する交通の爲めに建設され、南部及中央部に於いては先づ農産物運輸の爲めに敷設されたものである。

「アンデス」横斷鐵道は、此の國の「ヴァルバライソ」より、「アンデス」の大山脈を横斷し、僅々四十時間に滿たぬ時間で、亞爾然丁共和國の首府「プエノス・アイレス」に至らしめる。

海運

一九〇五年を標準とすれば、輸出入に於いて、日本の約三分の一の國ではあるが、出入船舶の數に於いては、大體上我が國と大差が無く、毎年千五百萬噸に上つた。而して此の出入船舶數を重要諸港に分つて見ると、次のやうなことになる。

ヴァルバライソ

三、四二〇、〇〇〇

イ キ ケ

二、九四〇、〇〇〇

コ キ ン ボ

二、三四〇、〇〇〇

アントファガスタ

二、三〇〇、〇〇〇

又商船數の比較をみると、一九〇五年に於いて二十噸以上の汽船が、日本には千七百六十六隻其噸數七十九萬七千六百七十四噸であるのに、此の國には三十七隻其噸數二萬七千九百五十六噸といふ始末で、殆んど比較にもならぬ程である。即ち此の國が、秘露に比しては一頭地を抜いて居ても、事實に於いて其の航海權を外國人殊に英國人に掌握されて居る所以である。然し漸次積極的に航海上の利權回收を企圖しつゝあるのは、誠に結構な事である。

汽船の航路を有するは、太平洋汽船航海會社(英)、コスモス線(獨)、東洋汽船會社(日)、南米汽船會社(智)、ローラン線(獨)等が其の主なるもので、盛んに海運上此の國に貢獻してゐる。

郵便

最近の調査に依れば、智利に於ける郵便局は、其の數一千一百四個に上り、國內収及の郵便數六千八百八十九萬二千二百三十八里、

便物四百四十九萬四千九百二十二個、國內小包料二百十萬二千二百十四「ペソ」(米貨一弗は智貨二・七七「ペソ」に當る)、外國送小包料七十四萬五千六十一「ペソ」に上つた。

電信は、官有と私有とに分れて居る。同じく最近の調査に準據すれば、官有に於いては局數三百五十七、局員一千二百二十三名、線の長さ一萬五千五十一「キロメートル」、發信二百四十五萬五千三百六十九個、受信二百四十五萬五千六百五十四個であり、私有のものに於いては局數一百三十二、局員五百七十九名、線の延長七千二百五十「キロメートル」、國內取扱の分一百五十四萬六千十八、國外取扱の分十二萬三千八百八十五を算する。

而し電話に至つては、私設會社に屬し、其の局數百六十九、線の延長三萬二千七百八十三「キロメートル」、局員一萬三千六十九名を算して居る。

二都市

二十四州しじゅうより智利チリは成立せいりつして居る。「サンティアゴ」、「ヴァルパライソ」、「イキケ」、「アントファガスタ」、「コンセプション」、「アリカ」、「タクナ」等は其その主おもなる都市としである。

首都しゅとサンティアゴ市は、本名ほんめいを「サンティアゴ・デ・チーレ」といひ、海拔かいばつ千八百呎フットの高地ちに在る。「ヴァルパライソ」と汽車航程六時間じかんにして相交通あひかうつうすることが出来る。人口じんこう凡そ四十萬まんを有し、市街しがいは美麗びれいにして四角形かくけいを成す。震災しんさい少からぬを以て、高塔樓かうたろう閣かくを見ることは稀まれである。土地とちは東ひがしより西にしに傾斜けいしゃし、排水設備はいすゐせつびが整ととのうて居るから、健康上至極適當こくてきたうである。市の東北とうほくに當つては、四時白雪皚々じはくせつがいたる「アンデス」の大山だいさん脈みが雲表うんぺうに聳そびて、其の壯觀さうくわんいふばかりない。宏壯くわさうなる建築物けんちくぶつとしては、國會議事堂こくかいぎじどう、大學校だいがくかう、中央寺院ちゅうおうじいん、國立圖書館こくりつとしよくわん、裁判所さいはんしよ、劇場等げきぎやうとうをよじり可成かたりある。公園こうえん

は三個、劇場は大小二十二個、活動寫眞館は三十九、自働車は六百二十輛を算し、市民は南米の「ヤンキー」と稱せられて居る。此の市と「ヴァルパライソ」港との關係は、秘露の「リマ」の「カリヤオ」に於けるが如く、丁度我が東京の横濱に於ける關係である。

ヴァルパライソ市は、極樂谷の義を有し、南米太平洋岸に於ける第一の要港にして、港灣廣く、楕圓形を成し、北方の灣口を除くの外は三方陸地に連りて、一帯の丘陵を成し、海岸通より漸次一帯の丘陵に互りて、市街が延びて居るから、夜間に入れば、全市の燈火殆んど海面より望見すべく、一大規模のイルミネーションを展開する。即ち「ヴァルパライソ」の夜景が、世界三大夜景の一として、廣く知られて居る所以である。人口凡そ十八萬を有し、市街の結構も見るべきものがある。公園、官衙、學校、病院等何れも見るに足るが、中にも南米第一の大新聞社「エル・メルクリオ」の大建築は、頗る偉觀を呈して居る。我が國よりの直通航路たる東洋汽船會

社の航路に依れば、横濱より諸寄港地經由にて一萬四百二十六哩、直航すれば九千

三百六十二哩の距離に在る所である。

●●●イキケ市は、此の國北部に於いては首位を占むる要港で、一八八三年戰勝の結果、秘露より永久に占領したものである。

横濱を距ること海上九千百十三哩の所に位し、硝石の輸出を以て世界に知られて居る。而して流石に世界第一の硝石輸出港丈けあつて、硝石市といふべく、實際硝石無き所「イキケ」無してある。地勢上降雨無きを以て、飲料水其他には多大の不便を嘗めて居るが、人口は四萬餘ありて、可成りの殷盛を呈して居る。

●●●アントファガスタ市は、一八七九年迄は「ボリウキア」に屬して居つたのを、同じ戰勝の結果此の國の有に歸したものである。人口は三萬であるが、硝石の採掘、製造を以て、太平洋岸に重きを成す。市内には此の國有數の鎔鑛場ありて、「アンデス」の鑛脈より產出された鑛物を大規模に鎔解して、そして純粹のものとして居る。

此の港は、「ヴァルバイソン」及び「イキケ」間に於ける要津である。

コンセプシオン市は、此の國南部商業の中心にして、近傍には此の國有數の炭田がある。地味豊饒にして、小麥の産多く、又農業、林業を以ても相當に名を成して居る。人口は六萬餘あつて、此の國第一の造船所もあり、同名の灣には新式砲臺の設備がある。

アリカ市は、智利の最北部に位し、同様戰勝の報償として秘露より占領した所である。而して現時に於いては、北方より智利に向ふ外國船舶は、先づ此の港に寄つて檢疫を受くることゝなつて居る。我が東洋汽船會社の定期航路は、此の港を寄港地として居る。

タクナ市は、同じく此の國の最北部に位し、此の國と秘露との戰爭以前は、秘露に屬して居つたのである。市の北部に古宮殿がある。昔時大統領の居つた所だといふ。

第四 農業

地形上農産物に富むべき國に思はれるが、事實は之れに反して、硝石鑛なる富源を除けば、格別數ふべき程のものは無く、中央の峽谷地方を以て此の業の適地とする。此の中央峽谷地方には、牛羊繁殖し、且つ純良の葡萄酒を産出する。天與の風色は、太平洋岸に於て無比のものにして、南米の日本と云はれて居る此の國々民の元氣なるものが、此の間に不言の陶冶を受けて然るもの有るのであらう。

然しながら硝石の智利たる所以は、即ち此の國をして農業上に見るべき物を有せしめない。

一九一一年此の國の產出した重要農産物は、次の如くである。但し表中の「エクダレア」は二・四七「エーカー」にして、「メトリック・キンタル」は百「キロ」に當る。

農産物

栽培

收穫

積

小 麥
大 麥
燕 麥
裸 麥
玉 蜀黍
隱 元 豆
豌 豆
山 黎 豆
扁 豆
甘 薯
キウマゴヤシ
和蘭ゲンゲ種子

四〇六、〇四六 エクタレン

六、一五九、七七四 メトリツク・キンダル

三八、〇〇〇

一、一六〇、〇〇〇

三〇、〇〇〇

四五〇、〇〇〇

二、〇〇〇

三〇、〇〇〇

三一、〇〇〇

九一五、〇〇〇

四〇、五〇〇

六〇四、〇〇〇

一五、〇〇〇

三〇〇、〇〇〇

二、五〇〇

二五、〇〇〇

九〇〇

七、二〇〇

五一、〇〇〇

三、五六〇、〇〇〇

四五、〇〇〇

五、〇〇〇、〇〇〇

一六、〇〇〇

一六〇、〇〇〇

煙 草

五、〇〇〇

七五、〇〇〇

智利に於いて農業に適する地は、其の面積二千八百萬「エクタレア」有り、其の中既に灌漑せられた土地は、百萬「エクタレア」を出づるが、現時耕作に使用されて居るのは、七十萬「エクタレア」に過ぎない。即ち之れより見れば收穫の寡少なるは、土地の坪數の不足には因らずして、勞力の供給が不十分な爲めである。

智利に於いては、葡萄の栽培は、七萬「エクタレア」の地積に互つて、頗る盛況を呈して居る。而して其の葡萄收穫の用途は、次に示すが如くである。

赤及白ボルドー

一、〇〇〇、〇〇〇
(ヘクトリットル)

チチャ(葡萄汁より製したる飲料)

六五〇、〇〇〇

チャコリース(同上)

八五〇、〇〇〇

ブランデー

四〇、〇〇〇

但し右表中のヘクトリットルは、我が五斗五升餘に當る佛國液量である。

又果實の培養は、地積一萬四千「エクタレア」に及び、其の種類は極めて豊富である。而して此の國の果實は、品質の點に於いて、加州産の物にも勝る優良品である。而も此の國には、中央地帯に於いて八百萬「エクタレア」以上に及び果樹の培養に適した土地があるから、「パナマ」運河の開通後、販路の擴張と交通の利とを得たならば、必ずや大なる將來を豫想し得よう。

第五 生畜と林業

一 生畜

智利に於ける生畜業の中心は、南部の「マゼラン」地方である。此の地方の此の業は、近年長足の進歩を遂げて、盛んに其の産物を「ヴァルパライス」に供給するが爲め、従來「ウルグアイ」國あたりから輸入されて居た脂肪等の類は、爲めに著しき減少を見た。而して其の産毛は、大抵海外に輸出して居る。

最近の統計を見るに、智利に於ける家畜數は次に示すが如くである。

獸名

頭數

馬、騾馬

七四六、一五〇

牛

二、六七四、六六六

羊

四、五二八、一〇九

山羊

四七六、七三九

豚

三三八、九九三

而して又以前秘露領たりし此の國北部の「アンデス」山中には、「グアタニーヤ」及び「アルバカ」ありて、元より秘露程には行かぬが、相應に其の毛類を供給して居る。又「グアナコー」は全國に産せられ、名物たる「チンチーヤ」は「アンデス」山脈と海岸山脈との中間の地にて捕獲される。

一九〇七年に於ける此の國南部の皮革獸毛類の相場は、左の如くである。

羊 毛

一〇〇封度につき

四十五「ペン」

ヴキクローニヤ

各個

四十「ペン」

ヴキクローニヤ毛

一「キロ」につき

一「ペン」四〇仙

アルバカ毛

同

一「ペン」八〇仙

グアナーコ

同

一「ペン」三〇仙

狐

同

七「ペン」

チンチーヤ(小狐)

同

八「ペン」

海 豹

同

八「ペン」

ローボ・デ・マール

同

九「ペン」

二 林 業

智利の森林區は、二十萬平方「キロメートル」即ち七十五萬平方哩の地積に互つて

居るから、此の國の全面積の二割六分を占めて居る。

智利の木材に關しては、識者は之を百種に餘るといつて居るが、アローカリア（南洋杉）、アカシア、白楊、月桂樹、櫟、栗、杉等は其の主なるものである。

何れにしても南緯四十三度半より同五十七度に互る地方が、此の國の漁業地方であり且つ木材地方であるから、此の業にも望みのあることは勿論であらうと思はれる。

第六 鑛業

智利といへば硝石を聯想し、硝石といへば智利を聯想するのが世界の一般であるだけに、極言すれば智利の硝石か、硝石の智利か、何れともいひ兼ねる程である。従つて智利の事業は硝石を中心とし、其の貿易及國庫の歳入の如きも亦硝石に基礎を置いて居る。

實際智利は、硝石を産出する事に於いて世界に於ける唯一の國であるから、此の唯一產物にして無限なるからには、この國の致富の道が之れに在るのは寧ろ當然といふべきである。而も此の硝石事業が、何かと大きな程度に於て、智利人其の者を益して居ることは極めて尠い。然らば何故然うした事になるかといふに、これは要するに、此の事業に投ぜられて居る資金の大部分が、智利人ならぬ他國民に屬して居るが爲めである。

硝石は、「タラバカー」、「アントファガスタ」及び「アタカマ」の三地方に於て發掘せられ、最初は他物と混合して存在するもの故、之を分離することが必要である。分離前は二十乃至七十五「パーセント」の硝酸曹達を含み、分離後は十五乃至十七「パーセント」の窒素と三十六「パーセント」の曹達を含有して居る。

此の硝石の發掘される地方は、既に風土の項に於いて述べた如く、殆ど降雨を知らぬ所であるから、其處に勞働して居る幾萬の勞役者は、其の用水を總て海岸地方

の海水を蒸溜したものを供給されて居る。而して此の硝石發掘の事業は、概ね英人、獨人の經營する所である。

智利政府は、硝石の輸出税として百「キロ」(メトリック・キンタル)につき智貨三「ペソ」三十八仙を課税するが、此の收入は年を追うて増加する傾向を示して居る。

一九一二年の輸出高は、二千四百九十三萬八千二百一十一「メトリック・キンタル」(百「キロ」)に上り、其の輸出税は、實に智貨八千四百二十六萬六千一百七十八「ペソ」に達した。同年に於ける産額を見るに、二千五百八十五萬八千五百四「メトリック・キンタル」にして、其の價額は、智貨二億九千七百三十七萬二千七百五十「ペソ」即ち此の國に於ける鑛産物の總價額の八割に當つて居つた。

「バンバ」即ち智利硝石鑛には現時百七十の工務所があつて、其處に勞働する者は、四萬五千人の上に出て居る。而も猶且勞力の不足夥しく、一萬人の勞働者は、何時移されて來ても、即時に仕事を配布されるといふ事である。而して此等の勞働者

は、一日の勞銀として先づ智利紙幣八「ペソ」(智利紙幣一「ペソ」は我が四十錢位)前後を收得すると謂はれて居る。

歐羅巴邊に於いては、智利硝石は近き將來に於いて發掘し盡されるといふ悲觀說が無いでもないが、之は絶對に根蒂無き言として、結局取るに値しない。實際一九一三年の調査に見るに、硝石の存在高は、五十四億八百二十萬四千「メトリック・キントナル」(百「キロ」の)と報ぜられて居る。即ち少くとも向後二百年間の發掘には十分である。

數字的の研究を更に進めて行くと、現在の硝石鑛脈の地積は、過去に於いて解決せられたものの三十四倍に當ることになる。斯の如く智利硝石には大なる將來が在るからして、假令人工的競争物があるとしても、極めて吞氣に構へて居られる。況して現時の探掘法は、頗る幼稚のものであるから、改善の餘地を十分に有して居る。即ち其の何れの方面よりするも、大なる將來を豫想する事が出来る。

硝石せうせきの重要得意先じゆうめいとういせんたる國くには、英吉利イギリスを推し、獨逸ドイツ之これに次ぎ、佛蘭西フランス及北米合衆國アメリカ更に之これに次いで居る。一時は英國人えいこくじんの獨占事業どくせんじぎふであつたが、近時きんじは強ちにさうでもない。

硝石せうせきは、用途ようどの廣いものであつて、農業上のうぎふじやうにも工業上こうぎふじやうにも用ひられる。
農業上のうぎふじやうの肥料ひれうとしての硝石せうせきは、加里及び磷酸かりおよりんさんを含有かんいうする地に施せば、所謂三要素いはゆるさんそうそを充實じゆうじつするに至るから、非常な效驗かうけんを有する。適當てきたうに使用しようされた肥料ひれうとしての硝石せうせきは、二百「ポンド」に對して左の如き生産せいさんがあるといふことである。

穀類

四——六「ブッセル」

馬鈴薯

三〇——三五同

收穫高

甜菜

五〇——五五同

葡萄

八、〇〇〇——一二、〇〇〇斤

斯かくの如ごとき硝石せうせきが、僅々きんく三十餘年前迄は、火藥及化學工藝用くわやくりやくくわがくこうぎようにのみ使用しようされて居をつた

が、農業上必須の物と世界に認めらるゝや、等比級數的の激増を見て、嘗て秘露領たりし時は産額三十萬噸、労働者三千五百人に充たなかつたものが、今日にあつては五萬人近くの労働者を集むる程のものとなつて居る。一八三一年より一九〇九年迄の産額は、實に三千二百七十二萬六千噸に上つた。

硝石の我が國への輸入を見るに、一八九七年より一九〇六年迄の高左の如し。

一八九七年

七六、〇八二
キントル

一八九八年

四六、六三七

一八九九年

一九〇〇年

六八、四八八

一九〇一年

一九〇二年

五六、一〇〇

一九〇三年

四四〇

一九〇四年

五五、八一

一九〇五年

二二八、八七六

一九〇六年

一一〇、一一九

總計

六四〇、五五三

而して此の數字は、白耳義一國が一年間に輸入する額の五分の一乃至六分の一にしか相當しない。要するに向後は別として、我が國は硝石購買國ではないのである。硝石以外には、金銀あれど未だ榮えず、鐵あれど幼稚の狀態に居り、石炭は最近一、三三四、四〇七噸の産額を見て將來光明あるべく、硫黄鑛亦世界の需要に應ずるを得べきも、運搬の至難なる爲めに大した利潤が現はれない。

最近の鑛産物の統計は次の如くである。

産物

量

價格

金

一、一〇〇、五九四「グラム」

六八二、四七一

銀	三九、四六七、六九三「グラム」	一、四五五、四七一
銅	四一、六四七、一四八「キロ」	三四、二五八、六一四
鐵	六、四五一噸	一二九、〇二〇
鉛	四、六七六「キロ」	四〇五
石 炭	一、三三四、四〇七噸	二五、三五三、七三三
硝 石	二、五八五、八五〇噸	二九七、三七二、七五〇
沃 土	四五八、三四二「キロ」	五、三八五、五一八
過鹽化物	八七、〇〇〇「キロ」	三四、八〇〇
礪 砂	四三、三五六噸	六、〇六九、八六一
普通鹽	一七、〇四五噸	五九六、五八六
硫 黃	四、四三一噸	五三一、七二〇
鳥 糞	一八、二六六噸	七三〇、六三八

粘土

八、六四四噸

六〇、五〇八

アルミニウム

一、〇四八「キロ」

八〇

ブリ、アンチン

一〇、〇〇〇「キロ」

八〇〇

ポッタシウム鹽

一、〇〇〇「キロ」

七五

合計

三七二、六六二、七七四

第七 商工業

智利チリの商工業しやこうぎふは、秘露ペルーのそれと同様どうやう、この國くにの商工業しやこうぎふも外人殊ぐわいじんことに歐羅巴人ヨーロッパじんの事業じふなりといひ得るうのである。立國りつこくの方針ほうしんとしては、全國ぜんこくを開放かいほうして、自由じゆうに外國ぐわいこくの資本し本家及勞働者ほんかおぼくちやを招致せうちするに在りて、此この點てんは南米太平洋岸なんべいたいへいやうがんの諸國しよこくの國是こくぜとこの國くにのそれとの全然相違ぜんぜんさうゐする所で、其その國土こくどの開發かいはつを主として、國人こくじんの經濟けいざいを客かくとするのが方針ほうしんであるけれども、近時きんじは國人こくじん本位主義ほんゐしゆぎともなつて來たやうである。

右の如き理由よりして、此の國の商工業の如何を知るは即ち歐米人が智利に於いて如何なる事業を爲しつゝありやといふ事の研究になるのである。而して大體に於いては、秘露の場合と同様である。

此の國に於いて、此の業に従事しつゝある外國人には、先づ英人、米人、獨人、佛人、伊人、支那人及び本邦人等がある。英人は「ヴァルバライソ」を策源地として大に勢力を振ひ、米人は機械等の輸入を事として英、獨の兩國人に對抗し、獨人は「コスモス」線を利用して大に英人と競争し、殊に麥酒の醸造は見るに足るものがあり、佛人は相變らず絹物、雜貨等に於いて主として獨人と拮抗し、伊人は下層階級より起りて食物商となる者多く、支那人は硝石に關係する外格別大なる事業を有せず、商人も秘露の里馬市に於けるが如く多數ではない。而して本邦人の此の國に在る者は、其の數漸く三百に滿たぬ次第で、従つて其の勢力も微々たるものである。商人としては、「ヴァルバライソ」に中田歲忠、「サンティヤゴ」に磯本商會があるのみ

で、而も論ずるに足らぬ微弱なものである。

重要商工業品

左に其の主なる物を、小項目の下に、記述する。而して何れも此の國に對する重要輸入品であるから、我が國の重要輸出品に見地

を置いて觀察しよう。

(一) 生絲。氣候上より考ふれば、智利には桑樹を植付けて養蠶業を起すことが出来るであらうが、機業の不振或は皆無、勞銀の高價及土人の怠慢等よりして、到底望まれ得べくも無い。

(二) 絹布。秘露に比すれば其の輸入は遙かに多い。即ち左の表に就いて之を知ることが出来る。

國名

一九〇五年

一九〇六年

英國

三、〇四八、七〇〇

五、三二四、〇〇〇

獨國

一、八三三、五四五

四、〇九八、五六〇

佛 國

一一、六五一、五二五

一六、六六六、八二五

瑞 國

二六二、二四〇

不 明

其 他

一、二〇八、一六〇

一、八八五、〇九〇

總 計

一八、〇五四、一七〇

二七、九六四、四七五

而して佛國の斯業に於ける根柢は、既に牢固たるものあることが知れる。故に我が國よりの割込みは、恐らくは大なる努力を要する仕事であらう。

(三) 絹製手巾。主として獨、佛の兩國品が市場を横行して居る。北米に於いて、既に十分此の商權を收めて居る日本が、南米にありては少しも振はぬのは、要するに残念な事である。

絹手巾の此の國への輸入額は、七八萬圓であつて、佛、獨、英、瑞の順序となつて居る。

關稅は、從價百分の三十五にして、法定價格は純絹一「キロ」五十「ペソ」、交織品

三十「ペン」、刺繡入八十「ペン」である。大體に於いて秘露の場合と變らない。

(四) 花薙。氣候として四時酷暑を知らぬから、北米南部に於けるが如く賣行かぬ

のは寧ろ當然であらうが、さりとて未來ある商品たるを失はぬであらう。

花薙の關稅は、一「キロ」三十五錢の法定價格に對して百分の三十五の稅率である。

(五) 綿製品。一九〇六年の統計に見るに、衣服用と非衣服用との二者に分れて、

次の如き數字を示して居る。

衣服用

英國 二、二〇一、〇九四キロ

獨國 一、六二四、〇四〇

伊國 二九八、四四八

佛國 一七九、三二三

非衣服用

英 國

二、一七八、五六五

獨 國

一四七、四四九

米 國

四二、三〇四

智利の綿製品めんせいひんの需要じゅえうは、秘露ペルーに比ひして大差たいさがある。これ智利には白人はくじんが多數たすう居る爲ためで、従したがつて秘露ペルーの場合はあひよりは上等品じやうとうひんの需要じゅえうを見る。而しかして此この物ものにありては、英、獨の兩國りやうこくが競争きやうさうてき的に地歩ちほを占しめて居るが故ゆゑに、之等これらの國の製品せいひんとの角逐かくちやくには、精製細絲物せいせいほそいなることを必要條件ひつえうてうけんとする。

更に分類ぶんるあすれば、綿縮めんしゆくみは秘露ペルーに於おける程ほどの需要じゅえうはなく、税金ぜいきんは一「キロ」凡およそ二圓えんにして其その百分ぶふんの二十五を課税くわぜいする。「タオル」は英、獨、佛ふつの三國さんこくより供給きやうきふされて居るが、我が國くによりの直輸入ちきよゆにふは、必ず有望いうぼうであらう。課税くわぜいは、品質ひんしつに依よりて一「キロ」二「ペソ」乃至六「ペソ」の法定價格はふていかかくに對たいする百分ぶふんの十五を徵收ちやうしゆする。綿めん「フランネル」は一「キロ」一「ペソ」七十仙せとの百分ぶふんの二十五を課税くわぜいするけれど、我が國くにより十分競争ふんちやうさう

の餘地があらう。而して緯「メリヤス」は一「キロ」五「ペソ」の百分の三十五を課税されるが、勞銀の點より同じく本邦よりの競争に餘地がある。

(六) 陶磁器類。國內の需要は凡て英、獨、佛に仰いで居る。而して之等三國の此の業の競争は、混沌たる状態にあるが、孰れも實用品の供給にあること、素より言を俟たない。されば我が國が此の國への陶磁器類の供給競争を試みるには、先づ工業上の開發より着手すべきである。

通常品は、一「キロ」につき、一「ペソ」乃至一「ペソ」五十仙の査定價格に對して百分の三十五を課税される。

智利に於いて目下の需要を見る日本製陶磁器は、大抵栗田焼の物にして、薩摩、九谷の高價品は、未だ其の價値を認められぬこと亦秘露の場合と同様である。

(七) 漆器、銅器。智利人は凡て色の赤きものよりも黒きものを嗜好するを以て、漆

器の如きは赤色を帶びざるもの、方が適當であらう。漆器は、普通一「キロ」金貨二

「ペソ」五十仙の法定價格の百分の六十の稅率を以て課稅されるが爲め、小形の物が輸入に便利であらう。何れにしても當地の價格は原價の五倍以上でなければ十分に引き合はない。

(八) 石炭。産額の點よりすれば、其の需要額の半ばに當つて居る。歐洲よりの輸入は、船底積として極めて低廉なる賃銀を以て運搬されて居るから、我が國よりも同様の方法で輸入したならば如何かと思はれる。

此の國に對する石炭の輸入額は、左記の表に就いて研究し得られる。

國 別

一九〇五年

一九〇六年

英 國

七八二、〇〇〇^噸七四二、五五六^噸

濠 洲

三五七、九四五

二三四、九二三

獨 國

二〇、一七八

二三、七五九

其 他

一八、九三五

一七、一九一

合計

一、一七九、〇五八

一、〇一八、四二九

(九) 木材。米、英、獨の諸國より輸入されて居るが、由來此の國の南部は未だ斧

鉞を知らざる處女林の地方である。従つて資本と勞力との供給が圓滿に行けば、將

來は大いに輸出の方面に發展することが出來よう。即ち我が國よりの輸入の如きは

到底覺束ないであらう。

(十) 茶。我が綠茶は、將來は別問題としても當分此の國に廣く販路を求むること

が困難のやうである。思ふに最初紅茶の如くして飲用に供せられた爲めであらう。

紅茶の輸入は、左に記す如くである。

國別

一九〇五年

一九〇六年

英國

九六一、九八〇

一、〇六〇、一三五

獨國

五二、八二五

六五、一六五

支那

六一、四二五

三、九二五

其 他

二四、八七五

一五一、一三〇

合 計

一、一〇一、一〇五

一、二八〇、三五五

其他扇子、團扇類は獨、佛、英、伊等の諸國より輸入せらるゝも、本邦品は十分競争の餘地を有し（關稅は木綿及毛織張は百分の二十五、絹張は百分の三十五）、硝子製品も獨、佛、白、英等より盛に輸入されるが、本邦品も競争に参加し得べく、（關稅は評價の百分の二十五）、燐類は獨逸の獨占事業であり（關稅は一「キロ」十二仙の百分の十五）魚類燐詰もあり（關稅一「キロ」六十仙の百分の三十五）、紙製品は主なる輸入國獨逸と競争し得べく、玩具も獨逸の獨占ながら、安價にして珍奇なる日本風の物を輸入するに於いては、大に有望で（評價の百分の三十五の關稅）、燐寸は保護工業の一なれど獨逸より主として輸入され、賣藥も面白かるべく、刷毛は大に販路を擴張し得べく（一「キロ」につき六「ペソ」の百分の三十五の關稅、但しセルロイド物は十五「ペソ」、竹材は日本産の如く直徑五寸以上の物は皆無にて、職工を送りて

家具かぐの製作せいさくに従事じやうじさせたらば必ず十分じふぶんの利益りえきあるべく（關稅かんぜいは百分おんの三十五さんじゆう）、象牙けいざう細工くわいは餘りあまに望みのぞ無く、乾魚かんしう類るいは多少たせうの望みのぞを有いうし（「キロ」五十仙せしの百分おんの三十五さんじゆう）、屏風びやうぶは智利人チリじんの嗜好しかうの一なれば、見込みこみある商品しやうひんである（關稅かんぜいは評價ひやうかの百分おんの六十ろくじゅう）。

日本商品の前途

智利チリに於ける日本商品にほんしやうひんは、未だ粉黛ふんたいを凝こらして此この國くにの市場しやちやうに現あらはれたのではない。只々支那人たいくしなじん及び本邦小商人ほんぱうせうしやうにんの手てに依よつて取扱とりあつかはれて居るといふばかりで、他日たじつの發展はつてんは、要えうするに相當さうたうの資本しほんを投とうじた日本にほん勸工場くわんこうちやうの如ごときを開ひらくに於おいては大いおほに面白おもしろからうと思おもふ。

一般はんに本邦品ほんぱうひんの賣捌うりさばを此この地ちの外商ぐわいしやうとなす場合ばあひには、信用狀しんようじやうを日本にほんに廻まはさせ爲にがは替せの割引わりびきを受けることが困難こんなんのやうである。而しかして之これは此この國くにの商習慣しやうしゆかんが商品しやうひん到着ちやうく後ご三十日にちさんじつ或は六十日にちろくじつ拂つねを常つねとするからである。要えうするに他項たかうに於おいても繰くり返かへしたるが如ごとく、其その所ところに其その人ひとを得えたならば、恐おそらくは意想外いさうぐわいの好果かうくわを生うむであらう。

關稅制度

收入、保護の兩主義が互に相下らぬ程度に於いて競争し合併した者であることは、秘露の場合に勝るとも劣らぬであらう。然しその結果は、資本と勞力との缺乏からでもあるが、工業は思ふ様に起らず、物價は徒に騰貴し、一方密輸入は盛になる傾向がある。しかも智利政府は、此の關稅收入に依りて莫大なる收入を得つゝあるのである。試みに一九〇六年の歲入に見るに、硝石輸出稅五千七百萬「ペソ」に次ぐものは、輸入稅即ち關稅收入三千百萬「ペソ」であつて、其等以外の收入にして、三百萬「ペソ」に達するものはない。

智利の關稅は、商品の實用向或は必需品に對しては輕稅を課し、裝飾品若くは贅澤品に對しては相當なる重稅を課するのを目的として居る。智利も秘露と同じく、常に商品の重量一「キログラム」に對して一定の法定價格を規定し、之に對して百分の何「パーセント」を課する規定である。

輸入稅は、送狀(英語の「インヴォイス」、西語の「ファクテウラ」)に記載された商

品原價には準據せず、別に輸入品評價細別稅表といふ規定があつて、一切の貨物を部類分にし、更にそれを種別分けにして價格を規定し置き、そして其の幾割を課するものである。而して凡て其の評價の二割五分を課するを常則とするが、品によりては五六割に及ぶことがある。萬一輸入商品にして、稅目表中類似品だにも無き場合は、検査官は十分該品に就いて研究を爲し、慎重なる検査を行ひて其の價格を査定するのであるが、若し當事者に於いて不當なりと認むる時は、稅關長に異議の申請を爲すことが出来る。此の場合には稅關より一名、當事者より一名の鑑定人を指名し、其の意見に基きて、稅關長に於いて之れが決定を爲るのである。而して此の決定には絶對的に服從の義務あるものとされて居る。

第八 貿易

最近の輸出入

智利の最近輸出入を輸出と輸入との二項に分けて研究せんとならば、先づ左記の表に就いて見るのが早判りであらう。

先づ輸入表から舉げて見る。而して茲に現はしたる金額は、智貨「ペソ」を以て計算されて居るのである。

品 別

一九一一年

一九一二年

(一) 動物類

(1) 生 畜 二一、九七七、五九一

一〇、七三七、二二八

(2) 食 料 四、一三四、九五〇

四、四六八、〇一四

(3) 工業用 四、六六四、一二五

五、三三三、八七五

(4) 製造品 二、一五七、三二七

二、九九四、六六三

小包郵便及「ブンタ・アレーナス」經由の分

一、四一四、五八三

一、二七九、五〇六

(二) 植物類

(1) 果實、穀物、蔬菜等

一〇、九〇三、三三一

一一、三一二、三八二

(2) 食料

一五、二八一、八一〇

一二、〇〇九、二〇九

(3) 工業用

一、九六一、四一九

二、〇七〇、三五五

(4) 製造品

三、七四七、三〇五

六、三二七、三〇五

(5) 木材

一、二七八、八〇〇

一、四六二、五五一

(6) 煙草

八一九、一〇二

一、五九〇、三八三

小包郵便及「プンタ・アレナス」經由の分

一、九八一、六四二

一、四六二、七三四

(三) 礦物類

(1) 貴金屬及寶石

六七一、七八三

四七一、一一三

(2) 鐵及鋼鐵

四四、四二七、八三三

三六、八四四、二五八

(3) 其他金屬

七、四八三、三三四

六、一六一、七二四

(4) 石及着色土

一三、五三一、五三四

一三、六八五、八七九

小包郵便及「プンタ・アレナス」經由の分

二、四五〇、八六七

二、五四七、八〇一

(四) 織物材料及產物

(1) 藁、櫻欄、大麻、黃麻

八、八七五、一七〇

一二、〇七九、〇二九

(2) 棉花

三九、〇一六、三六六

三九、九六七、〇七七

(3) 亞麻

一、一四〇、八一八

一、二九一、一四二

(4) 羊毛

二三、一七七、七四八

二一、四〇〇、五八六

(5) 絹

三、四一七、七二三

三、二四二、三九三

小包郵便及「プンタ・アレナス」經由の分

三、〇三三、〇四八

四、〇三六、〇五三

(五) 工業用油、可燃物、燃料及顏料

(1) 工業用油

二、二八五、四〇二

二、五九六、一八九

(2) 可燃物

四二〇、〇八七

四八二、六五八

(3) 燃料

四六、七五六、九八九

四三、七六二、八七一

(4) 顏料及インク

五二、〇三八、四七四

四九、三一、六一二

小包郵便及「プンタ・アレーナス」經由の分

七六六、七八五

三四五、九三七

(六) 紙、牌紙及其製品

一一、一〇四、三六〇

九、三八三、六三一

小包郵便及「プンタ・アレーナス」經由の分

二五〇、九七四

二七五、三八七

(七) 飲料及流動物

七、三二〇、九六三

八、七一一、五九六

小包郵便及「プンタ・アレーナス」經由の分

(八) 香料、藥料及化學的生產品

二、三四八、六七八

二、一八〇、六八一

(1) 香 料

七五一、八三五

七六一、四八八

(2) 藥 料

三、三五七、三六二

三、五三三、五七六

(3) 化學的生產品

七、四九四、八九四

八、〇六一、七〇七

小包郵便及「プンタ・アレ・ナス」經由の分

六七四、八三四

八六一、三八三

(九) 機械、器具、工具及適用品

(1) 技術及科學的

三、五七二、五二五

三、七五一、八二四

(2) 鑛業用

四、五九〇、五〇三

一、七八八、五七三

(3) 農業用

六、八九八、四五四

五、四二三、五二六

(4) 製造工業用

二一、五五九、七五四

二三、八九一、〇六四

(5) 運轉用

四二、五二九、五二五

四四、二六四、一九八

小包郵便及「プンタ・アレーナス」經由の分

五九一、六一八

七七〇、二一六

(十)

武器、彈藥及爆發物

四、九九一、〇三八

二、九九〇、五八〇

小包郵便及「プンタ・アレーナス」經由の分

四二、四四六

三五、六〇三

(十一)

雜貨

五、六二七、〇五七

七、二七一、七八九

小包郵便及「プンタ・アレーナス」經由の分

一、二八三、三九六

一、六四九、〇〇四

輸入總計

三四八、九九〇、三五四

三三四、三五四、七七六

註

「プンタ・アレーナス」は、一九一一及一九二二年は自由港。

今度は、輸出の方面を研究して見よう。價額の單位が智貨なること無論である。

(一) 動物類

(1) 生 畜

四五三、三四五

二三七、〇五三

(2) 食 料

四、三五四、三五五

三、九六九、五八四

(3) 工業品

一六、一七七、五〇八

一六、五五三、四九〇

(4) 製造品

三〇、九六五

九、六六三

(二) 植物類

(1) 果實、穀物、蔬菜等

一二、三一七、五四三

一七、六七八、五七四

(2) 食 料

一、〇五三、九九六

一、一七五、二一六

(3) 工業品

四七三、四五五

四〇九、八〇六

(4) 製造品

四、五一八

一、六七四

(5) 木 材

六〇九、三九一

五七六、八七五

(6) 煙草

一一、四七二

三、六一八

(三) 鑛物類

二九四、四七四、六七九

三三六、〇六七、七八七

(四) 飲料及流動物

二一〇、二一四

一七二、七六八

(五) 貨幣

鑄造銀貨

六、〇〇〇

(六) 雜貨

四四九、八三八

二五八、四五二

輸出總計

三三〇、六二一、一五九

三七七、一〇四、五三〇

最近の輸出入船舶

最近さいきんに於おける智利チリの外國貿易ぐわいこくばうえきが、如何いかなる狀態じやうたいに在ありやといふ問題もんだいに關かんしては、最近さいきんの輸出入船舶ゆしゆつふせんぱくを見れば、甚はなはだ興味深きょうみふかいこと、考かんがへられる。即すなはち一九一一年に於おける此この國くにの輸出入船舶ゆしゆつふせんぱくを入船及出船ふせんおしかいしゆせんの二方面ほうめんから觀察くわんさつしたい。

一) 輸入船舶

(1) 汽 船 五〇九三
 (2) 帆 船 五七九
 一、〇六一、七四〇

合 計

五、六七二
 一六、一三二、五二七

(二) 輸出船舶

(1) 汽 船 四、五四八
 一三、三八七、〇三五

(2) 帆 船 四九八
 九二六、四八〇

合 計

五、〇四六
 一四、三一二、五一五

而して右の兩者中、研究價值のより深き輸入船舶を國籍別にして分類すれば、即ち左に示すが如きものである。

(一) 汽 船

國 別

隻 數

噸 數

智 利

七五九

一、〇五六、一五三

丁 抹	露 西 亞	伊 太 利	日 本	秘 露	亞 爾 然 丁	北 米 合 衆 國	瑞 典	諾 威	佛 蘭 西	獨 逸	英 吉 利
...	...	九	二八	一三	一七	一七	一	九七	一〇五	一、六八五	二、三五五
...	...	二三、〇四〇	一二四、七二二	三三三、六一一	一一、七五〇	三二、〇六九	二、七〇〇	二四九、二一一	三四八、六〇三	五、七九八、三三九	七、三九六、六七九

瑞典	諾威	佛蘭西	獨逸	英吉利	智利	(二) 帆船	合計	巴奈馬	墨西哥	奧太利	利
三	九四	一〇三	一三〇	一二八	一九		五、〇九三	一	一	二	三
六、四五二	一四〇、〇四三	二一七、二一八	二七八、六六五	二七〇、四七二	一二、八〇六		一五、〇七〇、七八二	四五七	一五〇	五、九〇六	三、三、四

北米合衆國

五九

三八、五八三

亞爾然丁

五

四九二

秘 露

二

一、五七九

日 本

：

：

伊 太 利

一四

二三、〇二九

露 西 亞

二四

四二、九六八

丁 抹

七

一六、九五一

和 蘭

一

二、四八七

奧 太 利

：

：

墨 西 哥

：

：

巴 奈 馬

：

：

合 計

五七九

一、〇六一、七四五

日智貿易

其の微々たる状態に在ること、蓋し未だに一つの項目を作つて觀察するの價值があるまいと思ふ。而してこれ一に、我が商工業者たり、貿易業者たる當路の人々が、智利を見ること辛うじて地理の上に及ぶか及ばぬ位の始末にあるからといはざるを得ない。然し要するに南米貿易は、交通運輸の問題と寸時も没交渉たるを得ないことは勿論、進んで言へば、交通運輸の問題如何に在るが故に、既に前二章に於いて見來つた墨西哥及秘露の二國が、智利に比する時は、共に我が國よりの交通運輸上便宜たるの地利を占めて居るだけに、我が國の商人等が多數居住して、各々其の分に盡して居るのである。五十歩百歩と一口にいふもの、鵬程一萬哩の波濤を越えて、始めて彼岸の地ありてふ南米大陸への出陣の場合にも、猶且多少の距離の問題が手傳ふとは、一面多少の經濟上の打算はあらうが、面白い事だと考へずには居られない。

行くなら南米とは、自分の持論である。而して出る價值があつての上で、何うせ

出ることになつたなら、多少の距離などは、大した問題でもあるまいと思ふ。

最近の統計に準據した日本人の此の國に於ける在留者は、其の數僅かに二百六七
 十名といふ少數であるが、此の少數中貿易事業などに従事して居る者に至つては、
 既に商工業の項に於いて述べた如く、「ヴァルバライソ」に中田歳忠、「サンティヤゴ」
 に磯本商會の二者が有るばかりといふ始末で、誠に殘念の至りといふべきである。
 併しながら殘念といふ一事は、南米貿易に共通である。唯智利の場合に於ける殘
 念は、發展の餘地を存して、其の將來あるを語るものであるから、此の國への日本
 人の發展は、何れの方面にもあれ、必ず共喰などといふ悲劇を演ずる氣遣ひは無い
 のである。甘きに就く蟻群の場合とても、最初それに就いた蟻の身を思ふならば、
 蓋し海外發展の如何なる所に意義あるかを知悉し得るであらう。

商慣習

明治四十二年智利公使館報告。

智利には目下首府に唯一個の極めて小規模なる日本雜貨店あるのみにし

て、比較的基礎鞏固なる支那商人の來つて店舗を開設し若くは當地方の商賈と取引を開始せるもの未だ稀なり。従つて十分日智貿易に適切なる調査をなすに足るべき經驗に乏しきは甚だ遺憾の次第なり。

第一 商業上當國人の嫌忌する日本人の行爲

(一) スペイン語の素養十分ならざること。

爲めに取引上相互に意思の疏通を缺き、又往々にして商業上の通用語にあらざる文句を使用する等のことは、本邦人の特に大なる缺點なり。

(二) 商品の不揃ひなること。

數多き商品を揃ふること能はざることなり。これ一つは製造の不統一なること、資本の少額なること等に依るならんと信ぜらるゝも、ある場合には可能のことにてても之を爲すの勞を敢てせざることあり。

(三) 嗜好に應ずる能はざること。

(四) 見本と送品との一致を缺くこと。

第二 宗教上の信念其他により、商標其他商業上の書類若くは圖書等に使用するを

嫌忌する事項

(一) 純黄色は友愛を缺き、侮蔑を意味するものとして、一般に之を嫌忌す。

(二) 熨斗形の品物例へば箱根細工等に見る熨斗形の箱類は、當國に於いて大に

之を嫌忌す、これ畢竟其形恰も死人を納むる棺桶に似たるを以てなり。

(三) 清心丹の商標たる人魚。

(四) 山田胃散の三面紳士の商標。

(五) 或種燐寸の商標たる關羽、張飛又は日本武尊の商標を嫌忌す。

第三 取引開始に當り日本商人の必ず心得置くべき當國特殊の商慣習。

(一) 代金支拂期間の長短。

(イ) 契約ある場合は三十日拂、六十日拂若くは九十日拂稀に六ヶ月拂あり。

(ロ) 特に契約なき時は六十日拂とす。

(二) 取引期節

毎年三月末より四五月頃迄即ち當國の秋季は、主に農産物の取引活潑を極め、引續き四五月は冬期海上險惡を避けんが爲め、歐米より冬季向一般商品並に春向の商品の輸入あるを以て取引最も活潑を極む。

當國獨立祭（九月十八日）前は、日用品の賣れ行き最も盛んなり。クリスマス前も亦大に活氣を帶ぶ。

(三) 商慣習雜件

(イ) 硝石鑛地の賣買に於ては一米突平方幾「キントル」と云ひ價格を付す。即

ち一米突平方中に幾「キントル」の硝石ありと見て價格を付するものとす。

(ロ) 農産物の小賣に於いては數量に依らず重量を以て測定し、一「キログラム」

價幾「キントル」と計算す。

第四

一般注意事項

(一)

輸入税を重量に依り賦課すると同時に未製品及精製品の税率は、特に大なる相違あるを以て、商品によりては、重量を軽減する爲め特別の製造をなさ

しむると共に、出來得る範圍内に於いて半製品として輸入するを利益とす。

堺段通の如き重量あるものは、税高くして、歐洲上等品と競争出來ずといふ。

又重量税は品物の分類に従つて課するものなるが故に、無地の茶碗は一階級

に屬し、之に一線にても着色する時は忽ち其の上の階級に組み入れらるゝな

(ハ) 農産物の卸賣は一「キンタル」重量價格幾何とし一「キンタル」の重量は七

十五乃至九十「キログラム」なり。

(ニ) 總て卸賣は小賣の三割引とす。

(ホ) 委託販賣の手數料は二割とす。

本邦商人及製造人は此等の點に關する知識を缺くが故に、往々甚だしき不利を被ることあり。

(二) 目下の場合當國の社會一般は、巧妙なる美術的品物よりも寧ろ新奇と外觀の美を賞する傾きあることに注意を要す。

(三) 當國の風俗は、華美の方にして、好んで流行を追ふ、概言すれば、婦人の流行は佛國より、男子のそれは主として英國に模するものゝ如し。この傾向を有するの結果は、各種商品の模様品柄若くは配色等に於ては高尚なるものあり。

(四) 季節の日本と反對なること。(春九、十、十一月、夏十二、一、二月、秋三、四、五月、冬六、七、八月)暑中は市人多く田園生活に入るを以て、購買力大に減退す。従つて一般購買力の盛なるは冬季とす。雜貨はクリスマスに最も活氣あり。

(五) 貨幣制度不完備にして、紙幣相場の變動、實に激甚なるが故に荷爲替手形

の危険きけんなることは最も注意ちゅういを拂はらはざるべからざること、信しんず。

(六) 商品しやうひんの輸入ゆだふは(日本にほんより)概がいして元價げんかと同額どうがくの金額きんがくを税金支拂ぜいきんしはらひの爲ために準備ひすべし。

(七) 資本しほん豊富ほうふを要えうす。

(八) 當國たうこく人は慣習くわんしゆ上喪じやうさうに服ふくする念深ねんふかく、爲ために衣服いふく地其他ちそなた一般はん日本品にほんひんに至いたる迄まで黒色こくしきの需要じゆえう多く、ハシカチーフの如ごとき殊ことに然しかり、黒縁くろへりのもの需要じゆえう多し。

(九) 一般商人はんしやうにんは金錢きんせんの授受じゆじゆ吞氣のんきなり。

(十) 取引とりひき上約じやうやくを重おもんぜざる風ふうあり。

(十一) 廣告くわうこく用又は商品用模樣等餘しやうひんようもやうとうあまりに奇きに失しつし、又は日本にほん的に高尚かうしやうに過すぎざる様やう注意ちゅういを要えうすること、例たとへば古代風俗等こだいふうぞくとうの如ごときは當國たうこく人より翫賞くわんしやうを得うること難かたし。

第四章 亞爾然丁

第一 風 土

位置

南米の南部、南緯二十二度より同五十五度に亙るの地域を占めたる大國である。北及び北東は、「ウルグアイ」、伯刺西爾、「バラグアイ」、「ボリヴエ」の四個國と境し、東と南は、大西洋に臨み、西は「アンデス」山脈を以て智利と接して居る。而して國內は、十四聯邦と十地方とより成り立ち、面積百十三萬五千八百三十方哩、人口五百六十七萬八千餘人を有する。(明治三十八年調査)

地勢

海岸は出入多く、南緯三十八度以南は、概して低地で、只所々に丘陵の起伏を見るのみである。

地勢上より此の國は、次の如く二部に分たれる。

- (一) 平野。東は「ブエノス・アイレス」より北は「チャーク」迄、西は「メンドーサ」よ

り南は「バタゴニア」の南端に至る迄即ち此の國の大部分にして、各所に小山脈、小山彙の散在するのみである。牛、羊の巨群、黄金色の玉蜀黍、多種の牧草、苜蓿等をはじめ、美花、緑草を以て飾り出されたる自然の大パノラマは、即ち此の地方である。

(二) 高地。「アンデス」の東斜面を成して、山脈、山彙を含み、八聯邦の大部分を占めて居る。

而して此の國の名物たる大河「リオ・デ・ラ・プラータ」(銀河の義)は、「バラグアイ」の兩河の合したるものにして、其の名の詩的なるにも似ず、常に濁水滔々として、其の吐き出す濁水は、河口より二百哩の沖合に迄及ぶといふ。「バラグアイ」河を合すれば、其の延長二千五百哩もある。

氣候

此の國の氣候は、左記の如く、之を四部に分つ。

(一) 南緯三十一度より同三十一度半に至る北緯低原 寒帶性

(二) 南緯三十一度より同四十二度に互る平原 溫帶性

(三) 南緯四十二度より同五十五度迄の平原 寒帶性

(四) 西部を南北に走れる山地 不同

概して亞國の氣候は、溫和にして、寒暑共に極端ではなく、一般に、北部は溫暖、中部は清涼適和、そして南部は稍々寒冷である。廣濶なる平原及高原は、夏時往々炎熱の烈しさに堪え兼ねる事があるが、夫れは、高原中の火山は噴火作用が旺盛で、其の附近には熔岩の降下が頻りにあり、爲めに氣溫の高まる結果である。平原の北部即ち「ブエノス・アイレス」、「サンタ・フェ」、「チャーコ」等の地方には、嚴寒といふものが更にない。

住民

亞國民は、複雑なる國民である。即ち之を左に示す。

- (一) 西班牙植民時代の其の子孫
 - (二) 西班牙以前の移住民の子孫
 - (三) 移住民と本國土人との混血種
 - (四) 「バタゴニア」及「チャールコ」に住する土人
 - (五) 本國に居住する外國人の子孫
- 斯くの如く複雑ではあるが、大體に於ては秩序ありて、有望なる國民といふべきである。

伊太利人の近時の勢力は、一方ならず優勝である、蓋し此の國が、資本（英國に待つ）と勞力との中、勞力は之を伊太利に待つものがあるが故である。

此の國には、財産上の貴族なるものがある。それは廣大なる土地を有し、豪奢な生活を營んで居る大地主のことであつて、其の祖先が、曾て廣濶なる土地を所有し、

たるを免れない。

人口は、明治三十八年即ち一九〇五年の調査に依れば、五百六十七萬八千餘人であるから、其の面積に對しては一平方哩約五人の割合であつたが、一九一一年の調査を見れば、人口は、七百十七萬一千九百十人に増加して、其の一平方哩の人口割合は、六人強を示すに至つた。

又此の國には、外國移民が非常に多く、日本移民も五六百人は居る。其の移民中主なるものを擧ぐれば、次の如くである。

西班牙人 一一八、七二二_人 伊太利人 五八、一八五_人

土耳古人 一三、六〇五 露西亞人 九、七二三

佛蘭西人 四、九一六 奧太利人 三、五九四

獨逸 二、五七五 葡萄牙人 一、七三〇

れんぱうきょうわこく
聯邦共和國にして、
れんぱうちほう
十四聯邦と十地方とより成り、
かくしういづ
各州は孰れも自治制度

と憲法を有し、代議制を取つて居る。大統領は、十四州の選舉者

に依つて選出せられ、任期は、六年である。副大統領も亦、大統領と同時に、同様の方法を以て選出されるのである。

南米諸國なんべいしよこく即ちすなは羅甸亞米利加諸國ラテンアメリカしよこくの一般はんぱんとして、此この國くにも亦また、其その國教こくけうは、

羅馬舊教であることに變りはない。然し住民の上から見ても知られる通り、

一定の秩序は無論有るとしても、複雑な形を具へて居るだけに、宗教の如きも至つて自由であるらしい。それが爲め、國教としては羅馬舊教であるが、同時に他教も亦默認されて居る。

隣邦りんぱう伯刺はくし西爾せいじと共に、歐洲おうしう諸國しよこくより陸續りぞくとして渡來とちいした移住民いぢゆうみんの爲ためめに、
發展はつてんした國くにであることは、世よの齊ひとしく知しる所ところであるが、何なにしろ國土こくどが大おほき

得置くべきことは、プ市の如き地を離れて、反つて都會ならざる地に活動することである。これは勞銀其の他の關係よりして、將來目的とすべき土地に、自らが主たり得る捷徑となるが爲めである。

此の國には伯刺西爾と同様に、移民收容所がある。遠來の客を好遇して至らざるはなく、凡ての移民は、五日間其の移民收容所に滞在するの權利を有する。そして政府は、その地主の招聘たると獨立行動たるとを問はず、移民の目的地迄の旅費を支給して居る。

移民の希望に應じては、亞國政府は、公競賣の方法を以て、土地の拂下或は貸下をする。但し企業資金を持たない移民には、入國と同時に土地所有者たるの特權が許されないで、若干の年月を経て若干の資金を得た後に於いて、始めて其の特權が許可される。

そして公競賣の方法に依つて、手に入つた土地は、其の拂下の時に於いて、其の價額の十分の一を政府に納付し、其の殘額は、之を五ヶ年賦として納付すべきものとされて居る。

歐洲人のこの國へ移住する者は、年々實に夥しきものであるが、過去に於いて其の牛耳を取つて居つた伊太利人は、輓近に於いては西班牙人に凌駕さるゝ所となつて居る。何にしても、移民として將た植民として、先天的の性質を具備して居る伊太利人や、西班牙人が、競争的に潮の如く押し寄せて來るのを、入れても入れても平氣の平左で濟まして居られるところが、何といつても亞爾然丁だと、感心せずには居られない。我が大和民族の發展的な血潮が、躍らずに居られるであらう歟。

第二 史 要

起源としては、一五一五年西班牙人ドノ・フアン・ド・コロンブスが発見した。一五一五年

緯三十五度の所に來て、今日の「リオ・デ・ラ・プラータ」に入つたのに始まつて居るのである。

其の後二十年を経て、一五三五年ペドロ・デ・メンドーサが、時の西班牙國王カルロ五世の命を奉じて、軍艦十四隻及二千の兵を率ゐ來つて、今日の「ブエノス・アイレス」市を建設した。同市は、後に土人の破壊する所となつたが、再び立派に建設された。

此の國の革命の動機は、大守政治の紊亂、ナポレオンの西班牙國擊破及び米國の獨立等より、其の觀念の發芽を見たのである。當時、佛蘭西人の「アンダルシア」侵入、ボルボン王朝の顛覆、西班牙の無政府狀態等の報道が、頻々として此の國の耳目を驚かしたので、覺醒した國人は、奮然として蹶起し、先づ政體の革新に着手し、民衆を開いて大守を廢し、行政會議の開設を決議して、以て政治の自由を布告した。これ一八一〇年のことである。後幾何ならずして、王黨も起つて、王政の恢復を企

圖したが、民軍は到る處王黨を擊破して、一八一六年遂に國會を「テウクマン」に召集し、其の合衆國としての獨立を宣言したのである。而して其の後屢々内亂を見た結果、當時の合衆國は、終に聯邦共和國となつて、今日に及んで居る。

第三 交通と都市

一 交通

鐵道

一九一一年に於ける新設線路のみにても四千「キロ・メートル」を算し、全延長は、三萬一百八十一「キロ・メートル」に及ぶ。其の資本總額は、約十二億弗である。而して其の大半は、英國人の所有に係つて居る。今其の幹線を擧ぐれば、次の如くである。

(一) 「ブエノス・アイレス」太平洋間の鐵道

(二) 大南部鐵道線

中央亞爾然丁鐵道

(三) 「ブエノス・アイレス」、「ロサリオ」間鐵道

(四) 「コルドウア」中央鐵道線

(五) 「ブエノス・アイレス」西部鐵道

(六) 亞爾然丁大西洋鐵道

(七) 「アンデス」橫斷鐵道

海運 英、獨、伊、佛等の諸國は、孰れも航路を確實に有して、相互に激しい競争状態にある。今此等の諸國が、如何なる状態にありやを知るには、次に

記す既往五ヶ年間の統計に一瞥を與へる必要がある。

年次	英	獨	伊	佛	其他
一九〇三年	五六	一二	七	五	二〇
一九〇四年	五九	一二	九	七	一三

一九〇五年

五九

一一

一〇

八

一二

一九〇六年

五七・五

一一

一一・五

七

一三

一九〇七年

五七・五

一三

九・五

八

一二

右に就いて見る如く、此の國の海運は、英國がその過半の權利を掌握して居る。

而して諸會社中特に名有るは、「ローヤル・メールス・ステイムシップ・パケット・

カンパニー」、「ラン・ポート・ホールト」線、「ロイド・イタリアノ」、「バシフィック・ス

ティーム・ナヴ・ゲーション・カンパニー」、「ハンブルグ・スッド・アメリカーナ」、「ホワ

イト・スター」線等で、佛の世界一週航路も著名なるものである。

此の國には又河川交通も相當なる發達をして居る。即ち彼の「リオ・デ・ラ・プラ

タ」及び其の支流たる「バラナ」、「ウルグアイ」及「バラグアイ」の巨流があつて、其の

流域は能く數千哩に亙るから、數千噸の汽船を頻繁に上下させて居る。

郵便 南米第一にして、加奈陀及濠洲よりも、人口宛の發信數は、遙に多くある。

電信の利用といふ點に於いても、亦南米第一である。電線の延長は、約三萬哩あり、海底電線は三千哩の延長を有して居る（一九〇七年頃）。

二 都市

ブエノス・アイレス市 亞爾然丁の首府である。人口百萬三千餘（一九〇五年）を有し、南米第一の都會として、萬人に知られて居る。市は「ラ・プラタ」河畔の平野に位し、西班牙人メンドーサに依つて「ブエノス・アイレス」（西班牙語にて清き空氣の義）と命名されただけあつて、健康的都市としての名も顯著なものである。死亡率を見ても、其の割合は千人に對して十四人と六で、一九〇四年百歳以上の長壽者二百三十四人あつたといふことである。「プラーサ・デ・ラ・ヴキクトリア」街は、此の市の銀座といふ格で、公園には、市の誇りとする「パレルモ」公園がある。廣さ約四百町歩ありて、壯美多く比を見ない。而して市街は實に美麗なものであつて、南

米の巴里と稱せらるゝ所以のもの、誠に宜なるを思はせる。

富籤や競馬はなかくに盛んで、日曜の午後などは、市民何れも競馬で楽しく時を過す。而して商業上に於て南米第一であるだけに、百貨の集散夥多を極め、諸外國より來る大船巨舶は、常に港内に輻輳して居る。

ロサリオ市 此の國第二の港にして、「バラナ」河畔に在る。ブ市を距ること北西水路二百三十哩である。人口凡そ二十萬、東部鐵道の中心として、小麥の輸出の如きは、ブ市と競争の有様である。港内水深くして、巨船の出入に便利である。

コルドヴァ市 ブ市と共に交通上の中心ではあるが、經濟上發達はして居らぬ。人口は凡そ七萬を有し、皮革、羊毛等を輸出する。

メンドーサ市 海拔二萬八千餘尺の地に在る。彼の有名なる「アンデス」横斷鐵道の開通以來、智利の「ヴァルパライソ」と相通じ、貨物の集散地である。此の地は南米の歴史上有名な所で、其の大學は古き設立に係り、近年までも南米教育の中心で

第四 農業

現時でこそ亞國の農業といへば萬人の知る所であるが、僅々四十年に満たぬ以前は、國民の必要品たる穀物、砂糖、酒類等は、多額の供給を歐洲に俟つて居つた。全くの所、當時に於て、其の今日あるを卜した者は、恐らく神通力の具眼者以外には無かつたであらう。而して其の能く今日の發達ありしものは、同時代より移民が非常に増加したからでもあるが、要するに、人爲の與つた所は三分であつて、殘る七分こそは、實に天與の賜である。而して其の夥多の移民を吸収した所以を考ふれば、即ち取りも直さず、天與の賜たる沃土が、彼等を招致したのである。

一九一一年に於ける此の國の耕作地は、其の面積二千萬「エクタレア」(「一」エクタレア)は我が三千歩弱)に上つた。然し此の國の廣袤より見れば、眞に一部分の一部

分に過ぎないのである。而して此の耕作地より産出する農産物は、四十億法郎に約八億弗に上る。

重要農産物

亞國の農産物中、主なるものは小麥、燕麥、大麥、玉蜀黍、亞麻等で此等の農産物は、年々十一月より翌年三月迄に收容される。又玉蜀黍より得る所の酒精、亞麻より得る油は、副産物として收得されるのである。

左に一九一一年に於ける此の國重要農産物の種類、耕地及其の産出價格を示して參考に供する。

種類

耕地

價格

穀類

六、二五三、一八〇

エクタレ

一三六、六七〇、〇〇〇

弗

玉蜀黍

三、二一五、三五〇

一〇〇、七三〇、〇〇〇

亞麻

一、五〇三、八二〇

五二、八五〇、〇〇〇

燕麥

八〇一、三七〇

一一、六六〇、〇〇〇

苜蓿及牧草

五、四〇〇、五八〇

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

大 麥

六一、〇〇〇

一、五〇〇、〇〇〇

葡 萄

一〇五、〇〇〇

六〇、〇〇〇、〇〇〇

甘 蔗

七二、〇〇〇

五五、〇〇〇、〇〇〇

種苗其他工業用植物

八〇〇、〇〇〇

八〇、〇〇〇、〇〇〇

棉花、麻苧、落花生

一八、〇〇〇

一、五〇〇、〇〇〇

豆類其他

二、一三七、〇〇〇

一九三、〇〇〇、〇〇〇

總 計

二〇、三六七、三〇〇

七九二、九一〇、〇〇〇

今此の國の代表的農産物の分布されて居る産地を研究すれば、左記の如くである。

(一) 大麥 種類は一にして、産地は「エントレ・リーオス」、「コルドヴァ」、「サンタ・

フェー」、「ブエノス・アイレス」の四州及「パンパ」地方。

(二) 小麥 種類は十二種に及ぶ。産地は「チュブット」、「ブエノス・アイレス」、「エ

ントレ・リーオス」、「コルドヴァ」、「サンタ・フェー」の諸州及「パンバ」地方。

(三) 玉蜀黍。種類は四種である。産地は「ブエノス・アイレス」、「サンタ・フェー」、「

「コルドヴァ」の諸州及「パンバ」地方。

(四) 亞麻。種類は一種、産地は「ブエノス・アイレス」、「エントレ・リーオス」、「サ

ンタ・フェー」、「コルドヴァ」の諸州及「パンバ」地方。

(五) 燕麥。一種類のみである。産地は「ブエノス・アイレス」、「サンタ・フェー」の二

州及「パンバ」地方。

而して今度は、一九〇八年に於ける此の國の主要農産物の輸出統計を示さう。

主要農産物の輸出統計表（一九〇八年）

品 目

輸出先

噸 數

小 麥

倫 敦

一三三二、三七六

リヴァプール

二七〇、一六八

玉蜀黍

英領各地	一、三〇八、〇〇四
獨佛各地	一、三九三、六四三
伯刺西爾	一八五、二五六
南亞弗利加	一〇、五九五
其他	二、七五九
總計	三、四〇二、八〇一
倫敦	五五、一一八
リヴァプール	七九、九七八
英領各地	五六五、八二一
獨佛各地	五一三、三六〇
伯刺西爾	三、五三四
南亞弗利加	四一四

亞
麻

其 他

二一、五七〇

總 計

一、二四二、七九五

倫 敦

三六、九三二

ハル(英)

八五、二九三

英領各地

一六二、八一三

獨佛各地

六五七、四六九

其 他

二五六

總 計

九四二、七六三

燕
麥

倫 敦

一五八、六五五

リヴァプール

二四、九二三

英領各地

四六、四七六

獨佛各地

一七九、一八〇

大 麥

其 他

總 計

四一二、八三四

リヴァプール

九二一

英領各地

一、六一二

獨佛各地

一三、一八七

其 他

二〇一

總 計

一五、九二一

右の表に就いて見らるゝ如く、莫大なる亞國農產物の輸出先が、甚だ少數なるに驚かれる。然しこれは、輸出先より更に歐洲各地に向けらるゝが爲めである。北合衆國の得意先ならぬは、北米にも「テクサス」の如き大農園が有るからである。

第五 生畜と林業

一生畜

亞爾然丁の生畜の盛なるは、世界に有名なもので、今更々々の要を見ないが、其の起源に溯れば、彼の西班牙の征服者が、其の本國より少數の家畜を齎し來つて「ラ・ブラタ」河畔に放飼したのに始まつて居る。其の後、年と共に夥しく増殖した移住民の數と正比例を保つて、此の國の生畜は、著しとも著しい大々的の發達を遂げた。實に其の増殖率の激甚なことは、驚くべきものであつた。斯くして亞國は、獸毛、獸皮を輸出し始め、次で獸肉の輸出をはじめ、遂に此等を其の重要貿易品として、國の生命たらしむるに至つたのである。

此の國の生畜業にありては、羊毛、凍肉、罐詰、獸皮、脂肪等を推し、分けても羊毛及凍肉を最たるものとする。而して此の二者に關する詳細について少しく左に述べよう。

(一) 羊毛 由來氣候溫和にして、綠草四時地上に絶ゆることなく、泉及小川は其

の間に點在して、大自然の繪畫を爲して居るのであるから、詩的に考へても、羊の巨群が相應はしい。而して羊毛が、其の主要産物たるも誠に面白味のあることである。

毎年八月より翌年三月に亘つて、産地より出された羊毛は、中央市場に集まる。其の中央市場の建築は、實に南米第一だといふことである。

(二) 凍肉 牛羊肉にして、歐洲に輸出される。我が國にて魚を氷詰として遠地に輸送するのと大同小異である。歐洲の市場に現はれる時、凍肉は、殆んど新鮮のものと等しく、歐洲人士の口にされる。然し一度空氣に當れば、時日の経過と共に漸次腐敗するといふ。

尙一九一一年末の調査に基づく此の國の生畜類の種類、頭數及價格を示せば、次の如くである。

種類

頭數

價格

牛

二九、四〇〇、〇〇〇

四二〇、〇〇〇、〇〇〇

金貨 弗

羊

七四、〇〇〇、〇〇〇

一四〇、〇〇〇、〇〇〇

馬

八、五〇〇、〇〇〇

一〇五、〇〇〇、〇〇〇

騾馬及驢

八二〇、〇〇〇

一三、〇〇〇、〇〇〇

山羊

四、六〇〇、〇〇〇

五、〇〇〇、〇〇〇

豚

二、三〇〇、〇〇〇

一二、〇〇〇、〇〇〇

計

一一九、六二〇、〇〇〇

六九五、〇〇〇、〇〇〇

此の節の終りに臨んで、参考の爲め、亞爾然丁に於ける獸肉の消費量を擧げて見

よう。

以上の事實を見來つた時、亞國の生畜業が、如何に盛大なるかは、蓋し言及の要を見ない所であるが、又この國の消費する獸肉類も非常なもので、これを其の人口

當にして見ると驚くべきものがある。即ち其の人口の一人當にした肉の消費量は百二十八「キログラム」にして、之れを濠洲の百十一「キログラム」、北米合衆國の七十「キログラム」、英國の四十七「キログラム」、加奈陀の四十「キログラム」、佛國の三十「キログラム」、白耳義の三十一「キログラム」、伊太利の十二「キログラム」等と比較する時、如何に其の大なる割合を示して居るかに舌を捲かねばならない。

因に亞國が殆ど生命とする生畜中にありて、其の重きを爲す牛及羊の輸出される數、内地消費及諸製造所の使用の爲めに屠殺される數を表記すれば、次の如きものとなる。

牛

羊

輸出

二二〇、〇〇六頭

三九〇、〇〇〇頭

内地消費

四、〇九六、〇〇〇

六、八二六、六六六

凍肉製造工場

九二〇、〇〇〇

四、〇〇〇、〇〇〇

糧食製造工場

二四四、九三〇

二〇〇、〇〇〇

鹽漬製造工場

一三七、〇二四

二 林 業

亞國あこくの林業りんぎふは、特別とくべつなる研究けんきうには到底たうてい値ちしさうもない。農業のうぎふに又また牧畜業ぼくしゅぎふに、すべての點てんに天惠てんけいを飽あく迄まで稟りやうけて居ゐる國くにであるから、發達はつたつすべき素地そちを有いうし乍なら、一向いかなに顧かへりみられて居ゐないのである。

此この國くにの產出さんしゆする木材もくざいは、硬質かうしつの物ものを限り、松柏科等じまつはくぐわとうの木材もくざいは、北米はくべい、瑞西スイツル、伊太利等イタリより主しゆとして輸入ゆにふされて居ゐる。而しかして此この國くにに於おける有名いうめいなる材ざいは、「ケプラーチヨ」と稱しょうし、其その質しつは鐵てつの如ごときを以もつて、建築用材けんちくようざいとしては使用しやうし得えぬけれど、鐵道てつどうの枕木用まくらぎようとしては、蓋けだし此この上うへもなき物ものであり、又往來またわうらいの煉瓦石代用れんがせきだいようとしても上じやうのじやうものであらう。尙なほこの材ざいよりは「タンニン」を出だし、獸皮じうひの鞣なめし用ようとして、盛まかんに

歐洲殊に獨逸に向けて輸出される。この材の產地は、「チャーゴ」、「チェブット」等を推す。

第六 鑛業

前にも述べた通り、農業と牧畜業との二方面に非常な發達を遂げた亞國は、未だ鑛業の方面には至つて到底駄目である。蓋しこれは、地勢の然らしむる所ではあるが、觀察を進めて見ると、金、銀、銅、白銅、鉛、大理石、石炭、鹽、硫黃、石油及陶土等の鑛脈は、國內に於て能く發見される。而して少しく見るべきものは、「コルドヴァ」及「ブエノス・アイレス」の石炭製造業、「チニブット」の石油探掘業等にして、其の他は、未だ鑛業として注意すべきものが無い。これ何が故に然るかといへば、要するに、鑛夫の缺乏及鑛區と産業中心地との交通の不便とに因るもので、將來此の國が發展して、この缺陷を補ひ得ると同時に、この事業に努力するの日は

來たならば、其の富は農業及牧畜業のそれと相合して、蓋し盛大至極なものとなるであらう。

第七 商工業

大體に於いて、亞國の商工業は、智利及秘露の場合に見たるが如く、外國人の事業とも見られる。而して其の代表的なるものは、英吉利人、獨逸人、佛蘭西人、伊太利人及米國人（北米合衆國）等である。

今此等の外國人を觀察するに、英人は、主として鐵道、電車、電信、電話等の交通事業を獨占し、獨逸人は、英人の交通事業に對して、商業方面に活動し、市場の商權を握らんとする傾向を示し、佛人は、相も變らず、流行の策源を以て任じ、婦人衣裳屋、小間物商の如きは何れも佛人の專賣事業である。又伊人は、下等なる勞働的業務を事とし、農業及牧畜に従事して居る者が、十中の七八を占める。而して又

米人は、目下の所未だ勢力も少いが、聽て自國との商業が發達すれば、この國の事業の上にも應分の投資を爲ることであらう。

重要商工業品

今我が國の重要輸出品に見地を置いて、この國の商工業品の重要な物を列舉し、此等に對する大體の觀察を試みよう。

(一) 絹織物。大抵白色、無地の物を需要する。一にも二にも巴里を模倣して居る

國であるから、一面より見れば、巴里の流行を其の儘に移して居るのである。而かも氣候は、巴里のそれと正反對ゆるゑ、巴里の夏は此の地の冬となり、従つて彼の地の夏物の殘品を此の地の夏物として更に賣り出すことが出来る。従つて冬物も同様のであるから、此の點は大なる便利とされて居る。此の國へ輸入される絹織物は、反物よりは既製品の方が多し。而して目下の所では、其の商權は佛、英、獨の三國の商人に掌握されて居る。我が商人の取扱額は、全額の十分の一にも満たぬ。何にしても巴里の流行を見越して掛かることが大切で、色物でも然うだし、中綿物又は

紋物もんものにあつては、特に然さうである。この方面ほうめんにありては、巴里パリに對たいする研究けんきうを怠おこらないやうにするのが何なにより肝要かんえうである。

(二) 絹製手巾きぬせいハンカチ。この國くにでは、一流りうの社會しゃくわいに麻手巾あさハンカチが使用しやうされ、二流りう乃至夫それ以下いの社會しゃくわいに絹手巾きぬハンカチが需要じゆえうされる。一九〇六年ねんの統計とうけいに依よれば、七六九、二四五弗ドルの輸入ゆにふがあつた。佛國ふつこくが首位しゆゑんを占しめ、伊國いこく及我わが國くにがこれに次つぐ。然しかし此この統計とうけいは、密輸みつゆの多おほいこの國くにであるから、信しんを措おくことは出來できない。

一「キロ」の査定價格さていかかくは、十五弗ドルにして、課税くわぜいはそれに對たいする百分ぶんの二十五である。

(三) 絹團扇きぬうちは。賣行うりゆきが宜よろしい。亞國其他あこくそのた歐米おうべいの風景ふうけいを染そめ出だしたり、又また寫うつし出だした

りした物ものよりは、反かへつて本邦固有ほんぱうこいうの山水さんすゐ、花鳥くわてうや人物じんぶつの方が歡迎くわんげいされる。寸法すんぽうは四寸すん、六寸すん、八寸すんといつた所ところがよい。

税金ぜいきんは、一「キロ」二弗五十仙ドルセントの査定價格さていかかくに對たいする百分ぶんの二十五である。

(四) 花筵はなじろ。從來じゆうちん日本品にほんひんは、一度倫敦どロンドンに出て、倫敦ロンドンからこの國くにに輸入ゆにふされて居ゐたが、

近時は、横濱、神戸より直輸入される。

花蕙には、種類が二つある。一は普通花蕙で、他は印度花蕙である。而して前者に對するよりも、後者に對する評定價格の方が低く、従つて稅率が低くなる。一般に日本品は、印度花蕙として取扱はれて居るので、當業者は、其の點に於いて大に満足すべきである。一「キロ」四十仙の査定價格に對する百分の二十五を稅率とする。花蕙のこの國に於ける用途は、敷物、寢臺用、家具用であることに變りはなく、本邦品の前途は、大に有望であらう。

(五) 陶磁器。太平洋岸の諸國と異なる所はなく、獨逸品は、一般に英國品を凌駕して居る。日本品は、唯珍奇の點に於いて需要されて居る。要するに、巴里趣味より來て居るから、漸次濫向きにはなりつゝある。花瓶、菓子器、灰皿、飾皿、傘立等が出る。又茶器は、茶碗のみの方が、反つて賣行きが好いさうである。一「キロ」の査定價格八十仙に對する百分の二十五が稅率である。

色合いろあひは、一般はんに青色せいしょくを好このまない。通常つうじょう着價ちやくかは原價げんかの三倍はいとなり、之これを倍はいにした六倍ろくばいを以て賣價ばいとして居る。

(六) 漆器しつぎ。獨逸ドイツは、盛さかんに廉價れんかで輸入ゆたふして居る。日本品にほんひんはすべて静岡物しづおかもので、盆ぼん、手巾箱かたびら、菓子入等くわしいれとうが多い。唯運賃たうんちんの點てんで、日本品にほんひんに比ひして其の三分ぶんの一を以て輸入ゆたふされる獨逸品ドイツひんとの競争きやうそうは、屹度苦勞きつとくろうなことであらう。

稅率ぜいりつは、一「キロ」七十仙セトの査定價格さていげかくに對たいする百分ぶんの二十五である。

通常つうじょう、着價ちやくかは原價げんかの二倍半はいはんで、賣價ばいは其の倍はい即ち原價げんかの五倍ごはいに當あたつて居る。

(七) 小机隈棚こづくみくだな。机つゑは主おもに帽子臺ぼうしだいとして需要じゅえうされる。溜色塗ためいろぬりに山水さんすゐ、花鳥くわてうをあしらつたものが、從來賣行じやうらいつたのである。黑色こくしよくに銀模様の物ものも、喪中用もうちゆうようとして、多少たせうの賣行うれゆきを見る。然し常しやうに新しき研究けんきうはして欲しいものである。

(八) 銅器どうぎ。從來じやうらいの所ところでは、先づ成果せいぐわを見なかつた。先々將來さきくしやうらいに俟まちつあるのみである。然し此等これらを陳列ちんれつする時とき、其の店みせの結構けつこう及裝飾具合しやうじぐあひも、併あはせて等閑とうかんには附ふされぬ。

問題であらう。

(九) 扇子、佛國が第一位で、西班牙、日本、獨逸といふ順序を以て、この國へ輸入される。普通品は、我が國より佛、西に輸入された物が、更に加工されて、この國へ輸入されるのが多いといふ。日用品といふ點よりして有望である。普通に小賣相場は、着價の三倍である。

(十) 紙製「ナプキン」。廉價なものと意匠の良いのとで、日本品は、外國品を驅除しつつある。兎に角此の國に於けるこの消費高は、普通一ヶ月、小茶店にて五千枚より一萬枚、大茶店にて五萬枚以上に上り、毎月首府のみにても三百萬枚を越ゆるといふのであるから、蓋し都鄙を通じた場合には、恐ろしい數字に及ぶであらう。

税率は、一「キロ」の評定價格四十仙に對し、百分の二十五を課するのである。

(十一) 「コッピ」紙。日本よりの輸入は、未だないやうであるが、希望の向もあるらしく、將來は必ず有望な商品とならう。但し目下この國に需要されて居るのは、百

枚三十仙乃至四十仙位のものである。

(主)

竹細工品。

この國に輸入される該品は、入國後組み立てられるものが多いが

ら、破損し易く、又裝飾も至つて單純であるが爲めに、上流社會の裝飾用とはなら

ない。なるとしても先づ中庭向のものに過ぎない。

(主)

柳籠及經木細工。この國には、一種の柳籠があるけれども、その質甚しく

粗笨であるから、本邦品は、其の代用たるべき望みを十分に有して居る。

經木製の菓子箱の如きは、一時は賣行もあつたが、粗製なのと變色し易いとの爲

めに、漆器を以て代用されるらしい。

(主)

經木眞田及麥稈眞田。婦人帽にされる經木眞田は、餘りに需要されない。こ

れ婦人帽は、佛國より既製品が澤山輸入されるからである。

男子帽としての麥稈眞田は、倫敦を以て其の供給の中心として居る。これは、其

の漂白の巧妙なものと長期に亘る信用貨を爲すが爲めであらう。

(五) 綿フランネル。精良品は英、獨、佛より、粗製品は内地の工場或は伊太利人より供給されて居る。兎にも角にも運賃の關係上、我が國よりこの物を輸入するのは、困難とする所であらう。

(六) 麻布製袋。農業國たるこの國が産出する莫大なる農産物を容れる袋は、之を外國からの輸入供給に仰いて居る。供給地は、主として印度であるが、不定期船或は石炭船や帆船に積み込んで輸入される。薄利の商品故、競争を試みることは、蓋し至難であらう。

(七) 精米。伊太利より日本米の種子を輸入して米作を試みた所が、其の成績は、頗る良好であつたといふことである。而して漸次増進の見込みがあるが、未だに以て内地の需要を満たすには足らない。

米の輸入は、英領及和蘭植民地を推し、伊太利、獨逸といふ順序である。我がよりも輸入を試みたならば、結果は面白からうと思はれる。

(六) 茶ちや。黑茶くろちやは、外國ぐわいこくより供給きよくきふされ、「マテ」茶ちやはこの國特産くにとくさんの有名な茶ちやである。

一九〇五年ねんには百二十萬「ペン」、一九〇六年ねんには百五十萬「ペン」の輸入ゆたふがあつた。供給國きよくきふこくは、英國えいこく及英領植民地えいりやうしちみんちを其その最たるものとし、支那しながこれに次ぐ。

(七) 乾鱈ほしだち。主として棒鱈ぼうだちで、五十「キロ」位宛繩ぐらふづなはで束ねられたものが輸入ゆたふされる。

一九〇六年ねんに於ける輸入額ゆたふがくは、五十萬四千六百六十九「ペン」にして、諾威及蘇格蘭ツトランドが、其その輸入ゆたふの牛耳ぎやうじを執つて居る。

輸入時期ゆたふじきは、主に夏期かきであつて、其その需要期じゆえうきは、基督復活祭前後キリストふくくわつさいぜんごの獸肉類じうにくるゐを使用しよせぬ期間きかんである。

第八 貿易

最近の輸出入

亞國あこくの對外貿易たいがいばうえきは、過去四十年間くわこしねんかんに於いて、六倍はいろの増進ぞうしんを遂げた。其その統計とうけいに見るに、一八七〇年ねんによ人じんこう一八割にんわりの貿易ばうえき頁二六、

七弗のものか、一八八五年には六一・一弗となり、一八九〇年には七二弗となり、一九〇四年には九〇弗となり、一九一一年には一一八・六弗となつて居る。實に其の留易の増加の割合及一人當貿易額は、歐洲諸國のそれよりも優に大である。今研究資料として、最近十年間に於けるこの國の輸出入貿易額を擧ぐれば、左に示すが如くである。

年次	輸 入	輸 出
一九〇二年	一〇三、〇二九、二五六	一七九、四八六、七二七
一九〇三年	一三一、二〇六、六〇〇	二二〇、九八四、五二四
一九〇四年	一八七、三〇五、九六九	二六四、一五七、五二五
一九〇五年	二〇五、一五四、四二〇	三二二、八四三、八四一
一九〇六年	二六九、九七〇、五二一	二九二、二五三、八二九
一九〇七年	二八五、八六〇、六八三	二九六、二〇三、三六九

一九〇八年 二七二、九七二、七三〇 三六六、〇九五、三四一

一九〇九年 三〇二、七五六、〇九五 三九七、三五〇、五二三

一九一〇年 三五一、七七〇、六五六 三七二、六二六、〇五五

一九一一年 三六六、八一〇、六八六 三二四、九六七、五三八

右の表中一九一一年の輸出の減退と輸入の増進は、同年度に於ける玉蜀黍の收穫不良と亞麻の輸出減少との結果、斯くあるに至つたのである。

而して同年度に於ける其の主要なる輸入國別を擧げて、各々の輸入價格を示せば、即ち次の如くである。

國別 輸入價格

英吉利 一〇八、六三七、四三〇弗

獨逸 六五、八六二、二一一

北米合衆國 五二、三五三、三九〇

佛蘭西

三八、〇二六、五五五

伊太利

二一、三四五、九七九

白耳義

一九、四八五、二一一

西班牙

一二、二七九、四六五

伯刺西爾

八、四六一、四一六

奧太利匈牙利

四、三〇四、一一一

ウルグアイ

三、〇六九、六四八

和蘭

二、九七七、七三九

ボリヴ・ア

一四九、三八八

亞弗利加

五六、一〇〇

パラグアイ

二、九六一、三九三

智利

六八二、三〇二

其他諸國

一九一、一五八、三四五

内日本

五一九、六二七

合計

三六六、八一〇、六八六

尙又同じく一九一一年に於ける其の輸入品目及び價格表を明記すれば、左記の如くであつて、目下に於ける亞國の需要品が、如何なるものであるかい知らるゝと同時に、其の將來をもトし得られるであらう。

輸入品別及價格表（一九一一年）

品別

價格

家畜

五三一、五三〇

食料品

二九、三二六、七六七

煙草

五、八九一、八〇五

飲料

一三、七九九、一七〇

織物類

六九、六九八、〇九五

油類

一五、八九〇、四六四

藥材及化學用藥品

一二、一七八、二七四

顏料及塗料

二、四四四、八一八

木材及木製品

一〇、四〇〇、五七九

紙及紙製品

八、六六九、九八〇

熟皮

三、五九七、七八四

鐵

四三、〇八五、七四一

其他金屬

一五、四七九、六八六

農具

一三、六九二、三七二

運輸用品

三六、八六五、三七九

石炭、石材、硝子

三三、二〇二、〇七六

建築材料

三三、七八九、四四四

電氣機械類

六、六八三、六七三

雜貨

一一、五八三、〇四九

合計

三六六、八一〇、六八六

而して今度は、同じく一九一一年度の亞國の輸出品別と其の價格を左に示すことは、十分興味と價值とを伴つた事であらうと思ふ。

輸出品別及價額表（一九一一年）

品別	價額
家畜	一六八、三九四、七三三
農産物	一三九、七六四、三八六
林産物	一二、二五四、六〇四
礦産物	五六五、三三八

獵獲物及漁獲物

其他諸產物及製品

合計

三二四、六九七、五三八

一、六六三、二八五

此等の表を以て、如何に其の貿易状態が活潑にして、大規模なるかを看取するに足らう。

重要輸出入品

亞國の重要輸出入品は、既に右に挙げた諸表に就いて、其の價格をも併せて知ることが出来る。

而して其の重要輸入品に關しては、我が國の重要輸出品に見地を置いて、既に商業品の部に於いても記す所もあつたから、茲には重ねて書くまい。

即ち茲では、其の重要輸出品に就いて、少しく左に觀察を試みよう。

(一) 小麥及小麥粉。小麥の輸出は、一九〇二年より見れば、一九〇六年には其の二倍以上に上つて、二百二十五萬噸を算し、其の價格は、實に邦貨一億三千三百萬

圓に當つた。又小麦粉は、一九〇二年に比すれば、一九〇六年には四倍以上の生産額であつて、輸出も八百五十五萬圓に上つた。

我が國への輸入如何は、北米及濠洲に於ける相場を精密に研究した後の問題である。

(二) 牛乾肉。玖馬、伯刺西爾、西班牙、亞弗利加沿岸、支那等に對する供給は、隨分と大きなものである。而も耐久力が、普通にしても五六ヶ月であるから、日本に對しても貿易品たり得よう。

(三) 凍肉。亞國の大富源の中堅をなして居る。面白いことには、肉の相場に於いて、亞國が最低廉の國で、日本が最高價の國であるから、我國への輸入も見込みがあるであらう。

(四) 牛羊皮。鹽漬のものと乾燥したものとの二種がある。鹽漬の方は、剥皮されたものを買主が鹽藏するのが慣習だと聞いて居る。牛皮の相場は、大抵百「キロ」金

貨二十三弗五十仙、羊皮の相場は、「キロ」金貨二十九仙位である。

(五) 脂肪。我が國への輸入は、如何あらうかと思はれる。或は濠洲あたりからの輸入の方が、安くあがらう。相場は、牛百「キロ」が金貨十四弗五十仙、羊百「キロ」が十四弗七十五仙位である。

(六) 馬毛及骨。馬毛は十「キロ」紙幣十一弗位を相場とし、骨は所謂八片一噸に就き金貨四十六弗位を相場とする。

(七) 羊毛。この物には、次の如き種類がある。

(1) 「メリノ」羊毛 主要なるもので、毛の長さ大體に於いて等しく、三割の純毛が得られる。相場は十「キロ」に就き紙幣九弗位である。

(2) 「フアイン・プリーナ」羊毛平均等毛で、純毛は四割八分を得られる。相場十

「キロ」七弗五十仙位。

(3) 「フアイン・グラス・プリード」、「リンコルン・メリノ」強質羊毛にして、純毛

は五割六分得られる。相場は十「キロ」七弗五十仙位。

(4) 「グロス・フリード」 強質羊毛にして、純毛は七割得られる。相場は十「キロ」

七弗位。

(5) 「リンコルン」粗羊毛 長い羊毛が得られる。相場は十「キロ」六弗八十仙位。

日亞貿易

日露戦争に依りてこの國に紹介せられたる我が國の商品は、戦争當時の人氣の爲めに、其の精粗善惡に拘らず、盛にこの國の市場を賑し

た。茲に於てか、横濱、神戸の三四貿易商は、進んでこの地に店舗を開設するに至

つたのである。而して又一方に於いては、この國の商人が、名譽領事を介して、日

本と取引を開始した結果、茲に我が商品は、一時亞國市場に充滿した。然し當時恰

も戦争は終了し、延いて日本に對する好奇心の減退乃至消失となり、一方商品の寄

託を受けた日本人中には不正者を出したりなどして、一時本邦商品は、捨て賣りに

付せられた事がある。

右は亞國に對する我が商業の過去の歴史であるが、現在及將來として、之を考ふる時は、我に於いて能く一時的の利益を度外し、不斷の必需品たる絹物の商權を我が手に收めることに着目し、努力しなければいけない。絹物以外には、花蒔、紙及紙製品、ブラシ等が多望にして堅實なる輸入品である。何にしても必要缺く可らざるの日用品を恆久的に供給するのてなければ、大抵は知れたものと言ひ得よう。

亞國の關稅は、保護主義を取つて居るが、何にしても購買力の強大な國であるから、顧客としては誠に上々のものであらう。唯々日亞貿易の根本問題は、運輸力の如何と運賃の關係に依つて解決されるのであるが、要するに歐洲諸國との競争は、彼等自身の暗闘が已に激甚を極めて居るのであるから、大變に六ヶしい問題であらねばならぬ。

要は確實な思想の下に、堅實な遣り口を進めて、英、獨、佛、伊等に依つて龍斷せられつゝあるこの國の商業舞臺に、立派な商旗を樹立させて見たいものである。

亞國に於ける我が商人は、先づ「ブエノス・アイレス」市に在る左の三者を推す。

(一) 絹物商

横濱野澤屋出張員

辻 正一郎

(二) 絹物及雜貨

藤 松 商 會

(三) 雜 貨

瀧 波 商 店

而して一般の上に於いて、日本商人のこの國との貿易上不利なる點は多々ある。左に之を列舉して見る。

(一) 註文の日より到着の日まで約六ヶ月乃至九ヶ月の日子を要するが爲め、亞國商人は、日本に註文を發するよりも、英、佛に發する方が便利であり、又一面に於いて其の價格の上にも大差がないのである。

(二) 英、佛等の荷主は、長期間の信用貸を爲し、通常三ヶ月は代金の取立をしない。それが爲め、買主が受くる金融上の便利といふものは非常なものである。これを日本商人が、信用狀を先きに廻すのを必要とするのに比すれば、其の差は大變な

ものと云はざるを得ない。

(三) 注文通りの品物を精選して送る點に就いては、巴里や倫敦の方が、一般に日

本よりも確實にやつて居る。

(四) 本邦に在る確實なる商店は、多くは未だ知られず、又知られて居るとしても、

西班牙語又は佛蘭西語で書かれた注文狀を完全に了解するか如何かにも疑懼を懷か

れて居る。

(五) 亞國に於ける大商人は、絹物の取扱ひを一般に好まない。これ、絹物類には

大規模なる密輸入が非常な勢を以て跋扈して居るからである。

第五章 伯刺西爾

第一 風土

位置

東西二千六百哩、南北二千五百哩、其の面積は、三百二十餘萬方哩にして、全歐洲よりも大きく、我が國の約二十倍に達する伯刺西爾の國土は、北緯五度に起つて南緯三十四度に至り、西經三十五度より同七十四度に及びて、南米全土の約三分の一を占め、大陸の中央部より東部一帯を領して居る。南米大陸中に於て、この國と境界を保たざる國は、唯智利一國あるのみである。而して國土の周圍線の延長は、一萬六千哩に及ぶが、海岸線は出入が一般に乏しいからして、其の延長は五千九百哩といふ比較的小さいものである。

地勢

伯刺西爾は、地勢上高低の二部より成つて居る。

高地は、中央部並びに南部の溫帶地方であつて、海拔二三千尺の高地である。リオ・デ・ジャネイロ地方は、最高部にして、海拔一萬尺を越える。

此の國を走る山脈には、大體上次の三種がある。

一) 海岸に沿うて走るもの。

(二) 海岸と並行するもの。

(三) 内地に分岐するもの。

而して低地は、北部の熱帯の大平原にして、其の面積は八十萬方哩もあり、國土の全面積は四分の一を占める。人跡未だ見るに由なく、斧鉞未だ下されたるを知らずといつたやうな所はいくらでもある。

氣候

元より龐大なる地區に互つて居るから、氣候に差別の存するのは、誠に當然であるが、南部三州の溫帶性なるを除外すれば、他は凡て熱帶性の氣候に等し、地勢の如何に因つて、多少の相違を見る。

熱帶地方は、四時の氣候に殆ど差別無く、冬季と夏季とが、判然區劃されない。

溫度は平均華氏の八十度内外で、酷暑だといつても九十度を越えることは稀である。

「アマゾン」地は、殊に熱氣の強烈な所で、水量が豊富の上、土地は一面大密林の層を成して居るから、さらでも充滿して居る水蒸氣が、極端に空氣を濕潤ならしめ、

實に其の溫度は全世界に冠絶して居る。加之、貿易風は、何物にも遮られずに、大西洋面を渡つて、この地方に吹き付けて來るから、大氣の濕潤に加へて、溽熱眞に譬ふるに堪へないさうである。而して「アマゾン」の北部流域を除いた他の地方には、雨期と乾燥期との二期があつて、雨期は、大抵十二月より始まり六ヶ月間は續くといふことである。

半熱帶の地方は、雨期と乾燥期との別が、熱帶地方に比すれば整然として居るが、貿易風は秩序的でなく、且つ晝夜の寒暖の差が著しい。

南部なる溫帶地方は、これを南歐の氣候に比すべく、溫和にして、其の平均溫度華氏六十五度を示す。雨期は十月より十二月に及び、乾燥期には晝夜の寒暖に顯著なる差を見る。「ミナス・ジエラエス」州の「サンフランシスコ」河發源地方の如きは、

世界稀有の健康地で、其の地方の土人中には、百二十歳以上の高齢者が尠からずあるといふことである。

住民

人口は、一九〇〇年の調査に依れば千七百三十七萬千六十九人であるが、一九一一年に於いては二千三百七萬九百六十九人を算して居る。之れを其の兎に角知られて居る面積三百二十九萬五百六十四平方哩に割り當てると、一平方哩につき七人強の割合に付いて居る。

住民は、非常に複雑したもので、葡萄牙人の子孫が、社會上中堅を爲し、移植民の多かつた結果、白人と黒人、黒人と土人、土人と白人といった具合に、其の雜種に富むことは、恐らく世界人類の標本たり得よう。

而してこの國に於いては、葡萄牙が曾て黒人奴隸の輸入を盛に試みた結果、後に（一八八一年）全く其の解放を遣つたとはいふものの、一八四〇年には二百五十萬の奴隸を見るに至つたと云はれて居る。それが爲め、實に此等黒人の混血兒のみにて、全人口の半數を占めるのである。

政體

共和政體にして、範を北米合衆國に取つて居る。國內は二十州に分たれ、各州は獨立して自治制度を取つて居るのである。大統領は行政權を掌つて、其の下に副大統領があり、共に任期は四ヶ年である。議會は、上下の兩院より成つて居る。各州の知事及議員も、皆選舉に依つて選出される。

宗教

他の南米諸國と同様に、舊來羅馬舊教を以て國教として居るが、近時自由政策を樹てた結果、其の舊教たると新教たると他教たるとは敢て顧みられなくなつた。先づ如何なる宗教にても差支ないと見て可なりであらう。従つてこの國には、政教の聯絡は全く無い。但し國教は羅馬舊教なるが爲め、其の國民の大部分は舊教徒にして、異教徒は約十萬を算するに過ぎない。

移民

伯刺西爾へ入國する移民が、年々夥しいものであることは、この國の名稱を知る者は、必ず知つて居るであらうが、實に珈琲の伯刺西爾であるだけに、其の年々吸収される移民は、之を珈琲が招致するに外ならぬと云つても差支

ない。
今この國に入國した移民數を、一九〇七年より一九一二年に互る五ヶ年間に就いて見よう。

年 次

移 民 數

一九〇七年 六七、七八七^人

一九〇八年 九四、六九五

一九〇九年 八五、四一〇

一九一〇年 八八、五六四

一九一一年 一三五、九六七

一九一二年 一八〇、一八二

合 計

六五二、六〇五

而して右表中の最後なる一九一二年の移民十八萬百八十二人中、自由移民は十二

萬四千五百十七人、補助移民は五萬五千六百六十五人であつた。而も其の中で耕作地勞働者は十三萬四千六百十二人を占めて居た。

扱て特に一九一〇、一一、一二の三ヶ年の入國移民を、國籍別にして、次に示さう。

國籍

一九一〇年

一九一一年

一九一二年

葡萄牙

三〇、八五七_人四七、四九三_人七六、五三〇_人

西班牙

二〇、八四三

二七、一四一

三五、四九二

伊太利

一四、一六三

二二、九一四

三一、七八五

露西亞

二、四六二

一四、〇一三

九、一九三

土耳其

五、二五七

六、三一九

七、三〇二

獨逸

三、九〇二

四、二五一

五、七三三

奧太利匈牙利

二、六三六

三、三五一

三、〇四五

日本

九四八

二八

二、九〇九

佛蘭西

一、一三四

一、三九七

一、五一三

英吉利

一、〇八七

一、一五七

一、〇七七

其他

五、二七五

七、九〇二

五、六〇三

合計

八八、五六四

一三五、九六七

一八〇、一八二

右の表にて知られる通り、葡萄牙、西班牙、伊太利の三國人は、數に於て霸を稱して居るけれども、多くは一時的出稼の移民が多く、それに反して、獨、埃、露等の諸國人は、専ら植民として土着永住の計を立て、居るのは、大に注意すべき現象である。

第二 史 要

一五〇〇年の比、コロンブスの與黨たるピンゾン始めてこの國の北岸を發見した。

彼は即ち沿岸を巡航して、「アマゾン」河口に到り、其の海水の甘いのに一驚を喫して、其の地方に命名する所もあつたが、進んで領土の占領を敢てせず、且つは其の公表が遅かつた爲め、終に發見の榮譽を荷ふに至らなかつた。

其の翌一五〇一年葡將カブラルは、西印度に航行しようとして、逆風に遭ひ、爲めに「バイア」州の南部たる「カブラリア」灣に漂着した。茲に於いて、彼は附近一帯の地を葡萄牙の名を以て占領した。これ葡萄牙人の植民及探検の嚆矢である。而して爾後伯刺西爾は、歐羅巴に紹介されるやうになつたのである。

次いで一五六七年、葡萄牙人は、「リオ・デ・ジャネイロ」に植民して市を建設した。其の後一八〇七年、佛國が大軍を擧げて葡國に侵入した。其の時に當つて、葡國王子は、難を此の地に避けて、「リオ・デ・ジャネイロ」市に入つたのが、翌一八〇八年のことであつた。

茲に於いて、人心收攬の爲め葡國王子は、諸港を開放して自由港とし、産業の發

達を圖り、財政を整理し、病院を建て、銀行を設置し、學校を起しなどして、遂に「リオ・デ・ジャネイロ」市を改善して、茲に伯刺西爾國なるものを建設した。即ちこれより伯刺西爾王國は、頓に隆盛の度を加へて、其の本國葡萄牙との關係、恰も主客轉倒といふ有様となつた。

然しながら其の後ナポレオン戦争の終了するに及んで、葡國王子は、其の子ペドロ二世をしてこの國を治めしめ、自身は本國に歸還してしまつた。

次いで一八八九年の革命が起つたので、ペドロ二世も、本國に歸り、王位を退いたのである。

茲に至つてか、伯刺西爾は、この不慮の政變の爲めに、國內の秩序は一絲たりとも亂れず、且つは刃に舐らずして、葡萄牙の統治より離れた次第である。伯刺西爾が、其の國史上、これを誇りとし、これを光輝とするのも、誠に理りあることである。

第三 交通と都市

一 交通

鐵道

「アマゾン」「トカチン」「サン・フランシスコ」「パラグアイ」の四大河が、交通連絡上大勢力を有するが爲め、鐵道の發達は勢ひ緩慢の姿であつたが、近年其の發達は、漸次顯著なるに至つた。

一九〇五年の調査に依れば、鐵道は九十五線、其の延長一萬四百八哩に及んで居る。今其の主要なるものを擧ぐれば、次の四者である。

- (一) 「リオ・グランデ・ド・スール」州に於ける南部鐵道
- (二) 「サンパウロ」州を中心とする中南部鐵道
- (三) 「バイア」州に於ける東北部鐵道
- (四) 「ペルナムブーコ」州を中心とする北部鐵道

海運

歐米との連絡航路が、なか／＼に頻繁である。

歐洲航路は、英、伊、佛、獨等の諸國に起點を發し、北米航路は、紐育に

起る。又南米諸港への航路は、歐米より起航されて居る。兎に角、歐洲間との交通

が、最も發達して居る。

又内國航路としては、河川航路と沿岸航路との二種があるが、其の河川航路は、

實に世界第一のものである。

今其の代表的河川航路を示せば、左記の如くである。

(一)「アマゾン」河(本支流共) 二萬三千哩

(二)「トカチン」河 二千五百哩

(三)「サン・フランシスコ」河 一千百三十五哩

(四)「バラグアイ」河 一千五百哩

而して此等四水路の利用點は、誠に想像以外に出て、外洋との交通も、爲めに容

易なるものがある。

殊に「アマゾン河」に至つては、其の河面實に二百七十三萬二千方哩にして、「ミッシッピー」、「ミズリー」及「ラ・プラタ」の三河を合するも猶及ばない。「アマゾン」が南米の大血管とも稱せらるゝは、誠に宜なりといふべく、實に世界第一の大河である。而して又郵便に就いては、茲に調査を缺くから、詳細はこれを明記し兼ねるが、亞國に次いでの状態に在るは、固よりのことである。そして其の電信線は約一萬五千哩の延長を有し、電線の全延長は三萬哩を出で、居る（一九〇六年頃）。

二都市

リオ・デ・ジャネイロ市 同名の州にありて、この國の首府である。人口凡そ百萬を有し、我が國の公使館及總領事館がある。灣は楕圓形を成して、周回四十五哩に及び、灣頭には花崗石より成る絶壁があつて、能く風波を遮り、誠に自然の良港で

ある。何にしても世界第一の珈琲輸出港だけあつて、市街は到る處珈琲を以て満たされ、外國船舶の出入するもの、何れも珈琲を積載せざるはない。其の他集散貨物の主要なる物は、「ウルグアイ」の牛乾肉、北米の松材及石腦油等である。

サン・パウロ市「リオ」市(リオ・デ・ジャネイロの別名)を南西に距ること二百二十哩の所にある。而して「サントス」港には、汽車にて二時間で達せられる。内部に於ける大都會にして、企業熱の盛んな都である。人口は凡そ三十三萬(一九〇二年)ある。

バイア市「リオ」市より北東八百哩の所にありて、この國第二の良港である。灣の大きな略「リオ」のそれに等しく、馬蹄形を成して居る。羅馬舊教の大僧正が居住して居る地である。人口は凡そ二十三萬(一九〇〇年)。

ペルナムブーコ市 同名の州にあつて、有数の開港場である。運河が縦横に市を貫流して居る。砂糖、棉花、牛羊皮等の輸出が盛である。人口は凡そ十二萬(一九

〇〇年^{ねん}。

サントス市「サンパウロ」を距ること五十哩「リオ」市と共に貿易の中心地である。珈琲の輸出を以て有名とする。印度の米、北米の罐詰及木材、英國の石炭等の集散もかなり盛況を呈して居る。人口は凡そ三萬三千(一九〇二年)。

フエルト・アレグレ市「リオ・グランデ・ド・スール」州にありて、かなり殷賑な都である。人口は凡そ八萬(一九〇二年)。

マオナス市「ネグロ」河畔にありて、北部の大都會である。「アマゾン」河系中の内地貿易上中樞の地として、彈性護謨を大いに輸出する。人口凡そ四萬(一九〇〇年)。

パラ市「トカチン」河口より七十哩の所にあつて、商業極めて活氣を帶び、彈性護謨の輸出港として無二といふべきである。

第四 農業

伯刺西爾は、其の氣候、地質及水利の點に於いて、農産物の生産に適合し、既に世界の大農國たる資格を備へて居るのであるが、其の耕地面積に至つては、全面積の百分の四五を占むるに過ぎない。これが爲め、政府では農學校を設置したりなどして、頻に農業の普及を奨勵して居る。

重要農産物

この國の農産物は珈琲を首位とし、護謨、砂糖、米、煙草、マテ茶、棉花等を推すのである。

珈琲は、十八世紀の頃始めて北部地方に栽培されたのであるが、爾後五十年ならずして諸州に傳播し、遂に國産物の首位を占むるやうになつたのである。この國の珈琲の産額は、實に世界に冠たるのみならず、全世界産額の八割の優を占めて居る。一八九七年には二億五千五百萬圓の輸出が、一九〇二年には同量額のもの一億四千四百萬圓に暴落して、珈琲栽培者間の一大恐慌を來し、爲めに事業の發展に一頓挫を見たが、其の後漸次恢復の氣運に向つた。然し斯かる事は、極めて重大な問題で

あるから、即ちサン・パウロ、「ミナス・ジェラエス」、「リオ・デ・ジャネイロ」の代表者は相會して、一九〇六年、其の救済策の爲め、一億五千萬圓を出資し、之に依つて年々政府は珈琲の買上げを爲し、以て其の相場の維持を保たしめた。所謂珈琲政策である。而して珈琲の中心産地には、「サン・パウロ」と「ミナス・ジェラエス」との二州がある。實に此の國に於ける珈琲事業は世界の誇りである。

護謨は南緯十度以南の「マアゾン」流域の峽谷地方に産せられる。珈琲に次いで、第二位を占める産物である。錫崙、亞弗利加、秘露等にもこの業は隆盛であるが、到底この國には比較すべくもない。實に全世界需要額の五割を占めて居る。

砂糖は、「アラゴアス」、「バライバ」、「ペルナムブーコ」、「バイア」、「ミナス・ジェラエス」、「リオ・デ・ジャネイロ」等の諸州に産して、大製造所が澤山ある。一九〇六年には、二十一萬五千噸を産出した。

リオ・デ・ジャネイロ」等の諸州に多く産出される。

煙草は、一九〇六年に二千三百六十二萬九千七百六十九基の輸出があつた。葉巻

煙草は「バイア」、「リオ・グランデ・ド・スール」、「サンタ・カタリーナ」の諸州に産し、

刻煙草は「サン・パウロ」、「ミナス・ジェラエス」、「バイア」、「リオ・デ・ジャネイロ」等

の諸州から産出される。

茶は、南部地方の獨逸植民地より主として産せられ、纖維植物は、「アマゾン」流域

地方に産し、棉花は、各州に産して一九〇五年三萬五千噸を輸出され、「コ・ア」は、

「バイア」、「パーラ」、「マラニョン」、「サントス」等の地方に産出されるが、自國の消費

を充たすに過ぎないやうである。

三州の比較

農國としての伯刺西爾を思ふ時は吾人は何と云つても「ミナス・ジエ

ラエス」、「サン・パウロ」及「リオ・デ・ジャネイロ」の三州を擧げなければ

ばならぬ。而して今この三州に就いて、少しく比較研究を試むることは價值ある事

だと考へる。

先づ其の面積、人口及一基米突平方につきての人口密度から始めよう。

州名

面積

人口

一平方基米突につきての人口密度

ミナス・ジェラエス

五七四、八五五

四、四五九、五〇〇

七・七

サン・パウロ

二五〇、八七六

二、八九三、四〇〇

九・七

リオ・デ・ジャネイロ

六八、九八二

一、一二七、八〇〇

一六・三

次に其の經濟狀態を知るの標準たる鐵道延長を研究しよう。

州名

一九〇七年

一九一二年

サン・パウロ

四、〇八二

五、四六四

ミナス・ジェラエス

四、〇七一

五、〇一二

リオ・デ・ジャネイロ

二、三一八

二、四八六

最後に其の主要產物たる珈琲より見たる比較を擧げよう。而して是は一九一一年

及一九一二年の輸出である。

州名

一九一一年

一九二二年

サン・パウロ

三五六、九一九、九五九
ミルレイス

三八一、一一七、四五三
ミルレイス

ミナス・セウラエス

一三五、六〇〇、〇九五

一九七、〇九六、六八七

リオ・デ・ジャネイロ

八一、七〇〇、〇〇〇

一〇九、九五六、六九三

第五 生畜と林業

亞爾然丁の生畜と伯刺西爾の珈琲とは、最早世界的名産として何人も知るところである。即ち、然うした程度迄に、伯刺西爾の産業は、珈琲に依つて代表されて居る。而して其の珈琲に依つて代表されて居る伯刺西爾の産業は、牧畜にも林業にも、未だ存在の意義を十分に與ふる暇を有さない。元より、地圖を展べて一瞥を與ふれば直に知らるゝ如き大國であるから、此等の産業にも亦十分の將來を見出さるゝは

勿論であつて、唯其の問題が、時間と經濟との夫れ以外には出でないのである。

隣邦亞爾然丁を見るの時、驚くべき牛羊の巨群が、國內の隨所に見出だされ、而して其の與ふる富の巨額なるを知るの時、誰か此の伯刺西爾にもそれが移されないことを思ふ者があらうか。元より本邦に略二十倍大の國土で、南米諸國即ち十一箇國中此の國に疆界を接せぬ國は、唯智利一箇國のみであることを思つたならば、其の程度如何も想像されよう。

更に南米の北部を見るの時、尨大なる伯刺西爾國土の約四分の一を占むる世界第一の大河「アマゾン」の流域地方には、全然處女林たる一大植物地層のあるを見よう。此の地方こそ、資本と勞力との問題一つに依つて、必ず解決せらるべき無限の富源ではあるまいか。千古未だ嘗て斧鉞を知らざる此の森林地方に、經濟上確乎たる基礎を有する林業の勃興を見たならば、其の林業上の寶庫は茲に鍵を以て開かれた如きもので、恐らく世に無盡藏とは此の事であらう。

拓に獻げられ度いものである。斯うした感激の澎湃として青年間に瀾漫するの時、其處に會心の壯舉は、忽焉として出現するではあるまいか。

第六 鑛業

伯刺西爾の鑛業は、猶其の牧畜、林業に於けるが如く、其の富源に至つては、同じく無限といふべきもので、今日の所では、著々發展の途にはあるといふものゝ、猶幼稚な状態にある。

此の國が、機械の輸入に重税を課して居る限りは、先づ此の業に大なる進歩を望み得まいと思ふ。

此の國の鑛産物には種々あるが、今其の主要なる物に就いて少く、金剛石の採掘には「バイア」州に二百二十五萬圓の資を有、

掘會社、「ミナス」州に百五十萬圓の資本を擁する伯刺西爾金^{ブラジル金}の織があつて、盛んに其の採掘をやつて居る。其の一ケ年産額は、^{その}他の寶石も略同額の産出がある。

金鑛は、「ミナス・セエラエス」、「リオ・グランデ・ド・スール」、「バイア」等の諸州に存^{ぞん}在し、其等の地方には、英、佛等の會社がある。一九〇五年には三百八十七萬八千^{まん}瓦の金を輸出した。

銅は、「リオ・グランデ・ド・スール」州に約七十五哩に亙る大鑛脈があつて、一九〇四年鑛石にて六百十六噸の輸出を見た。

鐵鑛は頗る豊富のものであつて、「ミナス」、「マツト・グロッソ」から「リオ・グランデ・ド・スール」州に至る間に介在して居るが、業としては未だに微々たるものである。そして大部は「サン・パウロ」から出されて居る。

そのたしゆく

くわさんぶつ

こい

しゅきりやと

第七 商工業

南米の大西洋岸に覇を稱ふるは亞爾然丁と伯刺西爾との二國であるが、今伯國を亞國と比較すると、伯國の方が、面積も大きいし、人口も多いし、交通機關も略相如くにも拘らず、極めて高率な關稅と、黑人が人口の半數に居るが爲め、國としての購買力の薄弱なことゝの爲め、商工業は、亞國に於けるが如く發達しては居らぬ。之れは、即ち、亞國の場合も、伯國の場合も、産業そのものは等しく發達して居るのであるが、亞國は、より多く天恵に浴して以て莫大の利潤を得らるゝ、牧畜に竣つのに反し、伯國にありては、生産其の物の爲めにする勞費も亦尠からざるが爲めである。而して其の主要生産物が、珈琲である丈けに、生産其の物の爲め、勞力と各地に分配する必要が牧畜の場合以上であることも勘定に入れなければならぬ。然しながら此の國に於いては、亞國程に貧富の懸隔が甚だしくないといふことは、結構

な次第だと思ふ

外國人の此の國に於ける勢力は、他の南米諸國と略同様の傾向を示して居る。

而して茲に注意すべきは、我が國との商業上、此の國より我が國へ輸入すべき物は、亞國よりも少いといふ一事である。其の故は、伯國の主要産物たる珈琲、護謨、
「マテ」茶、煙草等が、多く我が國需要する所ではないからである。尤も砂糖、植民織
維、硬木の如きは、多少輸入する見込みは有らうといふものゝ、要するに、伯刺西
爾は、我が國に對して輸入國といふ立場で、到底輸出國ではないらしい。

重要商工業品

今我が國の重要輸出品を土臺として、此等に對する觀察を述べて
見よう。而して此等の物は、此の國の重要輸入品である。

(一)

絹製品及絹織物

巴里を模して居るから、巴里の嗜好は、即ち此の國のそれ

である。氣候の關係上薄手の物が向くらしい。我が商品は、一般に英、佛、獨を經
由して入る。無地物が常に動かないところである。

「タフエタ」は、裏地用として需要があるが、一色物が宜しい。

「シフオン」は、頭飾や婦人服の裝飾用として用ゐられる。

縮緬は、「ネクタイ」用として相當の需要があらう。衣服用としては、一色物が適當であるらしい。

(二) 絹手巾 亞國と同様といつても宜しい。男子向としては、二十七吋乃至三十

五吋迄のものが、見込があらう。白無地物が最も確實らしい。

(三) 養蠶業及絹織物工業 養蠶業は、政府に於いて之を獎勵し、之に關する一切

の用具は、一九〇七年以來免税である。「サン・パウロ」、「ミナス・セツラス」州の如きは、至極の好成績を收めて居る。實際政府にありては、良好の成績を收め得た者に對して賞金の下付をさへ實施して居るのである。

絹織物工業は、高率の税を以て保護されて居るから、稍發達の見込がある。

此の國に輸入された生絲の量及價額は、次の如くである。

一九〇四年

一三、二〇一^圓

二六七、〇〇〇^圓

一九〇五年

一五、一五五

二二四、二〇〇

一九〇六年

一八、五八三

三二二、六〇〇

(四) 花^{はな}薙^{むしろ} 日本^{にほん}品^{ひん}の輸^ゆ入^{にふ}は、大^{たい}抵^{てい}倫^{りん}敦^{どん}經^{けい}由^{ゆう}であるが、大^{だい}部^ぶ分^{ぶん}は支^し那^な製^{せい}品^{ひん}を需^{じゅ}要^{えう}す

る。亞^あ國^{こく}に於^おけると同^{どう}樣^{やう}寢^ね臺^{だい}用^{よう}、敷^{しき}物^{もの}用^{よう}とされる。

一九〇七年の輸^ゆ入^{にふ}高^かは、十二萬七千四百五十五「ミルレイス」の價^か額^{がく}に上^{のぼ}り、支^し那^な品^{ひん}が其^その大^{だい}部^ぶを占^しめて居^あた。

(五) 陶^{たう}磁^じ器^き 粟^{あは}田^た燒^{やき}など^のの派^は手^てな^のが向^むく^らしく、澁^{しぶ}向^むきは未^{いま}だ鑑^{かん}賞^{しょう}されるに

至^{いた}らぬ、日^{にち}用^{よう}品^{ひん}は獨^{どく}、英^{えい}、佛^{ふつ}の諸^{しよ}國^{こく}物^{もの}で^{あり}、裝^{さう}飾^{しやく}品^{ひん}は日^{にほん}本^{ほん}物^{もの}を需^{じゅ}要^{えう}する^{らしい}。

而^{しか}して一^{はん}般^{ぱん}に意^い匠^{しやう}上^{じやう}の^{しん}工^く風^{ふう}が欲^ほしい。茶^{ちや}道^{だう}具^ぐなど^{には}、頗^{すこ}る薄^{うす}手^で物^{もの}を嗜^{しかう}好^{かう}する傾^{けい}向^{かう}がある。

(六) 扇^{せん}子^す 四^じ時^{じゆ}需^{えう}要^を見^みる^が、「ク^リス^マス」前^{ぜん}後^ごに^は最^きも見^み込^こみがある。左^さに此^{この}商^{しょう}

品の輸入の統計を掲げる。但し日本品は、他國品中に含まれて居るから、正確なものとはいひ得ない。

國別

一九〇六年

一九〇七年

獨逸

二一、三九一ミルreis三五、一二七(ミルreis)

奧匈國

三一、〇七八

四六、九四二

佛蘭西

三七、八四二

四三、八七一

西班牙

七四、六五二

七〇、七二三

日本

二〇、一四六

二七、六九一

其他

四、二九二

七、一〇五

(七) 麥稈眞田むぎわらまなだ 年中需要がある。多くは日本品であるが、英、佛、獨、伊等を経

由して、此の國へ入る。

又此の國でも、「リオ・ブランデ・ド・スール」、「サンパウロ」、「リオ・デ・ジャネイロ」、

「バイア」等の諸州に製造所があつて、盛んに之が製造をやつて居る。

(八) 茶 此の國の習慣としては、朝は珈琲、夕は茶であるから、需要の増加する傾向は有らう。主なる輸入國は支那、英領地、英國等にして、日本品も多少顧られて居る。

(九) 漆器 重税を課されても、猶且相當の販路はある。針箱、手箱等は新工風があつたら、可なりの見込があらう。

(十) 團扇 日本物の絹製品は、巴里、倫敦を經由して來るものが多く、十月より翌年三月迄を商期とする。紙製品も望みがあるやうである。

(十一) 竹細工品 高い關稅ではあるが、賣行は良好である。竹製絹張屏風、額縁、傘立等は有望らしい。

(十二) 紙「ナプキン」 常に多額の賣行があるとはいへないらしく、佛國品で洗濯の利く安物が入り込むから、有力な競争品といふべきである。

(三) 鰯油漬 葡、佛、伊等の製品が、主として輸入されるから、此の仕事への割込は困難であらう。

(四) 紙製品 提灯は「クリスマスマス」、「シルナバル」の如き祭日等には、非常な需要を見る。日傘と共に、餘程以前から英、獨、佛を經由して、此の國に輸入されて居た。行燈も座敷用として需要があるであらう。

(五) 玩具 獨、佛の製品が主として輸入される。變化のある物を出したら、日本品も定めし向くことであらう。人形なども至極面白いやうである。

(六) 經木眞田 針箱、扇子入、手箱、菓子箱などは相當に需要される。此物にあつては、原料の豊富な我が國は、可なり將來がないでもあるまい。

(七) 妻楊枝 葡國品が普及され、一般に信用がある。然し我が製品も、改良して掛つたら、競争の餘地もあらう。

先づ斯ういつた所であるが、此の外、棉業は此の國で有望な工業で、一九〇五年

頃工場數は百個以上、織機二萬六千臺を有して居つた。そして其の棉花消費高は八百二十三十萬貫に達し、織物は七億七千四百萬尺を産して、工人の之に従事する者は三萬八千人に上つて居つた。又羊毛工場では毛織物、「フランネル」、絨氈等を織り、製粉業も活氣がある。釀造業に至つては、全然獨逸人の手中にありといふも差支ない。

關稅制度

政體の項に於て、記述して置いた如く、此の國にありては、國內が二十州に分たれ、各州が自治制度を採用して、輸出税は各州が之を其の所得として居るが、輸入税即ち關稅に至つては、中央政府が之を收入として居る。此の國の關稅は、高い重量税であつて、極めて高率なものである。一般に高率の關稅を課して居る南米諸國は、要するに、保護主義と收入主義との合併されたる主義からして然うした事に出で、居るので、而も諸國が競争的に見える程であるが、其の中に於ても、此の伯刺西爾は、最高率の關稅を課して居る。

斯かる高率の關稅を輸入品に課するのであるから、日本品の如きは此の國に輸入されると、着價が平均して原價の二十倍乃至三十倍に付くやうになる。而して之れは、査定價格なるものに對して五六割の稅率を課せられるが爲めである。而も此の國の關稅にありては、金貨納付の規定といふものがあつて、稅額の三割五分乃至五割を金貨にて納付させることになつて居る。

第八 貿易

最近の輸出入

一九一二年上半期に於ける伯刺西爾の輸出入貿易總額を見るに、前年度及前々年度の同期間に於ける夫れに比して、順潮に居り、

増額を示して居る（貨幣合算）。

今其の輸入貿易を各月別にして表解すれば、次の如くである。

月次

・一九一〇年

一九一一年

一九一二年

如きものである。

翻つて今度は、其の輸出貿易は如何かと見れば、即ち左記の表に就いて知れる

目次

一九一〇年

一九一二年

一九一二年

一月 三、七八四、三四一

四、六七八、一五〇

五、二〇三、五七〇

二月 三、〇三六、六六九

四、三三五、六一八

四、四〇三、七五一

三月 三、七八三、〇一三

四、六〇四、三三一

五、三二四、二二九

四月 三、三八二、五〇七

四、〇六六、六八〇

四、七〇〇、六〇二

五月 三、五六五、八七七

四、七一、〇二四

五、〇七二、五三九

六月 四、一五六、八八四

三、九六四、二八七

四、六七四、二六〇

合計 二一、七〇九、二九〇

二六、三六〇、〇九〇

二九、三七八、九五一

一月 四、三四七、六八〇

四、一四八、七五七

五、七九七、七一一

二月 四、八二一、一四二

四、一三四、一九四

五、五二〇、三四七

三月	五、四三一、二五二	四、四八〇、一六一	五、七〇四、七三七
四月	四、九七八、九二八	四、〇三八、七〇一	四、四〇五、一五九
五月	二、六四五、一八六	四、五一〇、五九八	四、一〇二、八八〇
六月	二、七八八、八三八	三、七三五、一五四	四、九一四、四七五
合計	二五、〇一三、〇三〇	二五、〇四七、五六五	三〇、四四五、三〇九

而して同期間に於ける三ヶ年間の貨幣の輸出入額は、次に示すが如くである。

一九一〇年

一九一一年

一九一二年

輸入

八、一四一、一七一

二、一五〇、八二〇

一、六〇五、三九二

輸出

二六六、六七五

二、四〇三、八七〇

一、四四一、二五七

重要輸出入品

伯刺西爾の重要輸入品に關しては、大體ではあるけれども、商工

業の部に於いて、既に一般に互つて之を述べた積りである。夫れ

ゆる茲には唯輸出品を指摘して、其の研究に踏み込んで見よう。

る。

先づ一九二一年の上半期に於ける輸出貿易を、品別、數量及價額の上から觀察す

品目

數量

價額

珈琲

三、四五八、一二八

一、一六九、〇八三

護謨

一七、三六八、〇〇〇

七、九〇五、六五六

砂糖

八、〇八七、〇三五

五六、七六七

コハア

一六、九八一、二五一

七六四、三七七

棉花

九、二〇七、九九〇

六五八、三二〇

獸皮

一、三一六、五六九

三〇七、八〇四

生皮

一七、九二二、〇四二

九七三、六七三

煙草

一四、三三八、九二三

七三二、八七四

マテ茶

二七、八八六、一七三

八八三、三二七

其他

合計

而して其の一九一二年の上半期の輸出を、同様の見解から觀察すれば、左の通り
のものとなる。

一、六九五、六八四
二五、一四七、五六五

品目

數量

價額

珈琲

四、一〇九、六五一

一五、七五二、八五〇

護謨

二二、三八四、五三四

八、七二九、八八六

砂糖

四、五九七、〇四五

五二、三六七

コ、ア

一四、三九〇、二九〇

六九〇、八九七

棉花

五、三六五、三〇一

三四〇、五五七

獸皮

一、八三一、〇九二

四四五、一四〇

生皮

二一、三六一、五三二

一、〇八〇、二五二

煙草

一四、三八七、一四五

八一六、八二四

マテ茶

二三、六二六、一二八

七九四、八八六

其他

一、八〇一、六五〇

合計

三〇、五〇五、三〇九

今此の國の重要輸出品の二三に就きて、少しく觀察を試みよう、

(一) 珈琲 此の國の總輸出額の過半を占める。而して詳しくは農業の部に於いて

述べた通りである。

一九〇三年より一九〇七年に至る五ヶ年間の産額に對する輸出額を觀察するの

面白からう。

年次

産額

輸出額

一九〇三年

一二、九九三、五五九

一二、九二七、二三九

一九〇四年

一一、一九三、五〇六

一〇、〇二四、五三六

一九〇五年

一〇、五九七、〇八〇

一〇、八二〇、六六一

一九〇六年

一一、〇五五、三七八

一三、九六五、八〇〇

一九〇七年

二〇、二三二、〇〇〇

一五、六八〇、一七二

(二) 護謨 珈琲に次ぐ物で、全世界需要額の五割を占むるから驚く。此の國の護

謨には四種類がある。而して其の商權は英、米、獨、佛の諸外國の掌握する所である。

(三) 砂糖 氣候上各地に產出されて、將來に對する希望も無限である。其の產額

の上に於いて、多少の増減があるにもせよ、常に重要輸出品たるべきものである。

我が國と伯刺西爾との貿易は、未だ斯うして一項目の下に研究するや

日伯貿易

うなものではない。極めて貧弱な數量に過ぎない我が輸出にありて

は、主として英、獨、佛の諸國を経由して居るやうな始末で、誠に慨歎に値ひする。

而して彼よりの輸入にありても、何等語るに足るべきものがない。事實に於いて、

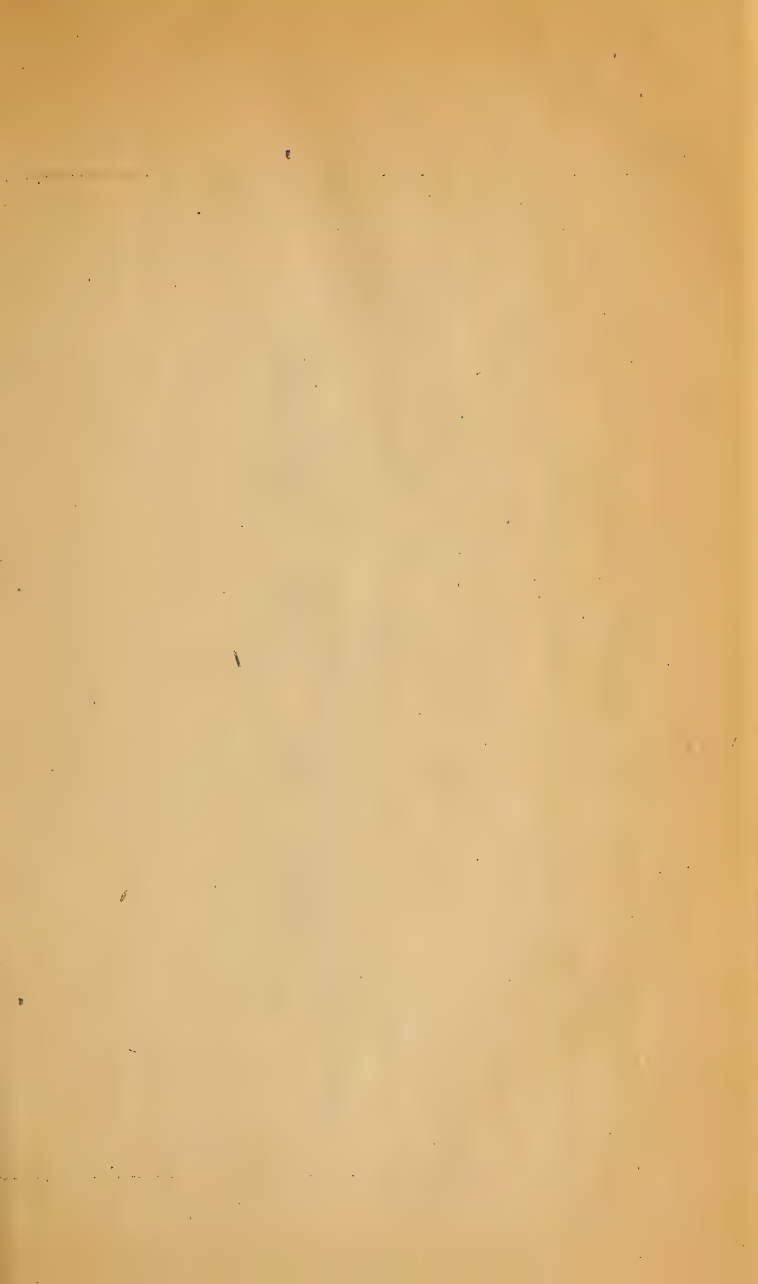
商工業の部に記した通り、此の國の主要產物なるものが、兎角我が國と交渉の淺いものばかりであるから、勢ひ然うした結果を生んで居るので、例へば珈琲に就いて見れば、我が國の需要年額は約五萬圓といふ所で、到底重きを爲すべくもなく、マテ茶の如きにありては、一部分の人士を除けば、全然其の名をさへ知られては居らぬし、護謨にしても、大した事は無論あるまいといふやうなものである。兎にも角にも、伯刺西爾なる國は、然ういふ始末で、我が國より輸入し得べき國柄であつて、先づ我に對して輸出國といふ性質の國ではあるまい。

第三編

結

論

渡航編



第一章 概論

孔子の語に、吾日三省吾身といふのがあるが、此の語句たる蓋し恆久性を帶びたる名言であらう。實際上、日々に能く三度吾が身を省る底の覺悟は、慎重なる生活を行つて行く上に於いて、極めて必要であることは、殆ど言及の要も無からう。而して、之れは個人の場合であるが、自分は、更に之を國民といふ見方よりすれば、必ずや我等日三省我等身と言ひ擴め得ると信ずるのである。即ち斯うした見地に立つたからして、自分に於いては、緒論に説いたやうな觀察を敢て試みたのであつて、自分の南米に對する號叫の聲が、思はず知らず大きくなつたのも、要するに、然うした結果なのである。

然しながら、自分に於いては、第一編緒論に於いて、三省の經路を経て逢着すべき點に逢着し、進んで第二編國別論に於いては、其の大陸に介在する秘露、智利、

亞爾然丁、伯刺西爾の四國並に墨西哥の五個國に關して、部分的の觀察を行つた積りであるが、未だに以て、然らば如何にして彼の地に行く可きかといふ問題には觸れなかつた。換言すれば、刻下の日本人は須らく海外を見よ、海外には斯ういふ所がある、と、兎にも角にも、述べ立てた次第であるが、如何したらは彼の地に行かれるかといふ事には何等も言ひ及ばさなかつた。夫れが爲め、今や是に關して、早判りのする、簡單な研究を試みようと思ふ。

然りながら、渡航といふ事も、一口に言つて仕舞へば、誠に造作も無いことである。即ち各府縣廳へ海外旅行券の下付を願ひ、夫れが許可になつて、愈々下付されたら、汽船會社で切符を買ひ込んで乗船する、唯夫れ丈けである。然し唯それ丈けでは、恐らくは、其の道以外の人には判り兼ねようといふものである。

而して、今渡航といふ事に就いて、六ヶ敷い事は抜にして、明白地に言つて退ければ、渡航者には、相當の資金を持つて出掛けようといふ人と、金も無いが出て行

ふ點に於いては、全然一致して居る。而して金が無いからと言つても、もとゞ八重の潮路を乗り切つて、遙々南米三界迄も押し出すからには、まさか自國內を旅行するのは大變に違ふから、最小限度に留めるとしても、是非共必要なもの丈けは用意して掛かなければならぬ。

渡航に關しては、右の種類しゅるゐの如きも、或る意味より出た種類であるが、自分の考へては、少くとも之を次の二種類に分けて、其の二方面より、觀察を進めて見度いと思ふ。

一 勞働を目的とする渡航

一 商工業を目的とする渡航

而して、斯うした二種の見地よりすれば、渡航の方法は、隨つて差別を生じなければならぬのは、寧ろ理の當然とする所であらう。

いでや、以下に於て、先づ渡航の心得から、進んで労働を目的とする渡航と、商業を目的とする渡航とに観察を及ぼして行かう。

第二章 渡航の心得

第一 渡航の種類

海外渡航者は、其の渡航を爲すが爲めには、先づ海外旅行券を手に入れることが必要である。

海外旅行券を得る手続きは、海外旅行券下付願に戸籍謄本を添へて、直接に各府縣廳に提出するのである。而して、其の願書の書式は、府縣に依つて一定して居らぬから、委細は各所屬の府縣廳に直接問ひ合はせるのを以て、最良の方法とする。而して、出願の際、手数料として金一圓を納付すべきものとする。

旅券が下付になつた場合には、其の下付の當日より六ヶ月以内と有故明記し、

から、渡航は即ち其の間に爲すべきで、若し此の期間を経過させると、全然無効になつて、再び出願しなければならぬのである。

南米渡航にあつては、北米への場合とは霄壤の差で、或は觀察、或は取調、或は研究、或は事業開始の目的を以て渡航するやうな場合には、旅券の下付は容易なものである。併し是れには、素より相當の基礎を有する事を以て必要條件とする。或は自分に相當な資産が有るとか、或は夫れ丈けの後援者を有するとか、無論いづれでも關はない。而して、斯うした渡航は、名實共に立派なもので、大に意義の有ることであらう。

然しながら、世の中には、さうした境遇の人ばかりでは無い。労働を主とした移民の場合もある。之れには移民會社が有るから、其の手に依つて渡航するのを最も便利とする。其の手續きに就いては直接移民會社に問ひ合はせるのが捷徑である。

民會社の主なるものは、次の如くである。

東京市京橋區新肴町十番地

東洋移民合資會社

同 京橋區山城町四番地

森岡移民合名會社

高知市菜園場町百九十八番地

竹村商會

第二 渡航の準備

旅券が愈々下付されたとなると、次には出發の準備に十分の注意を拂はなければならぬ。何にしても、東京と京都は扱て措き、東京と白河邊の往還にさへ水盃で別れた昔の事を思へば、全然夢のやうな感じがするが、南米渡航にありては、最も近い墨西哥へさへ猶且つ七千哩の道程が有るから、準備といふ點に就いては、萬遺漏無きを期せねばならぬ。

旅券が下付されると、本邦出發港に駐在する當該國領事館に出頭して、其の旅券に裏書證明を受けなければならぬ。此の證明には、料金として金二圓を納付する

ことになつて居る。同時に、當該國領事の指令した醫師の健康診断證にも、領事館の檢印を捺して貰ふのである。

渡航者が、出發港（横濱若しくは神戸）で乗船する數日前には、移民取締規則に據つて、健康診断を受けるものとなつて居る。主として癩病の有無を檢するが、別に虎ホムと十二指腸蟲病との檢査をも厲行して居る。然し元より、北米合衆國行きの夫れに比すれば、非常に寛大である。

渡航者は、一通りの必要品を準備しなければならぬが、又餘り多きに失する時は、容赦無く上陸の際高い關稅を徴收されて、痛い目に遇ふことが往々有る。

然し、三等船客にありては、寢具用毛布二三枚の外、洗面用金盥、手拭、楊枝、上草履等を携帶することが、船中に於いて是非共必要であるから、忘れてはならないことである。

然りながら、斯うした事に就いては、乗船地の旅客取扱を専門として居る旅館

が、萬事を心得て居て、手落無く世話して呉れるから、身體検査や、切符購入や、乗船順序など一切不案内の廉を依頼して仕舞ふのが、一番便利で、且つ都合が好いのである。

今乗船地たる横濱及神戸に於ける旅客取扱の主なる旅館を左に列挙して、渡航者の參考とする。

横濱 福井屋、松坂屋、蓬萊屋、大勢屋、高野屋、津久井屋、長野屋、

萬治、上州屋、讃岐屋、福岡屋、廣島屋等

神戸 今泉、岩國屋、畠中、橋本、中央館、沖繩屋、大島屋、川上、高

橋、高谷、山崎屋、三光舎、自由館等

南米渡航者に取つて、缺く可からざる準備の一たるべきは、西班牙語の習得である。

言語

何にしても、墨西哥以南、中央亞米利加から南亞米利加一帯に使用されて居る言

語は、西班牙語なのであるがら、西班牙語に關する知識が如何に必要であるかは、蓋し察するに難くはあるまい。

衣類

第二編國別論中に於て各國の氣候に就いては既に述べた通りであるから、夫れに依つて衣類の準備も出來ようといふものである。

何人も知る如く、南米は南半球に在る大陸であるから、季節の到來は、全く我が國の夫れと顛倒して居る。即ち彼の春は我が秋で、彼の夏は我が冬である。而して廣袤實に我が五十倍もあるから、位置や地勢に依つて、或は熱帶であり、或は溫帶であり、或は寒帶である。

渡航者は、須らく行く先の氣候の研究を行つて、夫れに適應した衣類の調達を行ななければならぬ。

貨幣

渡航の目的が、經濟上の意味と一步も離れられない以上、貨幣の問題は、一刻も忽がせに出來ないのである。而して、此の必要至極な貨幣に關して

は、特別の必要を認めると考へたから、卷尾に附録として添付してある。夫れ故委しくは夫れに就いて研究して貰ひ度い。

然しながら、實際上夫れは彼の地へ行つてからの話で、我が國から始めて南米に行くには、先づ貨幣を英貨に兩換して行くのが一番便利である。夫れは、英貨が南米諸國に於ては兎に角通用されて居るが爲めで、尙又英蘭銀行の兌換券は、至つて便利にして、且つ安全なものである。

第三 乗 船

讀者諸子も知らるゝ如く、我が國が南米に對して有する唯一の航路は、即ち東洋汽船株式會社の南米航路である。之れあるが爲め、我が南米渡航者は、直接日本より南米諸國に渡航することが出來、加之、船中では何かと便宜があつて、第一氣安く、實際何の位心地が好いか推し測られない。

航路

東洋汽船株式會社の南米航路は、單り南米を我が國と連ぬるのみならず、支那とも連絡する目的よりして、航路の起點を香港に置いて、隔月一回の出帆となつて居る。夫れより門司、神戸、横濱といふ順路を取つて、布哇の「ホノル」、「墨西哥の「マンサニーヨ」、「サリナクルス」、秘露の「カリヤオ」、「ピスコ」、「モリエンド」、智利の「アリカ」、「イキケ」、「ヴァルパライソ」を経由して、「コロネル」を終點とする。而して最近に於いて、右の外、布哇の「ホノル」、より墨西哥の「マンサニーヨ」の間に於いて、北米の「ロスアンジェルズ」に、又墨西哥の「サリナクルス」より秘露の「カリヤオ」迄の間に巴奈馬を経由するやうになつたのは、何にしても一層嬉しい事と云はねばならない。然し夫れと同時に、益々其の實を擧げるやうに力めることが、何よりも必要で有らう。

航路船

東洋汽船株式會社が南米航路に使用して居る汽船を列擧すれば、次に記す三隻である。

名稱

排水量

安洋丸

一八、五〇〇

紀洋丸

一七、二〇〇

靜洋丸

一三、八〇〇

而して、此等三隻の汽船は、孰れも新造船で、安洋丸は大正二年一月、紀洋丸は明治四十二年十月、又靜洋丸は大正二年六月、各進水式を挙げたものである。此等三隻は又、其の構造や、設備の點に掛けて、十分航海の安全と旅客の慰安を確保し得るのである。

今試みに、安洋丸の構造に就いて概要を記せば、左の如くである。

全長

四百六十呎

幅

六十呎

深さ

四十呎六吋

總噸數

九千四百噸

排水噸數

一萬八千五百噸

速力

十五哩

救命短艇

十八隻(各六十一人乗)

一等客定員

三十人

二等客定員

五十人

三等客定員

六百三十八人

汽罐

「バーソンス・ギヤード・タービン」式

賃金

左に、日本諸港から南米諸港迄の賃金表を、参考の爲め掲載しよう。

(一)

日本諸港より「マンサニーヨ」或「サリナクルス」(墨西哥)迄

一等

二等

三等

片道

三五〇、〇〇円

片道

二〇〇、〇〇円

自横濱 一一〇、〇〇円

往復

六ヶ月以内 五二五、〇〇
一ヶ年以内 六一二、〇〇

往復

六ヶ月以内 三〇〇、〇〇
一ヶ年以内 三五〇、〇〇

自神戸 一一五、〇〇

(二)

同 「カリヤオ」(秘露)迄

一等

二等

三等

片道

四〇〇、〇〇円

片道

二四〇、〇〇円

自横濱 一三〇、〇〇円

往復

六ヶ月以内 六〇〇、〇〇
一ヶ年以内 七〇〇、〇〇

往復

六ヶ月以内 三六〇、〇〇
一ヶ年以内 四二〇、〇〇

自神戸 一三五、〇〇

(三)

同

「イキケ」或「アリカ」(智利)迄

一等

二等

三等

片道

四五〇、〇〇_円

片道

二七〇、〇〇_円自横濱 一五〇、〇〇_円

往復

六ヶ月以内 六七五、〇〇
一ヶ年以内 七八七、五〇

往復

六ヶ月以内 四〇五、〇〇
一ヶ年以内 四七二、五〇

自神戸 一五五、〇〇

(四)

同

「ヴァルパライソ」(智利)迄

一等

二等

三等

片道

五〇〇、〇〇_円

片道

三〇〇、〇〇_円自横濱 一六〇、〇〇_円

往復

六ヶ月以内 七五〇、〇〇
一ヶ年以内 八七五、〇〇

往復

六ヶ月以内 四五〇、〇〇
一ヶ年以内 五二五、〇〇

自神戸 一六五、〇〇

而して又、子供の賃金は、左の規定になつて居る。

五歳以上十二歳未満

半額

二歳以上五歳未満

四分の一

二歳未満

一家族につき一名限り無賃、夫れ以上は四分の一

の割合

尙手荷物に就いては、衣類其の他旅行上必要なる用具に限り、船客一名につき左記の制限内に於いて、無賃運送を爲して居る。但し規定斤量を超過する場合は、一英斤に付き邦貨金五錢の支拂を要するのである。

一 等

三百五十英斤（四十二貫）

二 等

百七十五英斤（二十一貫）

三 等

百英斤（十二貫）

第二章 勞働を目的とする渡航

第一 自由移民と契約移民

勞働らうどうといふ字義じぎに就ついては、兎角とかくの評ひやうも起おこらうから、自分じぶんは、茲こゝに先まづ、夫れを明あきかにしようと思おもふ。といふと、甚はなはだ可愛氣かあいげの無い申まをし分ぶんになるが、要えうするに、自分ぶんのは、茲こゝで此この勞働らうどうといふ字義じぎを、通常つうじやうの平ひらたい意味いみに用もちゐるさせて貰もらへば、夫れで結構けつこうなのである。即すなはち言いひ換かふれば、身體しんたいを働はたらきの主要手段しゆえうしゆだんに用もちゐる身的勞働しんてきらうどうを意味いみするものに外ほかならないのである。

ところで、南米なんべいの天地てんちに於おいて、勞働らうどうを以もつて運命うんめいを試金石しきんせきに掛かけようてふ者ものには、結局けつぎ、狹義きやくぎの自由移民じゆういみんと、移民會社いみんくわいしゃの手てを経へる契約移民けいやくいみんとの二途ふたとが有あるから、渡航とかう者しゃは其その孰いづれかを選えらばなければならない。而しかして、前者ぜんしやの場合ばあひに於おいては、兎角とかく多少たせうの餘裕よゆうが有あれば、或あるひは彼かの地ちへ渡航とかう後ご、獨力どくりきよくで土地とちを買かひ占しめ、自己經營じこけいえいで農業のう業げふなり、鑛業くわんげふなりを行やるか、若わしくは何處どこか知人ちじんの紹介せうかいに依よつて職しやくを求もとむるかに在あるから、其その名なの示しめす如ごとく自由じゆうな移民いみんである。又後者またこうしやは、移民會社いみんくわいしゃが之これを取扱とりあつかつて居ゐて、渡航費とかうひ及手數料てすうれうを徴ちやうし、會社くわいしゃが契約けいやくを結むすんだ耕地かうちに送おくつて呉くれる。故ゆゑに斯かく

して出掛けた移民は、即ち契約移民であるから、彼の地へ到着と同時に、一定の契約期限内、契約耕地に於ける勞役に就くのである。素より契約期限が切れ、今度は自由な身體となつて、何にでも思ふ存分活躍することが出来る。

然し自由移民にあつては、其處に差が存するのである。即ち其の標榜する如く、渡航其のもの、性質が、最初から自由なのであるから、渡航後と雖も、素より何等の制限も、束縛も受けるやうな事は無く、仕事の有り次第、何事にもあれ、其の事に従事し得るの特權がある。若し夫れ相當な紹介とか、約束とかい有つて出掛ける場合などは、大に適當で、且つは愉快であらう。

とはいふものゝ、要するに將來の發展如何は、人其のものに在るを以て、渡航當時の事などは、結局孰れをいづれとしても、大した問題だとは思はれない。果實が常に樹質に依ると共に、肥料や、手當に依る所も頗る大なることを思へば、此の場合の樹質たる人は勿論の事として、其の人が彼の地へ出てからの働き方や、分けて

も心身の持ち方次第で、將來は何のやうにでも展ひげようといふものである。畢竟ひつじやう航かうの際さいに於おける自由移民じゆういみんたると、契約移民けいやくいみんたるとの別の如ごときは、人々の境遇如何じんごのきやういかんの問題もんだいに在あつて、斯かういふやうな事が最初さいしよから馬鹿ばかに氣きになるやうでは、労働ろうどうを渡航とかうの目的もくてきとする限り、破天荒はてんくわうの快舉くわいきよを取あて企圖きとするなどいふ事は、到底覺束たうていおぼつかなからうと思おもふ。

而しかして、我が契約移民けいやくいみんの事に關かんしては、少しばかりではあるが、第二編國別論中だいにくべつろんちゆうの秘露及伯刺西爾ベルーおよびアラツルの第一節中だいいちせつちゆうにも説といて置おいた。されば今や労働ろうどうを目的もくてきとして渡航とかうした我が移民いみんが、目下如何もくかいなる状態じやんたいに在あるか、次に研究けんきゆうする。

第二 移民の狀態

南米なんまいに移民いみんたらむとする人ひとが、茲迄觀察こゝまでくわんさつを進すすめた時に、勢いきほひ知り度たいと願ねがふことは、即すなはち既に移民いみんとして彼かの地ちに行いつて居ゐる人達ひとたちが、如何どういふ現情げんじやうに在あるかといふ

一事であらう。考へる迄も無く、此の一事は、これから出て行かうといふ人に取つては、随分と必要な事であつて、何うあつても一と通り觀察丈けはして置かなければならない。而して、實際上如何ばかりか參考材料を得られることであらう。さらば此の必要なる移民の狀態に就いて、更に之を耕地に於ける者と、都會に於ける者との二方面より、研究の歩を進めて見よう。

一 耕地に於ける移民の狀態

移民として南米に渡航した我が同胞は、主として耕地に集合し、其處に集團を形成つて、日夜孜孜として勞役に身を獻げて居る。是れは誠に凡らゆる點より觀て慶賀すべきことで、是ある所實に大和撫子は、限り無き光榮てふ露の均霑を受けるであらう。

一例を先づ伯刺西爾は「サンパウロ」州に取つて、それに關する研究を述べれば下

の如くなる。

耕地

ところで「サンパウロ」と一口にいつて仕舞ふが、實は一州とはいひながら、南緯二十度から二十五度に亘つて、面積は十一萬二千三百方哩も有るとゆる、丁度我が本土、九州及び四國を合せた地積に當つて居る、兎に角これが一州なのであるから、些か恐縮する次第ではあるまいか。

「サンパウロ」州に在る耕地は、其の數二十有餘箇所及び、一通りの精密な研究を爲るのは容易ではない。其處で、便宜の爲め、「サンパウロ」州に在る「グアタバラ」耕地を擧げて、同耕地に於ける本邦移民の情況を左に記載する。

「グアタバラ」耕地は、明治四十四年の精密な調査に據れば、面積が六千七百「アルケーレス」(一萬六千七百五十町步)で、珈琲園は凡そ千「アルケーレス」有る。其處に植ゑ込まれて居る珈琲樹數は百八十二萬九千本有つて、一年の收穫高は十五萬乃至二十五萬「アローバ」(一「アローバ」は十五「キログラム」)に上るから、六十「キロ」

入三萬七千五百俵乃至六萬二千五百俵を出すのである。而して、本耕地に常住する小作移民は二百五十家族の千二百人、日雇移民は百家家族の五百人弱有る中で、本邦移民は五十七家族の二百八人居るのである。

因に、本耕地には東京外國語學校出身の平野運平氏が居つて、副支配人となつて居る。

耕作

本邦移民の受持珈琲は、三人家族で五千本即ち珈琲園一枚である。一園といふのは二「アルケール」半の地積を有し、一方に五十本、他方に百一本の珈琲を植込んで、各樹の間を約一間半とする。夫れ故一枚の畑に五千五十本の珈琲を植込むことになつて、之を三人家族で請負ふのである。而して畑一枚の樹數は、「サンパウロ」州を通じて同様だといふことである。吾人が今研究しつゝある「グアタバラ」耕地にありては、受持の賃銀は一ケ年千本に付き百「ミル」である。又三人家族に貸與する畑の面積は三反であつて、我が移民諸子は、主に玉蜀黍、豆類を作

り、一部に菜園を設けて大根、瓜類、玉菜、葱等を作つて居る。又住居の近傍には、小屋を造つて、豚と鶏とを飼養して居る。

收支

日本移民三人家族の一ケ年の収入支出を観るのに、珈琲受持で五百「ミルレイス」半の合計千三百「ミルレイス」の中、三人の生活費が一ケ月四十乃至四十五「ミルレイス」の割で五百四十「ミルレイス」、醫師診察料が十八「ミルレイス」の合計五百五十八「ミルレイス」を減却すれば、殘餘は丁度七百四十二「ミルレイス」となる。之れに耕作物や、家畜等の賣却より生ずる利潤を加ふれば、優に一ケ年千「ミルレイス」の剩餘金を見ることが出来る。而も、此の計算の最小限度のものたることは勿論である。

物價

「グアタバラ」耕地附近の物價は、略左に掲ぐる如きものである。而して、これは明治四十四年三月上旬の相場であつたが、以て參考に資すべきものが

あらう。

白 米

一俵六十「キロ」入

二十「ミルレイス」

米國麥粉

一俵四十五「キロ」入

十三「ミルレイス」

隱元豆

一俵六十「キロ」入

二十「ミルレイス」

牛 肉

一「キロ」

三百五十「レイス」

(二十二錢即
二英斤十一錢)

牛 乳

一瓶四合入

百五十「レイス」

(九錢餘)

石 油

一箱二罐「デボース」

十五「ミルレイス」

砂 糖

普通六十「キロ」入一袋

十八「ミルレイス」

純白砂糖

同

二十六「ミルレイス」

干 鱈

一「キロ」

一「ミルレイス」

「マンデオカ」

五十「キロ」

八「ミルレイス」六百「レイス」

鹽

一俵六十「キロ」入

八「ミルレイス」五百「レイス」

爪哇芋

一「キロ」

五百「レイス」

而して、通常本邦人一人が一月に要する生活費は、先づ十四五「ミルレイス」乃至十七八「ミルレイス」といふ所である。

二 都會に於ける移民の情態

同じく伯刺西爾「サンパウロ」州の觀察として、同州の首都たる「サンパウロ」市に就いて研究しよう。

明治四十五年の調査に依れば、我が移民の同市に於ける在住數は、小兒を除いて二百十六人を算した。其の中大工、「ペシキ」職、「ブリキ」職、鍛冶工、その他職工男女八十人、家庭勞働者九十六人（男六十六人、女三十人）日本人合宿所に止まつて居り、尙一家を持ち、子供の世話を見ながら、裁縫其の他の内職を事として居る女が四十人ある。

「サンパウロ」市は、伯刺西爾第二の都會で、近時益々發展して來た。我が同胞の耕地に任期を了へた者や、或は耕地の逃亡者等が多く在住して居る。概して本邦人は、手先きの器用な所から、僅かばかりの練習を爲して、或は大工、或は「ブリキ職」、或は「ペンキ」職、或は植木職等になつて居る者が多數にある。

市内には日本人合宿所が三軒あつて、各百乃至百五十「ミルレイス」の家賃を支拂ひ、二三十人が合宿して居る。食事は或は共同なものもあり、或は一家族毎に自炊して居るものもあつて、一樣ではない。

而して、生活費に至つては、耕地よりは高價だけれども、「リオ・デ・ジャネイロ」や、「ペトロポリス」等に比すれば、遙かに低廉なものである。普通一人一ヶ月、凡そ十七八「ミルレイス」と家賃の六「ミルレイス」とを合せた二十三「ミルレイス」を生活費とする。

給料

左に「サンパウロ」市に於いて、本邦人の支給されて居る給料を示さう（四十五年調査）

職業

人員

給料

食事及室

大工

四十二人

日給三「ミル」半乃至六「ミル」

自辨

「ペンキ」職

五人

同 三「ミル」乃至五「ミル」八百

同

「ブリキ」職

十一人

同 二「ミル」半乃至三「ミル」半

同

「ビスケツト」工場職工

十三人

同 上

同

果物罐詰工場職工

九人

同 二「ミル」半乃至三「ミル」

同

紡績工場職工

女 八人

同 一「ミル」半乃至二「ミル」半

同

鐵工場職工

四人

同 四「ミル」半乃至六「ミル」

同

硝子工場職工

二人

同 三「ミル」半

同

自動車扱夫

二人

月給百「ミル」乃至百五十「ミル」

雇主持

傭 僕

二十四人

同

四十「ミル」乃至八十「ミル」

同

下 女

十九人

同

二十五「ミル」乃至六七十「ミル」同

料理人

一人

同

百「ミル」

同

園 丁

一人

同

五十「ミル」

同

而して、明治四十四年中大工、鍛冶工、「ペンキ」職等の家族にして、千「ミル」レイス乃至千五百「ミル」レイスを本邦に送金した者は尠くはない。然しながら、家庭労働者にありては、職工よりも高給を受けては居ても、衣類其の他に相當の費用を要するが爲め、却つて少額の貯金をして居る者が多い。又下女は、職人等の妻で、子供のない者がやつて居る。而して、本市に於いては、下女の需要が極めて多く、被服等も雇主の負擔である。

第三 労働移民終局の目的

例を伯刺西爾に取つて來た序だから、茲でも伯刺西爾に就いていふのであるが、總じて土地に關する勞働であるならば、良耕地に入つて、進んでは是を買ひ受け、以て其處に定住する覺悟が欲しい。即ち移民（英語のエミグラント）といふ事を爲さずに、植民（英語のコロニー）といふ事に行つて貰ひ度いのである。斯うしてこそ始めて、我が大日本の一部が彼の地にも形成されるのではあるまいか。徒に三四年の勞働を経て多少の貯蓄を携へ、以て得々歸國しようなどといふのは、決して策を得た事では無い。

今試みに、例へば伯刺西爾に就いて言へば、移民が良耕地に入つて二三年も辛棒すれば、一家族で二三千「ミルレイス」の貯蓄を作することは少しも難事ではない。然らば即ち、其の貯金を資本として、「サンパウロ」州政府に出席し、十「アルケール」即ち二十五「エクタレア」の土地を申し受くる事が出来る。而して、其の地價は地味に依つて相違は有るが、先づ千「ミルレイス」千五百「ミルレイス」で、五ヶ年或は十

ケ年賦を以て納付し得る。先づ最初の年には百乃至三百「ミルレイス」の拂込を要し、
 假家屋の建築に百乃至三百「ミルレイス」(是亦出願して五ケ年賦に爲し得る)、土地
 三四「アルケール」開拓の爲めに補助として雇ひ入れる黒人の給料凡そ二百「ミル
 イス」(若し自ら伐木等をして雇人を使はなければ、此の費用は省ける)、第一年の生
 活費に六百「ミルレイス」(一家族三人として即ち一ケ月五十「ミルレイス」の割)を要
 する。

而して、此の生活費は、三人家族の中一人若くは二人が、一週二三日宛政府の土
 木工事又は近傍の珈琲園に労働をすれば、其の大部分が出て仕舞ふ。尙右の外に鋤、
 鍬、其の他の農具を購置するのに百「ミルレイス」と豫算したならば、最初の年の最
 大限度の諸費用が千八百「ミルレイス」で、最小限度の夫れは七八百「ミルレイス」
 (馬を購入せざるものとして)となる。即ち移民が二三千「ミルレイス」を所有するな
 らば、決して不足を感じずるやうな事は無い。而して、二年目よりは收穫物や、豚や、

鶏にほとりから生しやうずるもので、生活費せいくわつひと土地とちの年賦金等ねんぶきんとうを支辨しべんし、其その餘裕よゆうを以もつては、殘餘ざんよの土地とち六七「アルケール」の一部分おぶんを開拓かいたくし、且かつつ乳牛牝牡數頭にうぎうひんばすうとう（一頭凡とうおよそ八百「ミルレイス」）を購入こうにふすることが出來できるのである。

近時きんじなんべい南米なんまいに資金しきんを携たづへて行いつて廣ひろい土地とちを購おなひ、以もつて本邦人ほんぱうじんの移植いしやくに資しさうとする企くはだてが漸やがく起おこつて來きたやうであるが、實じつに斯かうした計畫けいかくこそ、我等わがらは希望きぼうして止やまないのである。

第四章 商工業を目的とする渡航

南米なんまいの新天地しんてんちに商工業しやうこうげふを目的もくてきとして鵬翼圖南ほうよくとなんの計けいを樹たてるのは、前章ぜんしやうの勞働らうどうを目的もくてきとする渡航とかうの場合はあひとは、又全然性質またぜんぜんせいしつを異ことにし、行ゆき方かたが違ちがつて居ゐる、而しかして、兎とにも角かくにも、其その畫策くわさくした規模きぼの大小廣狹だいせうくわうけふなどは問題外もんだいぐわいとしても、其その事既ことすでに、殆ほとんど意味いみもない事ことに蠢動しゆんどうして居ゐる手合てあひや、氣力きりよくといふものに緣離えんはなれの生活せいくわつをして居ゐ

る連中になどは、斯うした聲の瀾漫した、而して活き／＼とした氣魄を飽和した空氣丈けでも、心適く迄吸はして遣り度い程の事である。而して、此の事に就いては、徒に聲を嘔し、調を上げて、快とするものども、自らも一緒になつて、何かしらに身を獻げ、其處に凡らゆる意味を見出して、身自らが其の中の人間となり、進んでは其の事即ち自分となり度いと心に念じて止まないものである。元より心の誓であるから、夫れを公然の秘密だとしても、之れを打ち明かすことに就いて、敢て聲の大小など、いふ事は、自分に於いては殆ど頓着して居らぬ次第である。

扱て、南米の商工業は、既に第二編國別論中各國の其の部に於いて觀察した如く、其の國情よりして、一般に幼稚極まる情態に在るが故に、裝飾品の如きは勿論、通常の日用品や食料品の如き生活上必須の物と雖も、大抵は之れを英、米、獨、佛等の諸國からの輸入供給に俟つて居る。而して、之に就いて、我が商品中には、價格

の點よりして、此等歐洲諸國よりの輸入品に代用すべく、且つ又將來に互つて市場に聲價を占め得べき物が可なり有る。即ち一般にいふ日本雜貨類即ち綿製品、絹織物、絹「ハンケチ」、陶磁器、漆器、竹細工品、紙製品、花筵、玩具等は相應な需要を彼の地に於いて見て居るのである。

然しながら、我が商品に對する南米諸國の鑑賞眼は、未だに今日の所では、到底低級のものに過ぎないから、其の點は宜しく覺悟をして欲しい。美術品の如きものに至つては、特に然るもの有ることは、十分に承知して置かねばならない。

而して、茲に又注意を要する事は、是亦略既記の事ではあるが、南米諸國の輸入税即ち關稅は、一般に收入主義と保護主義との結晶體より成つて、頗る附きの高率であることである。即ち各國は孰れも輸入商品に對する差違を以て、其の査定價格に對する何割といふ關稅を輸入商品の上に課し、其のれゆる、送狀面に商品價格何程と記入して置いて、殆んど無意味といつても善いのである（尤

も申告價格に依るものもあるから、價格の記入は無論必要である。殊に商品は、風袋込で其の重量を計上される場合が尠くないから、商品積出しの際には、此等の點にも應分の注意を必要とする。而して、西班牙語にて送狀には勿論、荷箱にも商品の純量と風袋込重量とを、何れも「キログラム」(我が二百六十六匁強)にて記入し置くべしである。尙商品の種類に依つては、「センチメートル」(我が三分三厘弱)の寸法に依つて課税されることもあるから、夫れも記入の要が有らう。而して、査定價格と夫れに對する税率とは、大抵は各國の商工業の部に記載して置いたから、參照して戴き度いと思ふのである。

而して、自分に於いては、廣く我が商工業者の眼界が、龐大な南米の天地に迄も展けた時、其處に是非共進むべき大きな道が見出さるゝから、即ち其處を歩武堂々と驀進して貰ひ度いのである。本書の目的も、即ち斯ういふ所に在る。

次に、南米諸國に於ける我が同胞の此の方面に對する發展であるが、是は既に國

鶏にほとりから生しやうずるもので、生活費せいかうひと土地とちの年賦金等ねんぶきんとうを支辨しべんし、其その餘裕よゆうを以もつては、殘ざん餘よの土地とち六七「アルケール」の一部分ぶぶんを開拓かいたくし、且かつ乳牛牝牡數頭にうぎうひんばすうとう（一頭凡とうおほそ八百「ミルレイヌ」）を購入こうにふすることが出來できるのである。

近時きんじなんべい南米なんまいに資金しきんを携たづへて行いつて廣ひろい土地とちを購あがひ、以もつて本邦人ほんぱうじんの移植いしやくに資しさうとする企くはだてが漸やうく起おこつて來きたやうであるが、實じつに斯かうした計畫けいかくこそ、我等わがらは希望きぼうして止やまないのである。

第四章 商工業を目的とする渡航

南米なんまいの新天地しんてんちに商工業しやうこうぎふを目的もくてきとして鵬翼ほうよく圖南となんの計けいを樹たてるのは、前章ぜんしやうの勞働らうどうを目め的てきとする渡航とかうの場合はあひとは、又全然性質またぜんぜんせいしつを異ことにし、行き方ゆかたが違ちがつて居ゐる、而しかして、兎とにも角かくにも、其その畫策くわくさくした規模きぼの大小廣狹だいせうくわくけふなどは問題外もんだいがいとしても、其その事既ことすでに、殆ほとんど意味いみもない事ことに蠢動しゆんどうして居ゐる手合てあひや、氣力きりよくといふものに緣離えんはなれの生活せいかうをして居ゐ

る連中になどは、斯うした聲の瀾漫した、而して活きくとした氣魄を飽和した空氣丈けでも、心適く迄吸はして遣り度い程の事である。而して、此の事に就いては、徒に聲を嘔し、調を上げて、快とするものでもない。とも、自分も一緒になつて、何かしらに身を獻げ、其處に凡らゆる意味を見出して、身自らが其の中の人間となり、進んでは其の事即ち自分となり度いと心に念じて止まないものである。元より心の誓であるから、夫れを公然の秘密だとしても、之れを打ち明かすことに就いて、敢て聲の大小など、いふ事は、自分に於いては殆ど頓着して居らぬ次第である。

扱て、南米の商工業は、既に第二編國別論中各國の其の部に於いて觀察した如く、其の國情よりして、一般に幼稚極まる情態に在るが故に、裝飾品の如きは勿論、通常の日用品や食料品の如き生活上必須の物と雖も、大抵は之れを英、米、獨、佛等の諸國からの輸入供給に俟つて居る。而して、之に就いて、我が商品中には、價格

の點よりして、此等歐洲諸國よりの輸入品に代用すべく、且つ又將來に互つて市場に聲價を占め得べき物が可なりになる。即ち一般にいふ日本雜貨類即ち綿製品、絹織物、絹「ハンケチ」、陶磁器、漆器、竹細工品、紙製品、花筵、玩具等は相應な需要を彼の地に於いて見て居るのである。

然しながら、我が商品に對する南米諸國の鑑賞眼は、未だに今日の所では、到底低級のものに過ぎないから、其の點は宜しく覺悟をして欲しい。美術品の如きものに至つては、特に然るもの有ることは、十分に承知して置かねばならない。

而して、茲に又注意を要する事は、是亦略既記の事ではあるが、南米諸國の輸入税即ち關稅は、一般に收入主義と保護主義との結晶體より成つて、頗る附きの高率であることである。即ち各國は孰れも輸入商品に對する税率の制定し、

其の査定價格に對する何割といふ關稅を輸入商品の上に課し、
 狀態に商品價格何程と記入して置いてても、殆んど無意味といつても善いのである(尤

も申告價格に依るものもあるから、價格の記入は無論必要である。殊に商品は、風袋込で其の重量を計上される場合が尠くないから、商品積出しの際には、此等の點にも應分の注意を必要とする。而して、西班牙語にて送狀には勿論、荷箱にも商品の純量と風袋込重量とを、何れも「キログラム」(我が二百六十六匁強)にて記入し置くべしである。尙商品の種類に依つては、「センチメートル」(我が三分三厘弱)の寸法に依つて課税されることもあるから、夫れも記入の要が有らう。而して、査定價格と夫れに對する税率とは、大抵は各國の商工業の部に記載して置いたから、參照して戴き度いと思ふのである。

而して、自分に於いては、廣く我が商工業者の眼界が、龐大な南米の天地に迄も展けた時、其處に是非共進むべき大きな道が見出さるゝから、即ち其處を歩武堂々と驀進して貰ひ度いのである。本書の目的も、即ち斯ういふ所に在る。

次に、南米諸國に於ける我が同胞の此の方面に對する發展であるが、是は既に國

別論中各國の商工業の項に於いて研究した通り、先づ墨西哥に四五軒、秘露に三四軒、亞爾然丁に四五軒、伯刺西爾に數軒の日本商店を見る次第で、茲に繰り返す必要は無からうと思ふ。而して、事實に於いて、支那人、西洋人が其の店舗で日本品の販賣を行つて居る現情は、我が商品に可なりの前途有ることを語るものではあるまいか。

要するに、南米諸國と商取引を爲すには、第一に南米を研究して掛からなければならぬ。次に西班牙語といふ唯一の武器たり、鍵たるべきものを握らなければいけない。南米諸市場に於ける特殊の需要に應ずる工夫が無くてはならない。送狀や、目錄書や、引札や、書狀などを一切西班牙語で記載するを要する。且つ商品の發送に就いては、遠路に耐え得るやうに、周到な注意を荷造法の上に拂はなければならぬ。尙更に進んでは、英、獨、佛等の諸國が爲して居るやうに、期限支拂を許諾する段取に迄出づることが必要なのである。

南米事情終

右の如くにして、即ち我が對南米貿易は、茲に始めて有意義のものたる可く、
 後の進展は、年を追ひ月に伴れて、必ずや大いに期して待つ可きものが有るで
 あらう。

附南米諸國の貨幣錄

一 墨西哥(Mexico.)

墨西哥は金爲替本位制の國にして、銀を以て通貨とする。其の單位は弗(Dollar)或は「ペン」(Peso)で、百仙或は「セクターヴオス」(100 Cents) 或は「セントアボス」(Centavos)より成つて居る。

今其の種類を挙げれば次の如くである。

金貨 { 一〇弗
五弗

銀貨 一弗

補助 { 五〇仙
二〇仙

一〇仙

白銅貨 五仙

青銅貨 二仙
一仙

此の國に於ては、一九〇五年以來金貨本位制が實施された。而して其の金貨十弗は我が國の金貨十圓の純量目に等しきを以て、其の金貨一弗は我が一圓に相當する。法貨としては、金貨及一弗銀貨は無制限であるが、補助銀貨は二十弗迄、白銅貨及青銅貨は一弗迄を限度とする。

紙幣は國立銀行、倫敦墨西哥銀行及州立の諸銀行にて發行するのである。一九〇七年には一億一千三百萬弗の紙幣流通高があつた。

二 秘 露 (Perú.)

金本位制の國にして、單位を「リブラ」(Libra) 或は磅 (Pound) とし、十「ソールス」(10 Soles) より成る。而して「ソール」(1 Sol) は十「ディネーロス」(10 Dineros) より成り、一「ディネーロ」(1 Dinero) は十「センチターヴオス」(10 Centavos) より成つて居る。

其の種類は左の如くである。

金貨

一「リブラ」(一〇「ソールス」)
半「リブラ」(五「ソールス」)
五分の一「リブラ」(二「ソールス」)

補助銀貨

一「ソール」
五〇「センチターヴオス」(半「ソール」)
二〇「センチターヴオス」(一「ペセータ」)
一〇「センチターヴオス」(一「ディネーロ」)
五「センチターヴオス」(半「ディネーロ」)

青銅貨

一「セクターヴァオス」
一「セクターヴァネ」

此の國の金貨「リブラ」英貨一磅、北米合衆國貨四弗八十仙餘、我が國の九圓七十六錢餘に當るから、「ソール」は英貨二志米貨四十八仙餘、我が九十七錢餘に當るのである。

法貨としては、金貨は無制限、補助銀貨は百「ソール」迄、青銅貨は五〇センチヴァオス迄とする。

秘露の金本位制を採用したのは一九〇一年以來で、此の國には紙幣の片影をも見られない。

三 智利 (Chile.)

制度は金本位制である。其の單位は、ペソ (Peso) と呼ばれ、百「セクターヴァオス」

(100 Centavos) より成つて居る。而して通貨は不換紙幣である。

其の種類は次のやうである。

金貨

- 一〇「ペソ」(Condor「コンドル」)
- 一〇「ペソ」(Doblon「ドブロン」)
- 五「ペソ」(Escudo「エスクード」)

銀貨

- 一「ペソ」

補貨

- 二〇「セクターヴオス」
- 一〇「セクターヴオス」
- 五「セクターヴオス」

青銅貨

- 二・五「セクターヴオス」
- 二「セクターヴオス」
- 一「セクターヴオス」
- 〇・五「セクターヴオス」

此の國の金貨一「ペソ」は我が七十三錢餘、米貨三十六仙餘、英貨八片に當つて居

然しながら政府及銀行で發行する紙幣は、其の價格が甚だしく低位に在つて、金に對して百分の七十の打歩を要する。即ち金百「ペソ」に對して紙幣は百七十「ペソ」の割合である。先づ我が四十錢見當と見るべきであらう。

法貨としては、金は無制限、銀貨は五十「ペソ」迄である。而して英「ソヴエイン」金貨は此の國の金貨十三「ペソ」三分の一の割合を以て法貨と見做されて居る。

此の國に金本位制の施行されたのは一八九五年であるが、其の實は擧げられては居ない。而して國內には紙幣の流通が盛んで、硬貨は至つて少ないのである。

四 亞爾然丁 (Argentina.)

制度は金本位制であつて、單位を「ペソ」(Peso)或は「アルヘンティノ」(Argen-

種類は即ち左に示す如くである。

とし、百「セクターヴオス」(100 Centavos)より成つて居る。

金貨

五「アルヘンティノス」
二・五「アルヘンティノス」

銀貨

五〇「セクターヴオス」
二〇「セクターヴオス」
一〇「セクターヴオス」

白銅貨

二〇「セクターヴオス」

青銅貨

二「セクターヴオス」
一「セクターヴオス」

此の國の金貨一「アルヘンティノ」の割合は我が一圓九十三錢餘、英貨三志十

一片半(約四志)、米弗貨九十六仙餘に當るが故に、五「アルヘンティノス」の金

貨は我が九圓六十五錢餘、英貨十九志九片半(約二十志即ち一磅)、米弗貨四弗

八十二仙餘に相當する。

次に示す外國貨幣は、下記の割合を以て、此の國に通用されて居る。

外國貨幣

佛蘭西貨幣二〇法	亞國金貨	四・〇 ^{ベツ}
伊太利貨幣二〇「クル」	同	四・〇
白耳義貨幣二〇法	同	四・〇
西班牙貨幣二五「ペセータ」	同	五・〇
同 上 一「ドブロン」	同	五・一六
獨逸貨幣二〇馬克	同	四・九四
英吉利貨幣一磅	同	五・〇四
秘露貨幣五「ソール」	同	五・〇〇
北米合衆國貨幣一〇弗	同	一〇・三六四

伯刺西爾貨幣二〇「ミル・レイス」 亞國金貨一一・三二一

尙此の國に於いては、亞爾然丁國立銀行に依りて銀行券が發行されて、一般の公納に用ゐられ、他に政府紙幣があつて、主なる通貨とされて居る。政府紙幣の價格は、一八九九年の法律に依りて、金貨「ペソ」の四割四分即ち金貨一「ペソ」につき四十四「センチターヴァス」の割合と定められ、金貨百「ペソ」に對して百二十七「ペソ」二七の打歩を要するからして、金貨百「ペソ」は紙幣二百二十七「ペソ」に當る。

即ち此の國では金本位制を採用して居ても、通貨は不換紙幣であることは、智利の場合と同様である。

尙此の國の法貨は、金貨は無制限であるが、銀貨にありては十「ペソ」を限度とする。然し銀貨を法貨として受取ることとは一般に好まれて居らぬ。

五 伯刺西爾 (Brasil.)

金本位制を制度として居る。單位は「ミル・レイス」(Milreis)にして、千「レイス」(1000 Reis) より成つて居る。其の種類を舉げれば次の如くである。

金貨

二〇「ミル・レイス」
一〇「ミル・レイス」
五「ミル・レイス」

銀貨

二「ミル・レイス」
(舊) 一「ミル・レイス」

補助銀貨

〇・五〇〇「レイス」
(舊) 〇・二〇〇「レイス」

〇・二〇〇「レイス」

白銅貨

〇・一〇〇「レイス」

〇・〇五〇「レイス」

〇・〇四〇「レイス」

銅銀

〇・〇二〇「レイス」

〇・〇一〇「レイス」

金貨

「ミル・レイス」

は我が一圓九錢六厘、英貨二十六片餘、北米貨五十四仙餘

に當つて居る。

紙幣

「ミル・レイス」

は低位に在つて、一九〇九年六月に於いて米貨三十仙七二を

價した。

平均して我が六十五錢位を相場とする。

政府紙幣は一九〇八年二月末六億

四千二百九十六萬三千「ミル・レイス」の巨額に達した。

尙銀行券は伯刺西爾銀行に

依つて發行され、各種の納税に用ゐられて居る。

而して此の國に於ける主なる通貨の不換紙幣と銀貨とであることは、亞國と何等

の變りがない。

の變りがない。

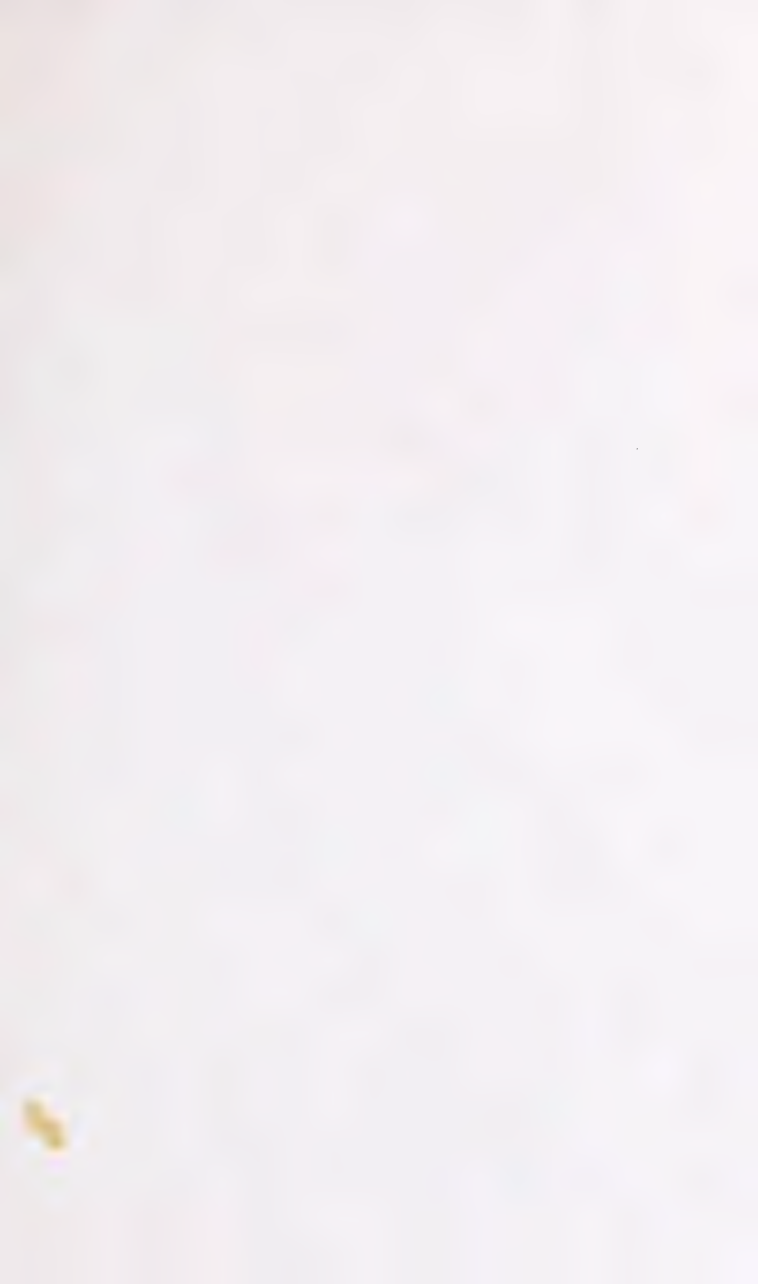
の變りがない。

尙法貨^{しやうほくわ}としては、金貨^{きんくわ}は無論無制限^{むげんせいげん}であるが、銀貨^{ぎんくわ}は二十「ミル・レイス」を以て限度^{げんどう}とする。

—
附
錄
終
—

MADE IN JAPAN





國象合加利米亞

加利米亞南

一之分万百七千四尺縮

500 500 1000 1500 米

海シキメ

島諸度印西

加利米亞央中

太

太

平

洋

洋

例 凡

- | | | |
|---|---|---|
| 府 | 首 | ○ |
| 邑 | 都 | — |
| 界 | 國 | — |
| 道 | 鐵 | — |
| 路 | 航 | — |



大 大 大 大 大 大 大 大
 正 正 正 正 正 正 正 正
 九 八 七 七 六 五 四 四
 年 年 年 年 年 年 年 年
 三 四 十 五 六 七 六 六
 月 月 月 月 月 月 月 月
 廿 廿 一 十 五 廿 七 十
 日 日 日 日 日 日 日 日
 五 三
 日 日
 九 八 七 六 五 四 三 二
 版 版 版 版 版 版 版 版

不許複製製

定價十八錢

發行所

東京市京橋區南紺屋町十二番地

實業之日本社

電 京 八七四、八七五、八七六、九八九
 振替貯金口座東京 參 貳 六

著 者 富 田 謙 一

發 行 者 增 田 義 一

東京市京橋區南紺屋町十二番地

印 刷 者 笠 間 音 次

東京市芝區愛宕町三丁目二番地

□ 小學 おさらひの仕方 三十版 東京兩高等師範 學校教官十六名 共著 定價 七十五錢 郵稅 六十五錢 四六判全一冊

□ 模範 讀方 獨習 五版 東京女子高師教官 忠吉先生著 定價 五十五錢 郵稅 六十五錢 四六判全一冊

□ 模範 算術 獨習 十七版 東京女子高師教官 忠吉先生著 定價 五十五錢 郵稅 六十五錢 四六判全一冊

□ 笑ひながら 正式の算術 二十版 中村 八郎先生著 定價 六十五錢 郵稅 六十五錢 四六判全一冊

□ 笑ひながら 中等算術 二冊 五版 中村 八郎先生著 上卷 八十五錢 下卷 八十五錢 定價 八十五錢 郵稅 八十五錢 四六判全一冊

□ 實能 書術 十三版 西脇 吳石先生著 定價 七十錢 郵稅 六十錢 四六判全一冊

□ 桂月學生文範 二冊 上再版 下再版 大町 桂月先生著 定價 各冊一圓 郵稅 各冊八錢 三六判總布

□ 校歌ローマンス 八版 定價 六十五錢 郵稅 六十五錢 三六判總布

□ 神秘 探偵 外相の奇病 再版 永代靜雄先生著

四郵定 六稅價 判六九 美十 本錢錢

□ ニコく 双紙 四版 小學男生主筆 松山思水先生著

四郵定 六稅價 判六七 美十 本錢錢

□ 世界童話集 東洋の卷 三版 萩野博士序 榎本秋村先生著

四郵定 六稅價 判八一 圓卅 美 本錢錢

□ 世界童話集 西洋の卷 再版 萩野博士序 榎本秋村先生著

四郵定 六稅價 判八一 圓卅 美 本錢錢

□ お伽夜話 九版 幼年の友主筆 岩下小葉先生著

四郵定 六稅價 判六八 美十 本錢錢

□ 訂正 增補 優等學生勉強法 十五版 實業之日本社編

三郵定 六稅價 判四四 美十 本錢錢

□ 名士 實話 青年勉強法 再版 實業之日本社編

菊郵定 六稅價 判一圓 卅五 美 本錢錢

□ 各種 職業 青年無學資 立身法 再版 實業之日本社編

四郵定 六稅價 判八一 圓十 美 本錢錢

□ 少女の物語品切 幼年の友主筆 岩下小葉先生著 定郵四 價稅六 判四三十五 美錢本

□ 少女の音版 澁澤青花先生著 定郵四 價稅六 判六八十 美錢本

□ オ ト ギ三版 坪内博士補修 矢口達先生著 定郵四 價稅六 判六八十 美錢本

□ 繪入 小唄集 どんたく 廿二版 竹久夢二先生著 定郵四 價稅六 判四七十 美錢本

□ 繪入 小唄集 青い船 再版 竹久夢二先生著 定郵四 價稅六 判八一 美錢本

□ 他に例のない 面白い家庭の遊戲 四版 中村八郎先生著 定郵小 價稅二 總六 布十 製錢錢

□ 少女讀本 再版 村井弦齋先生著 定郵四 價稅六 倍十一 判二 美錢本

□ 我が子の小唄教育 三版 商學士 麓三郎先生著 定郵四 價稅六 判六九十 美錢本



140048

**University of California Library
Los Angeles**

This book is DUE on the last date stamped below.

RECEIVED
SEP 15 1996

JUN 08 1996

East Asian Library



THE LIBRARY
OF
THE UNIVERSITY
OF CALIFORNIA
LOS ANGELES

Oriental
Lib.
JV
8721
Z8T65
J